

令和2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和3年度調査）の
報告案について

- かかりつけ歯科医機能の評価や歯科疾患管理料の評価の見直しの影響及び歯科疾患の継続的管理等の実施状況調査（右下頁）

・報告書（案）	1頁
・NDBデータ	111頁
・調査票	113頁

令和2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和3年度調査）

かかりつけ歯科医機能の評価や歯科疾患管理料の評価の
見直しの影響及び歯科疾患の継続的管理等の実施状況調査

報告書（案）

◆◆目次◆◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	2
4. 調査項目	2
5. 調査検討委員会	5
II. 調査の結果	6
1. 回収結果	6
2. 施設調査	7
(1) 施設の概要（令和3年7月1日現在）	7
(2) 歯科診療の実施体制および診療患者等について.....	24
(3) 歯科診療に関する診療料および加算の算定状況等.....	29
(4) 多職種連携に関する取組等.....	60
(5) 新型コロナウイルス感染症に伴う医療提供状況等の変化.....	63
(6) 明細書の無料発行について.....	74
3. 患者調査	79
(0) 調査票の記入者.....	79
(1) 患者属性	80
(2) かかりつけ歯科医について.....	85
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による受療行動の変化等について.....	94
(4) 調査日における明細書の受取状況と明細書の受取に対する考えについて.....	103

I. 調査の概要

1. 目的

令和2年度診療報酬改定において、歯科医療機関における院内感染防止対策を推進する観点から、歯科初診料及び歯科再診料の引き上げを行うとともに、院内感染防止対策に関する施設基準についての見直しを行った。

また、歯科疾患の重症化予防に関する継続的な管理を推進するため、歯科疾患管理料の初診の属する月及び長期管理時の評価の見直しを行うとともに、歯周病安定期治療の対象となっていない歯周病を有する患者に対する評価を新設した。

これらの見直しを踏まえ、歯科疾患の継続的管理の状況やかかりつけ歯科医機能等を検証するため調査を行う。

2. 調査対象

本調査では、「施設票」、「患者票」の2つの調査を実施した。各調査の対象（抽出方法）は、次のとおりであった。

施設票は、下表の歯科診療所を無作為に抽出して調査対象とした。

患者票は、施設票の調査対象となった歯科診療所に対し、下表の条件に沿って1施設あたり患者最大2名を無作為抽出し、対象患者に歯科診療所より直接調査票を手渡し、記入を求める形式とした。

また、調査実施時期は、令和3年8月から9月であった。

調査の種類	調査対象		
	条件	調査件数	抽出方法
施設調査	①かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所	2,000 施設	無作為
	②かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外の歯科診療所	1,000 施設	
患者調査	①かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の受診患者で歯科疾患管理料を算定した患者	(最大) 4,000 名	上記施設から2名
	②かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外の歯科診療所の受診患者で歯科疾患管理料を算定した患者	(最大) 2,000 名	

3. 調査方法

本調査は、郵送発送による自記式アンケート調査方式により実施した。

施設票の回答は、紙媒体（ID を印字した調査票）に記入後、郵送返送する方法と、回答者の負担軽減のため、専用ホームページより電子調査票をダウンロードし、入力の上、メールへの添付により返送する方法から選択できるようにした。

患者票は、対象患者に歯科診療所より調査票を手渡し、自記にて記入を求める形式とし、回答後の調査票は、直接郵送返送する方法とした。

4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

《施設票》

設問	主な調査項目
1. 概要	①開設主体
	②標榜診療科
	③管理者の年齢
	④医科の医療機関の併設状況
	⑤同一建物内または同一敷地内の施設・事業所
	⑥施設の歯科医師が所属している日本歯科医学会の専門分科会
	⑦診療報酬明細書（レセプト）の媒体
	⑧他の医療機関等と情報共有・連携を行うための ICT（情報通信技術）の活用有無、種類
	⑨歯科外来等感染症対策実施加算の有無
	⑩施設基準（届出のあるもの）、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出について
2. 歯科診療の実施体制および診療患者等	①職員数
	②医療機器等の保有台数、保有の有無
	③令和3年6月の1か月間における、条件に該当する患者実人数
	④令和3年6月の1か月間における、患者実人数の年齢別の割合（およその値）
	⑤週あたりのおおよその診療時間
3. 歯科診療に関する診療料及び加算管理料の算定状況等	①院内感染防止対策として別に厚生労働大臣が定める施設基準（歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準）について
	②機器等の滅菌の体制
	③歯科疾患管理料の算定状況等
	④小児口腔機能管理料の算定回数等
	⑤口腔機能管理料の算定回数等
	⑥歯科治療時医療管理料の算定回数等
	⑦その他の算定回数等

4. 多職種連携に関する取組等	①医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等の状況
	②介護保険施設等との連携状況
	③地域における在宅医療・介護推進に係る取組内容
5. 新型コロナウイルス感染症に伴う医療提供状況等の変化について	①緊急事態宣言期間における新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化の有無
	②緊急事態宣言以降における新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化
	③令和元年～3年の4～6月における、診療した患者数、診療報酬明細書の件数
	④新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、業務的負担の状況
	⑤新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、経済的負担の状況
	⑥接触感染や飛沫感染に対する対策の実施状況
	⑦その他、新型コロナウイルス感染症や緊急事態宣言に伴う受療行動の変化や患者への健康影響等
	⑧自治体等が実施する新型コロナウイルス感染症に関する事業への協力状況
6. 明細書の無料発行について	①明細書の発行状況

《患者票》

設問	主な調査項目
-	調査票記入者
1. 患者情報	①性別
	②年齢
	③居住地（都道府県）
	④本日受診している歯科診療所への通院頻度
	⑤本日受診している歯科診療所で、これまでに受けたことのある治療
	⑥本日、歯科医師もしくは歯科衛生士から受けた治療などの内容
2. かかりつけ歯科医について	①「かかりつけ歯科医」という言葉の認知
	②かかりつけ歯科医の有無
	③かかりつけ歯科医に求めるもの
	④この歯科診療所を選んだ理由
	⑤この歯科診療所に次回受診する日時の決定状況
	⑥「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の認知
3. 新型コロナウイルス感染症の影響	①新型コロナウイルス感染症の影響による、受療行動の変化の有無
	②受療行動の変化の内容
	③（歯科診療所を変更した場合）変更した理由

による受療行動の変化等について	④（受診頻度が減った場合）減った理由
	⑤（受診頻度が増えた場合）増えた理由
	⑥（受診を控えた場合）控えた間、どのように対処したか
	⑦（受診を控えた場合）控えた結果、どうなったか
	⑧新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、歯科診療所に求めること
4. 本日の明細書の受取状況と、明細書の受取に対する考え	①本日の診療についての明細書の内容を確認したか
	②医療機関での会計の際に明細書を受け取れることを知っていたか
	③医療機関を受診して会計を行う際に、明細書を原則無料で受け取れる制度について、どのように思うか
	④明細書の内容を確認することで、どのようなことに役立つと思うか

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下のとおり、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

稲葉 孝夫 稲葉歯科医院

大杉 和司 医療法人大杉歯科医院

○関 ふ佐子 横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授

高品 和哉 高品歯科医院

恒石 美登里 日本歯科医師会 日本歯科総合研究機構 主任研究員

【オブザーバー】

永瀬 伸子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 教授

II. 調査の結果

1. 回収結果

各調査票の回収結果は以下のとおりであった。

	①発送数	②回収数	③回収率 (②/①)	④有効 回答数	⑤有効 回答率 (④/①)
施設票					
かかりつけ歯科医機能 強化型歯科診療所	2,000	1,100	55.0%	1,080	54.0%
上記以外の歯科診療所	1,000	449	44.9%	433	43.3%
患者票					
かかりつけ歯科医機能 強化型歯科診療所	(最大) 4,000	1,618	—	1,591	—
上記以外の歯科診療所	(最大) 2,000	587	—	563	—

2. 施設調査

【調査対象等】

調査対象：全国のかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の中から無作為抽出した
2,000 施設、その他の歯科診療所 1,000 施設の合計 3,000 施設

有効回答数：計 1,513 施設

回答者：管理者

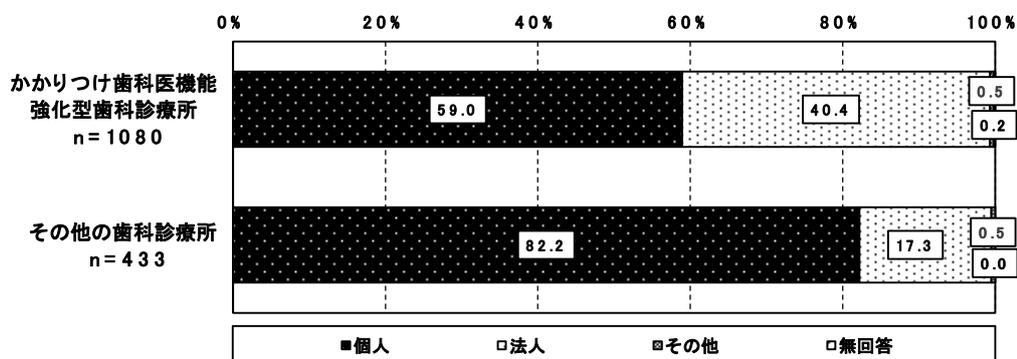
(1) 施設の概要（令和3年7月1日現在）

① 開設主体

開設主体は、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「個人」が 59.0%、「法人」が 40.4%、「その他」0.5%であった。その他の歯科診療所では「個人」が 82.2%、「法人」17.3%、「その他」0.5%であった。

なお、「その他」の開設主体としては市町村等があげられた。

図表 2-1 開設主体

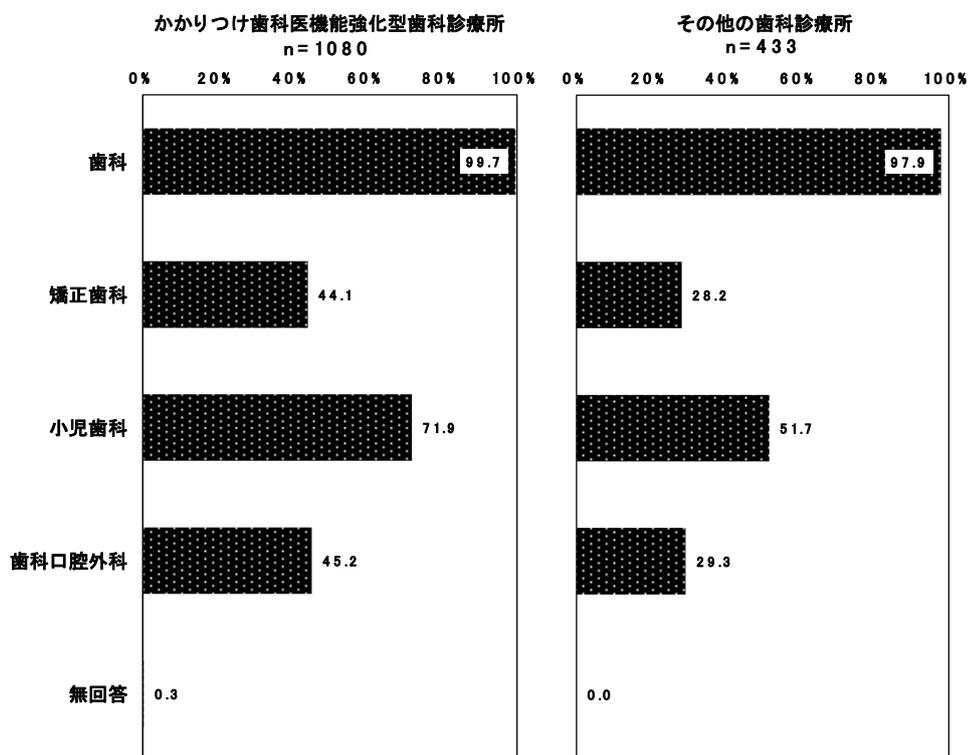


② 標榜診療科

標榜診療科は、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「歯科」が99.7%で最も多く、次いで「小児歯科」が71.9%、「歯科口腔外科」が45.2%であった。

その他の歯科診療所でも「歯科」が97.9%で最も多く、次いで「小児歯科」が51.7%、「歯科口腔外科」が29.3%であった。

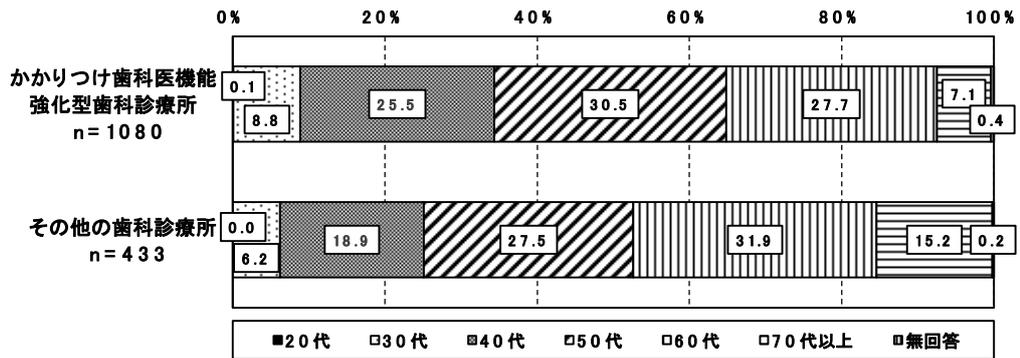
図表 2-2 標榜診療科（複数回答）



③ 管理者の年齢

管理者の年齢は、次のとおりであった。

図表 2-3 管理者の年齢

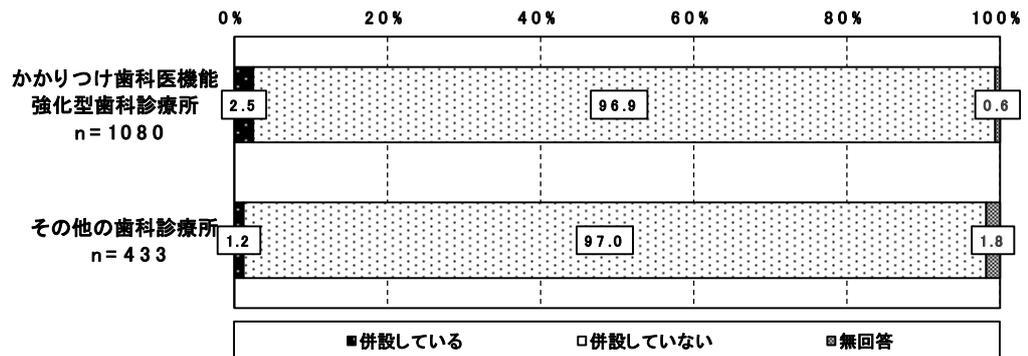


④ 医科の医療機関の併設状況

医科の医療機関の併設状況を見ると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「併設している」が2.5%、「併設していない」が96.9%であった。

その他の歯科診療所では「併設している」が1.2%、「併設していない」が97.0%であった。

図表 2-4 医科の医療機関の併設状況

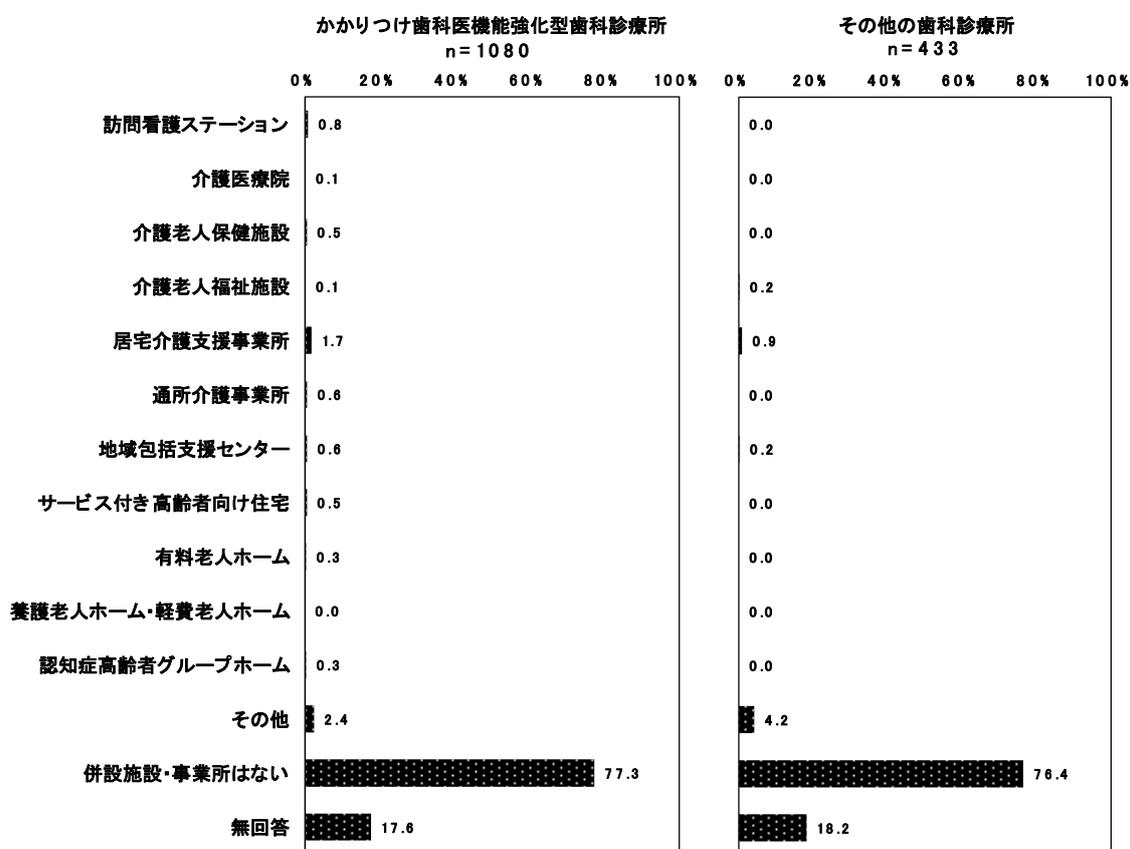


⑤ 同一建物内または同一敷地内の施設・事業所

自院と同一建物内または同一敷地内の施設・事業所をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所及びそれ以外の診療所のいずれにおいても「併設施設・事業所はない」が最も多かった（それぞれ 77.3%、76.4%）。

なお、その他の施設・事業所としては、内科等の医科医療機関、歯科技工所、指定居宅サービス事業者、就労継続支援 A 型事業所などがあげられた。

図表 2-5 同一建物内または同一敷地内の施設・事業所（複数回答）



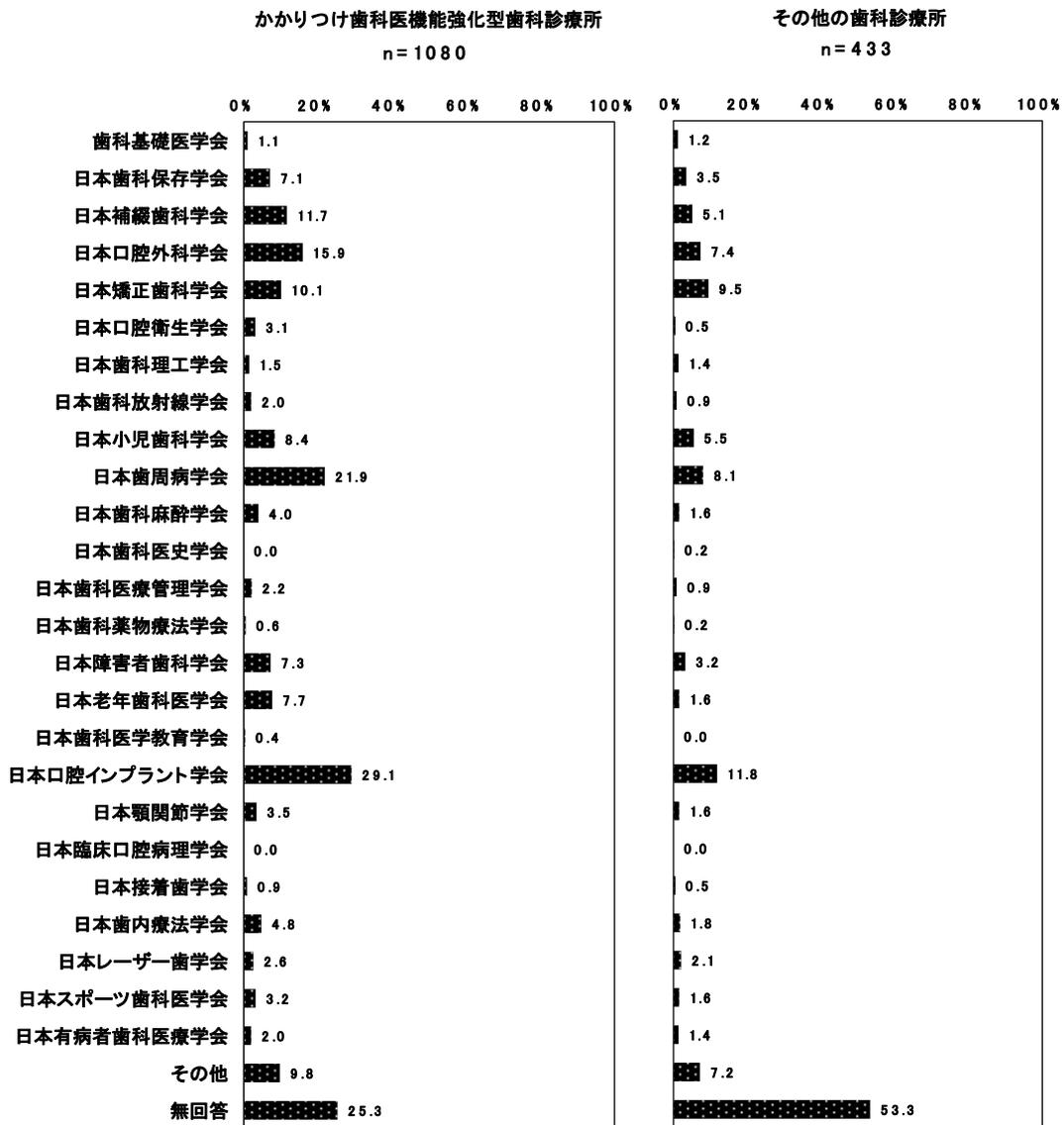
⑥ 歯科医師が所属している日本歯科医学会の専門分科会

歯科医師が所属している日本歯科医学会の専門分科会をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では、「日本口腔インプラント学会」が29.1%で最も多く、次いで「日本歯周病学会」が21.9%、「日本口腔外科学会」が15.9%であった。

その他の歯科診療所では、「日本口腔インプラント学会」が11.8%で最も多く、次いで「日本矯正歯科学会」が9.5%、「日本歯周病学会」が8.1%であった。

なお、その他の内容としては、日本顎咬合学会、日本臨床歯周病学会等があげられた。

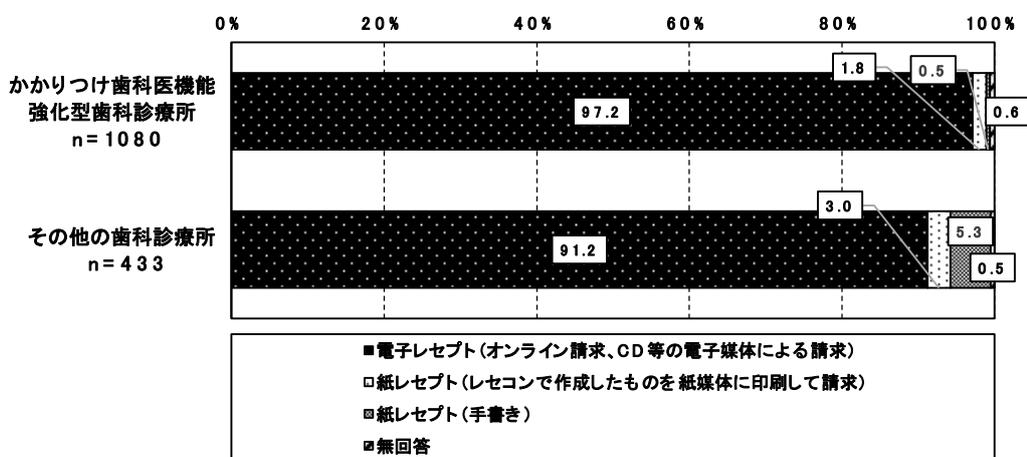
図表 2-6 歯科医師が所属している日本歯科医学会の専門分科会（複数回答）



⑦ 診療報酬明細書（レセプト）の媒体

診療報酬明細書（レセプト）の媒体をみると、回答のあった施設のうち、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「電子レセプト」が97.2%、「紙レセプト（レセコンで作成したものを紙媒体に印刷して請求）」が1.8%、「紙レセプト（手書き）」が0.5%であった。その他の歯科診療所では、「電子レセプト」が91.2%、「紙レセプト（レセコンで作成したものを紙媒体に印刷して請求）」が3.0%、「紙レセプト（手書き）」が5.3%であった。

図表 2-7 診療報酬明細書（レセプト）の媒体

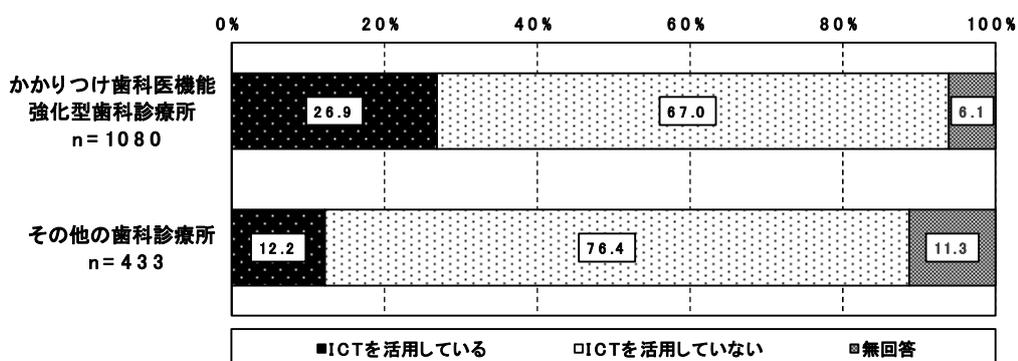


⑧ 他の医療機関等と情報共有・連携を行うための ICT（情報通信技術）の活用有無、種類

他の医療機関等と情報共有・連携を行うための ICT（情報通信技術）の活用有無をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「ICTを活用している」が 26.9%、「ICTを活用していない」が 67.0%であった。その他の歯科診療所では、「ICTを活用している」が 12.2%、「ICTを活用していない」が 76.4%であった。

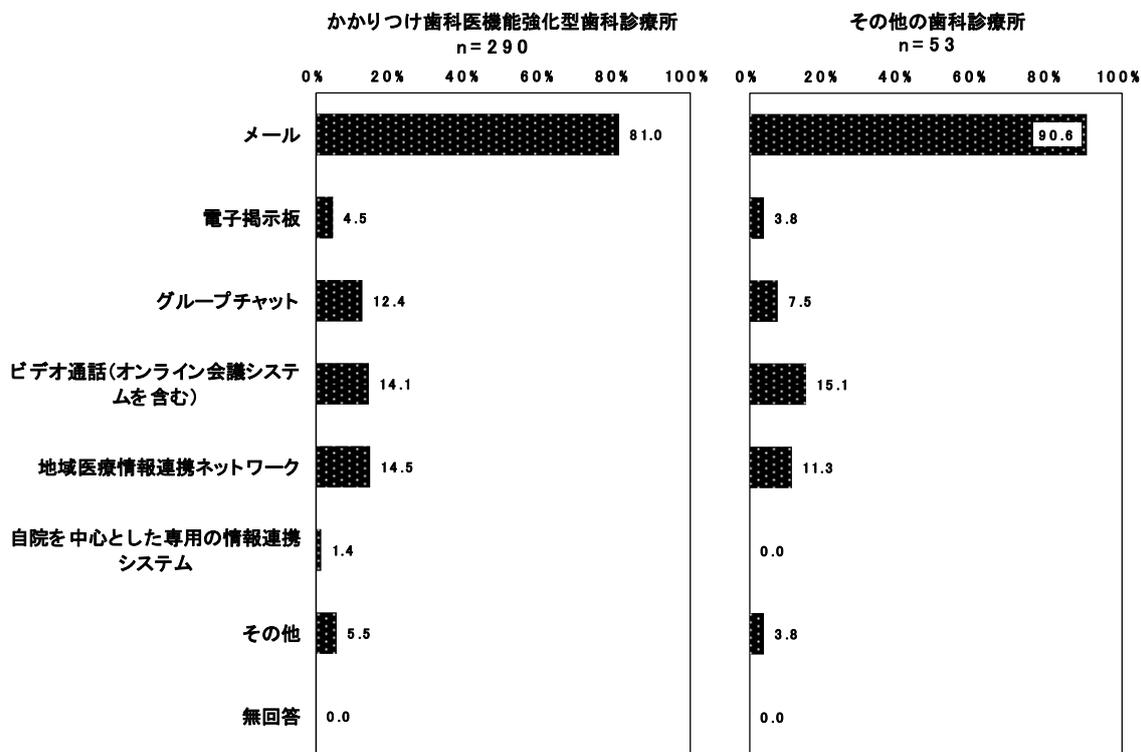
ICTを活用している場合の、活用している ICT の種類をみると、「メール」が最も多く、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所で 81.0%、その他の歯科診療所で 90.6%であった。

図表 2-8 他の医療機関等と情報共有・連携を行うための ICT の活用有無



【ICT（情報通信技術）を活用している場合】

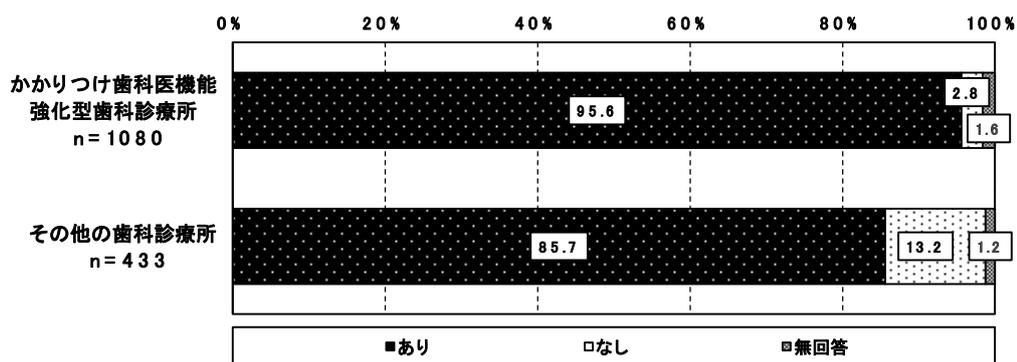
図表 2-9 活用している ICT の種類（複数回答）



⑨ 歯科外来等感染症対策実施加算の有無

歯科外来等感染症対策実施加算の有無をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「あり」が95.6%、「なし」が2.8%であった。その他の歯科診療所では「あり」が85.7%、「なし」が13.2%であった。

図表 2-10 歯科外来等感染症対策実施加算の有無

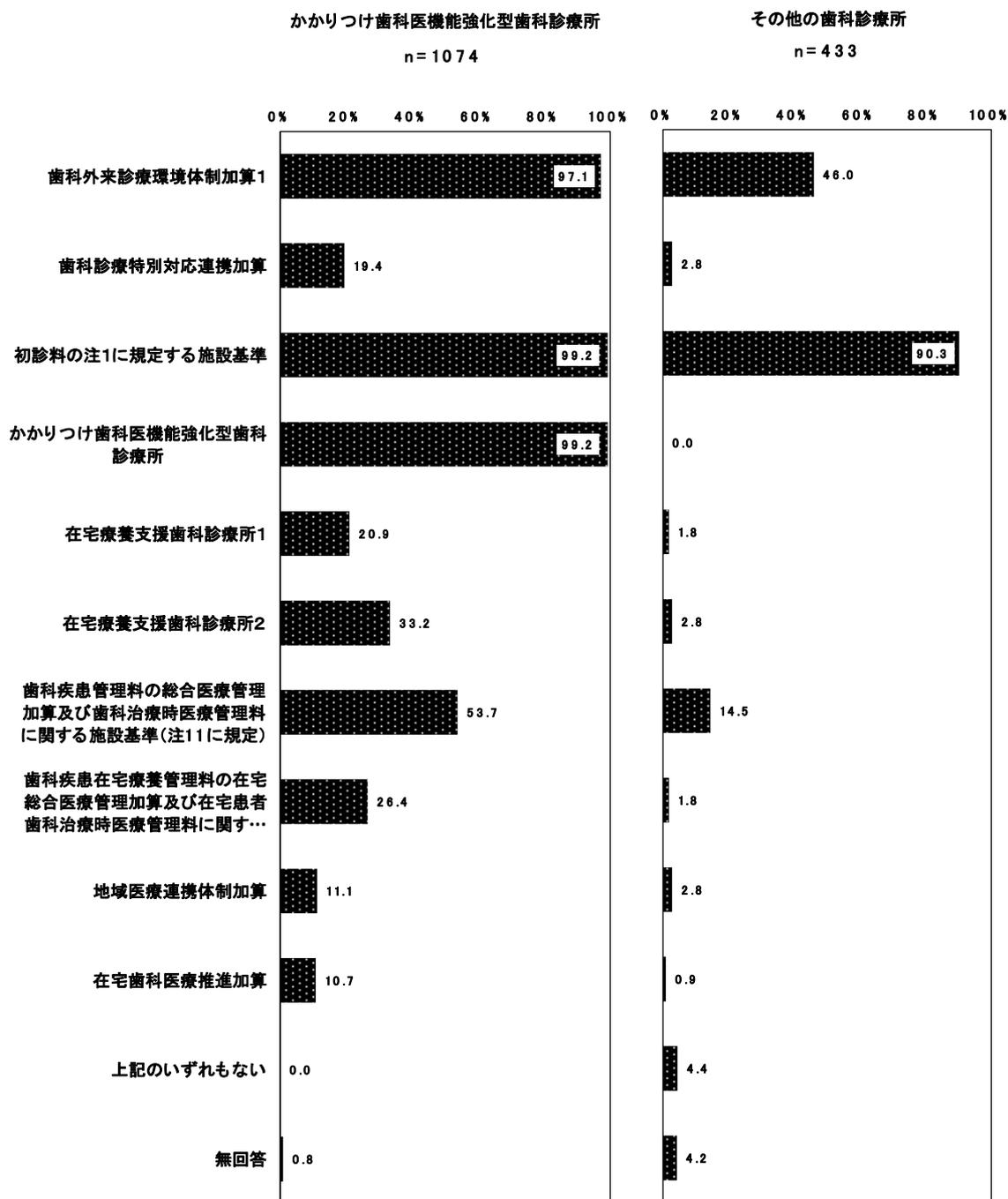


⑩ 施設基準（届出のあるもの）

施設基準（届出のあるもの）をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」、「初診料の注1に規定する施設基準」を除くと「歯科外来診療環境体制加算1」が97.1%で最も多かった。

また、その他の歯科診療所では、「初診料の注1に規定する施設基準」が90.3%で最も多く、次いで「歯科外来診療環境体制加算1」が46.0%であった。

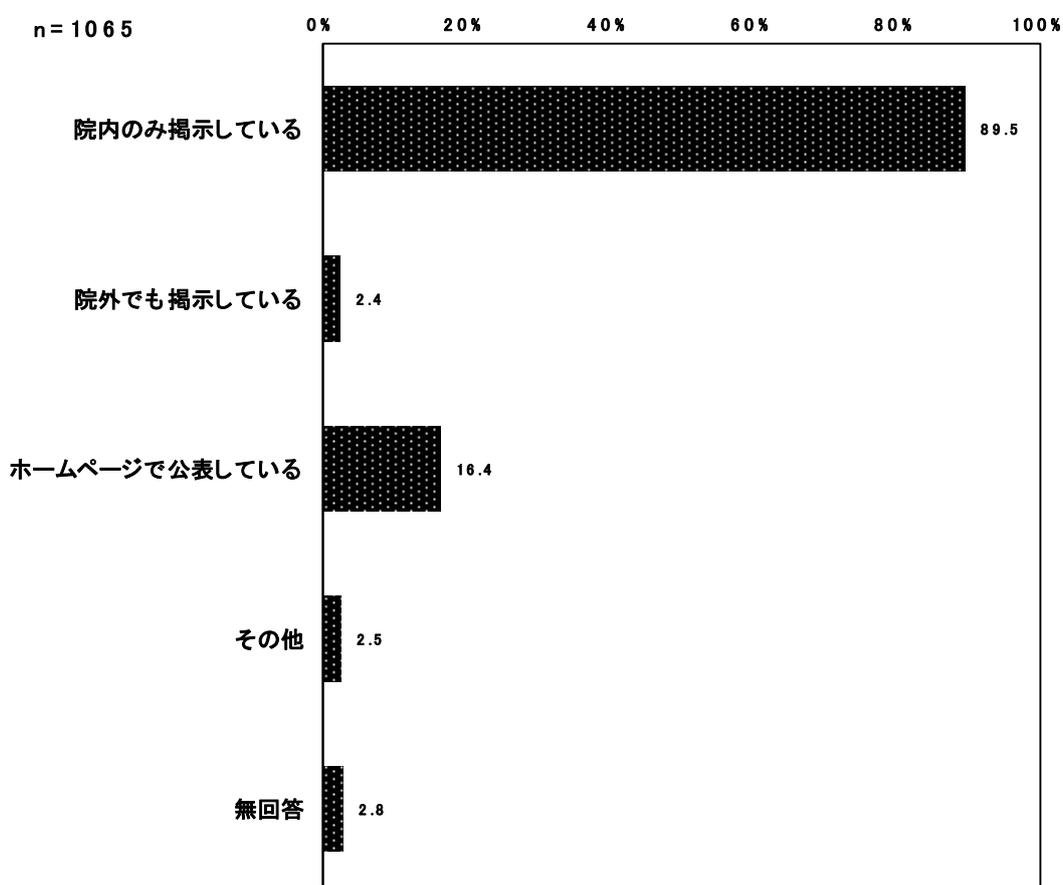
図表 2-11 届出のある施設基準（複数回答）



⑩-1 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であることの周知方法
(⑩で「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を選択した場合のみ集計)

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所である場合の周知方法についてみると、「院内のみ掲示している」が89.5%で最も多く、次いで「ホームページで公表している」が16.4%であった。

図表 2-12 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であることの周知方法
(複数回答)

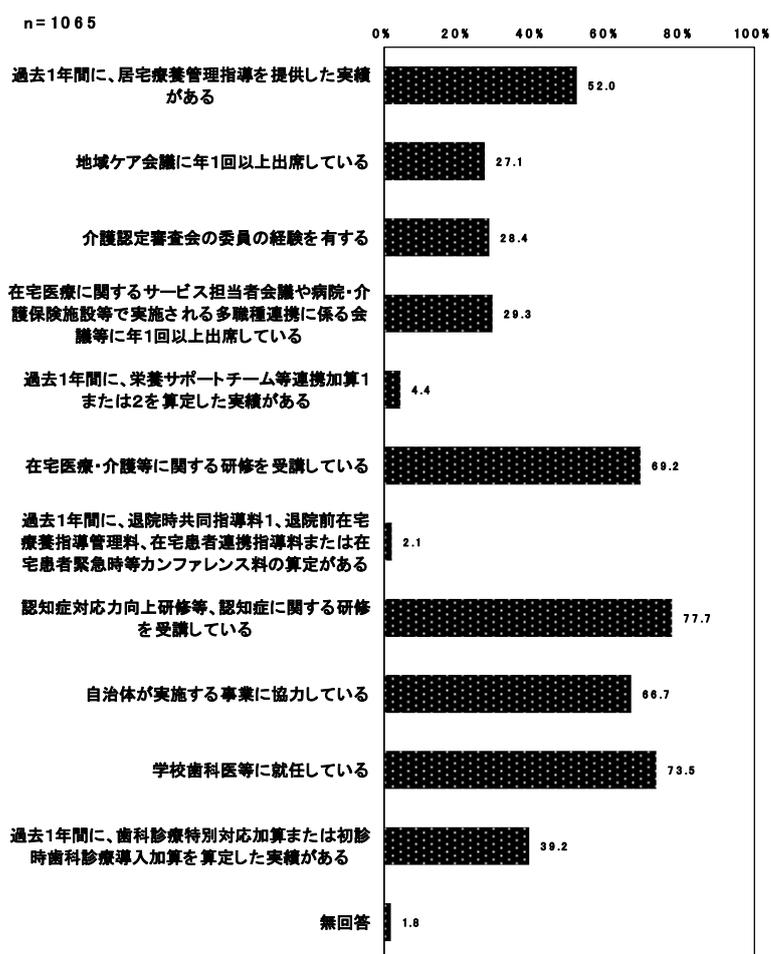


⑩-2 歯科疾患の重症化予防に資する継続管理に関する研修（口腔機能の管理を含む）、高齢者の心身の特性及び緊急時対応等の適切な研修を修了した歯科医師について該当する項目

（⑩で「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を選択した場合のみ集計）

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所について、研修を修了した歯科医師について該当する項目をみると、「認知症対応力向上研修等、認知症に関する研修を受講している」が77.7%で最も多く、次いで「学校歯科医等に就任している」が73.5%、「在宅医療・介護等に関する研修を受講している」が69.2%であった。

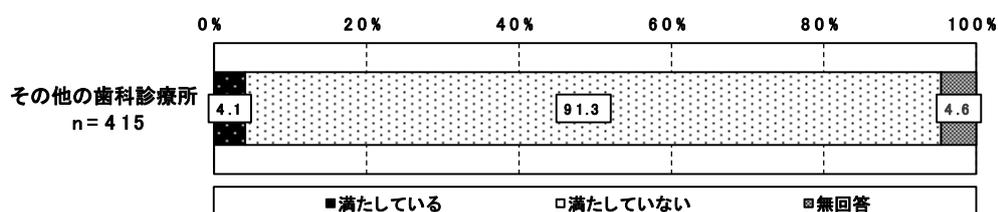
図表 2-13 歯科疾患の重症化予防に資する継続管理に関する研修、高齢者の心身の特性及び緊急時対応等の適切な研修を修了した歯科医師について該当する項目（複数回答）



⑩-3 現時点の「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準の充足状況
 (⑩で「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を選択していない場合のみ集計)

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所でない歯科診療所の、調査時点での「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準の充足状況を見ると、「満たしている」が4.1%、「満たしていない」が91.3%であった。

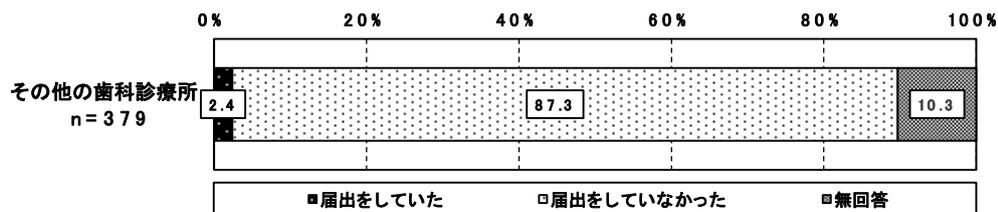
図表 2-14 現時点の「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準の充足状況



⑩-4 以前の「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の届出状況
 (⑩-3で「満たしていない」を選択した場合のみ集計)

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所でない歯科診療所で、以前は「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の届出をしていたかについてみると、「届出をしていた」が2.4%、「届出をしていなかった」が87.3%であった。

図表 2-15 以前の「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の届出状況

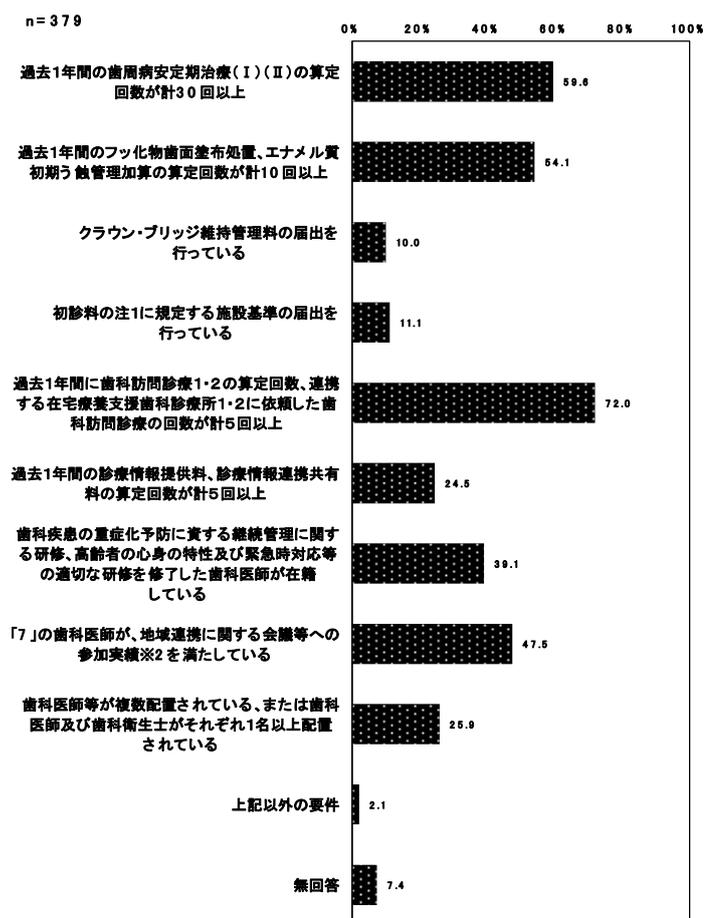


⑩-5 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について、現時点で不足している要件

(⑩-3で「満たしていない」を選択した場合のみ集計)

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所でない歯科診療所の、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について調査時点で不足している要件についてみると、「過去1年間に歯科訪問診療1・2の算定回数、連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数が計5回以上」が72.0%で最も多く、次いで「過去1年間の歯周病安定期治療（Ⅰ）（Ⅱ）の算定回数が計30回以上」が59.6%、「過去1年間のフッ化物歯面塗布処置、エナメル質初期う蝕管理加算の算定回数が計10回以上」が54.1%であった。

図表 2-16 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について、現時点で不足している要件（複数回答）

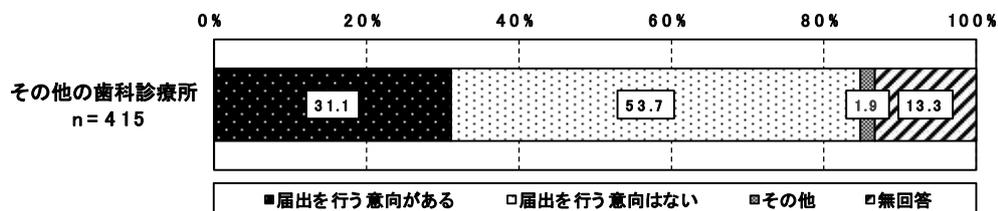


⑩-6 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の届出に関する今後の意向
 (⑩で「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を選択していない場合のみ
 集計)

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所でない歯科診療所の、「かかりつけ
 歯科医機能強化型歯科診療所」の届出に関する今後の意向についてみると、
 「届出を行う意向がある」が31.1%、「届出を行う意向はない」が53.7%、
 「その他」1.9%であった。

届出を行う意向がない理由としては、施設基準を満たすことが難しい、歯科
 衛生士の雇用予定がないため、スタッフが少ないため等があげられた。

図表 2-17
 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の届出に関する今後の意向



(2) 歯科診療の実施体制および診療患者等について

① 職員数

職員数についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の「歯科医師」は常勤が平均 1.8 人、非常勤が平均 0.7 人であり、「歯科衛生士」は常勤が平均 3.1 人、非常勤が 1.2 人であった。

その他の歯科診療所の「歯科医師」は常勤が平均 1.2 人、非常勤が平均 0.3 人であり、「歯科衛生士」は常勤が 1.3 人、非常勤が平均 0.6 人であった。

図表 2-18 職員数〈かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所〉

n=1077 (単位：人)

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師	1.8	1.5	1	0.7	1.6	0
歯科衛生士	3.1	3.0	2	1.2	1.5	1
歯科技工士	0.3	0.9	0	0.1	0.2	0
専門職種（看護師、言語聴覚士、管理栄養士等）	0.1	0.6	0	0.0	0.2	0
その他（歯科助手を含む事務職）	2.2	2.5	2	0.9	1.4	0

※常勤歯科医師数 1 以上の施設のみを集計している。

図表 2-19 職員数〈その他の歯科診療所〉

n=428 (単位：人)

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師	1.2	0.5	1	0.3	0.8	0
歯科衛生士	1.3	1.8	1	0.6	1.0	0
歯科技工士	0.1	0.4	0	0.0	0.1	0
専門職種（看護師、言語聴覚士、管理栄養士等）	0.0	0.2	0	0.0	0.1	0
その他（歯科助手を含む事務職）	1.4	1.4	1	0.6	1.2	0

※常勤歯科医師数 1 以上の施設のみを集計している。

② 医療機器等の保有台数、保有の有無

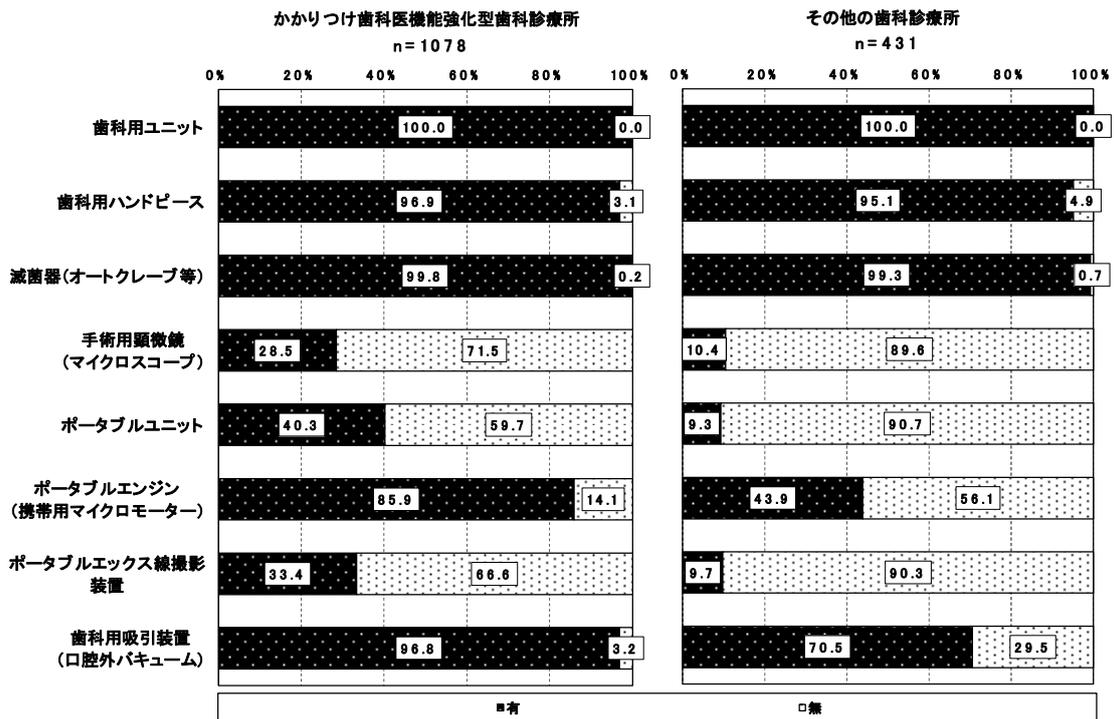
各医療機器等の保有台数、保有の有無は次のとおりであった。

図表 2-20 医療機器等の保有台数

	n=1078			n=431			(単位:台)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所	その他の歯科診療所					
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
歯科用ユニット	5.0	2.9	4	3.4	1.5	3	3
歯科用ハンドピース	34.9	28.0	30	21.9	16.5	20	20
滅菌器(オートクレーブ等)	2.0	1.0	2	1.5	0.7	1	1
手術用顕微鏡(マイクロスコープ)	0.4	1.0	0	0.1	0.4	0	0
ポータブルユニット	0.5	0.9	0	0.1	0.4	0	0
ポータブルエンジン(携帯用マイクロモーター)	1.2	1.0	1	0.6	1.0	0	0
ポータブルエックス線撮影装置	0.4	0.7	0	0.1	0.3	0	0
歯科用吸引装置(口腔外バキューム)	2.5	2.4	1	1.3	1.3	1	1

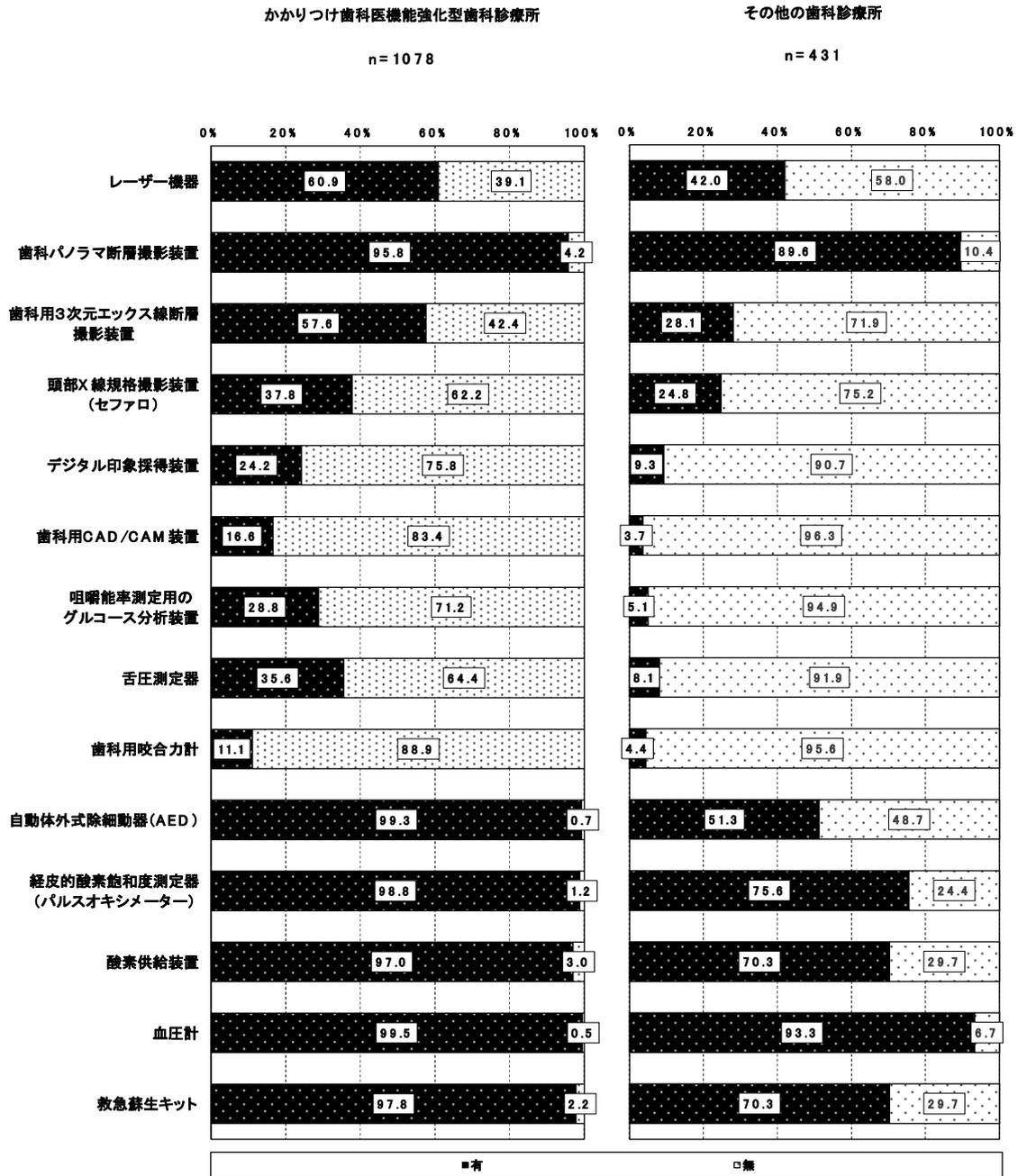
※「歯科用ユニット」が1以上と回答した施設のみを集計している。

図表 2-21 医療機器等の保有有無(台数を設問した項目)



※数値が「1以上」と回答した施設を「有」として集計している。

図表 2-22 医療機器等の保有有無（有無を設問した項目）



③ 他の医療機関からの紹介を受けた患者実人数等（令和3年6月）

他の医科医療機関から紹介を受けた患者数についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では平均1.8人、その他の歯科診療所では平均1.6人であった。

また、他の歯科医療機関から紹介を受けた患者数についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では平均0.9人、その他の歯科診療所では平均0.6人であった。

図表 2-23 他の医療機関からの紹介を受けた患者実人数等
〈かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所〉

(単位：人)

	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			
	調査数	平均値	標準偏差	中央値
他の医科医療機関から6月中に紹介を受けた患者数 (実人数)	n=768	1.8	25.9	0
他の歯科医療機関から6月中に紹介を受けた患者数 (実人数)	n=776	0.9	2.6	0
妊婦の患者数(実人数)	n=685	2.2	2.9	1
初診料を算定した患者数(実人数)	n=822	121.0	132.5	84
うち、初診料算定以前に受診歴のある(再初診の) 患者数(実人数)	n=825	88.9	117.7	53

図表 2-24 他の医療機関からの紹介を受けた患者実人数等
〈その他の歯科診療所〉

(単位：人)

	その他の歯科診療所			
	調査数	平均値	標準偏差	中央値
他の医科医療機関から6月中に紹介を受けた患者数 (実人数)	n=339	1.6	18.4	0
他の歯科医療機関から6月中に紹介を受けた患者数 (実人数)	n=339	0.6	2.1	0
妊婦の患者数(実人数)	n=326	1.0	1.9	0
初診料を算定した患者数(実人数)	n=322	76.6	71.0	57
うち、初診料算定以前に受診歴のある(再初診の) 患者数(実人数)	n=324	58.5	60.5	40

④ 患者実人数の年齢別のおよその割合（令和3年6月）

患者実人数の年齢別の割合についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「15歳～65歳未満」が平均45.8%で最も多く、次いで「65歳～75歳未満」が平均20.9%であった。

その他の歯科診療所でも「15歳～65歳未満」が平均44.9%で最も多く、次いで「65歳～75歳未満」が平均22.9%であった。

図表 2-25 患者実人数の年齢別の割合

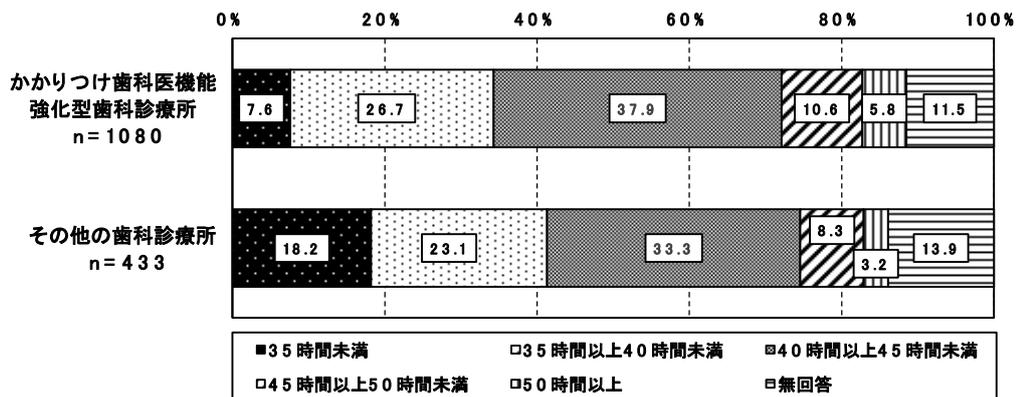
	n=943			n=369			(単位：%)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			その他の歯科診療所			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
15歳未満の患者の割合	13.1	10.3	10	11.1	14.3	8	
15歳～65歳未満の患者の割合	45.8	15.5	46	44.9	19.4	45	
65歳～75歳未満の患者の割合	20.9	10.3	20	22.9	13.2	20	
75歳以上の患者の割合	20.2	12.9	19	21.2	15.7	20	

⑤ 週あたりの診療時間（標榜診療時間）

週あたりの標榜診療時間についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「40時間以上45時間未満」が37.9%で最も多く、次いで「35時間以上40時間未満」が26.7%であった。

その他の歯科診療所でも「40時間以上45時間未満」が33.3%で最も多く、次いで「35時間以上40時間未満」が23.1%であった。

図表 2-26 週あたりの診療時間（標榜診療時間）



(3) 歯科診療に関する診療料および加算の算定状況等

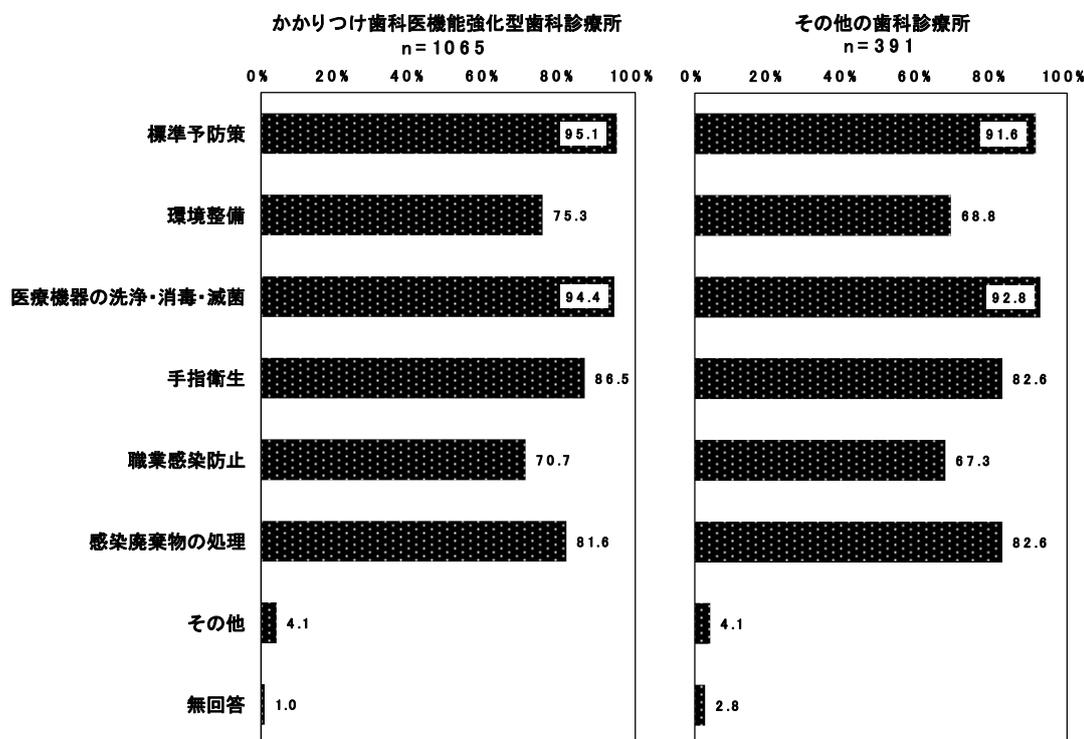
- ① (「歯科初診料及び歯科再診料の算定にあたり、院内感染防止対策として別に厚生労働大臣が定める施設基準」(歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準)に適合しているものとして届出を行っている場合は①-1、行っていない場合は①-2に回答を求めた。)

①-1院内感染防止対策について職員が受講している研修のテーマとして該当するもの
(1. ⑩で「歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準」を選択した場合のみ集計)

「歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準」を届出ている場合に、院内感染防止対策について職員が受講している研修のテーマとして該当するものについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「標準予防策」が95.1%で最も多く、次いで「医療機器の洗浄・消毒・滅菌」が94.4%、「手指衛生」が86.5%であった。

その他の歯科診療所では、「医療機器の洗浄・消毒・滅菌」が92.8%で最も多く、次いで「標準予防策」が91.6%、「手指衛生」と「感染廃棄物の処理」がともに82.6%であった。

図表 2-27 院内感染防止対策について職員が受講している研修のテーマとして該当するもの(複数回答)



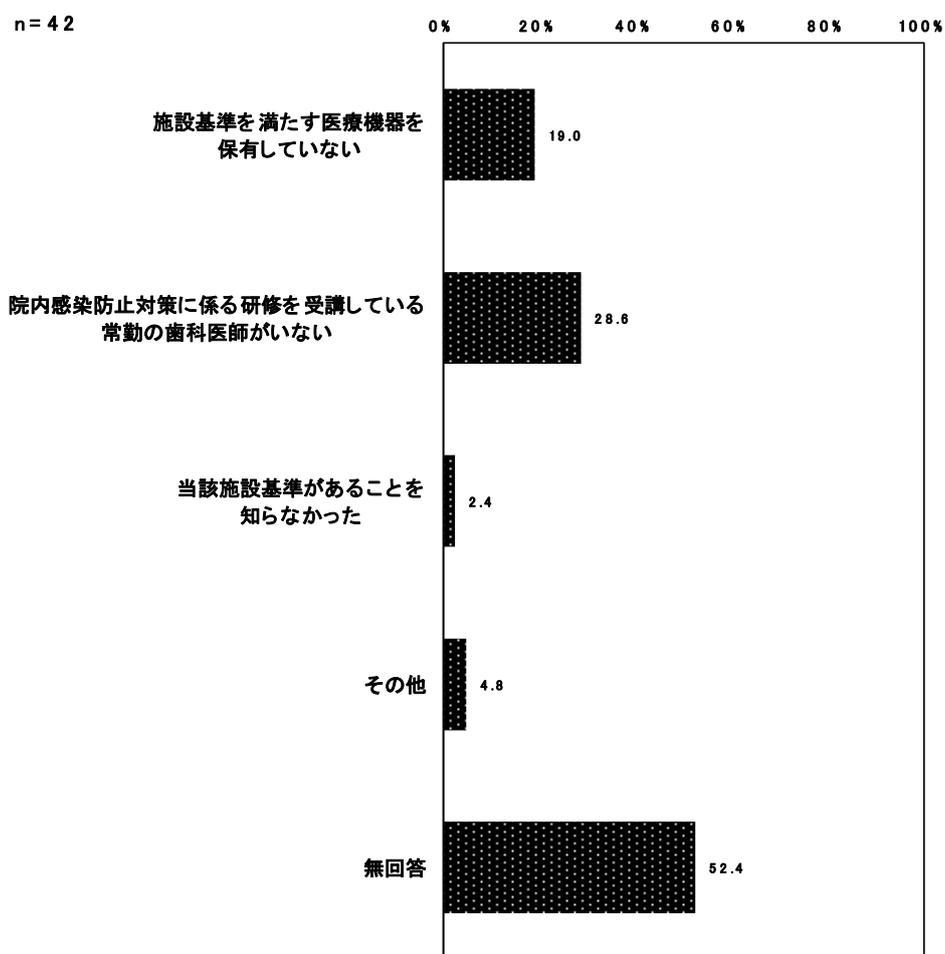
①-2 届出を行っていない理由

(その他の歯科診療所について、1. ⑩で「歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準」を選択していない場合のみ集計)

その他の歯科診療所において、「歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準」を届出していない場合に、届出を行っていない理由についてみると、「院内感染防止対策に係る研修を受講している常勤の歯科医師がいない」が28.6%で最も多く、次いで「施設基準を満たす医療機器を保有していない」が19.0%であった。

なお、「その他」の回答としては、高齢で手続きが煩雑のため、今後届出申請予定があげられた。

図表 2-28 届出を行っていない理由 (複数回答)

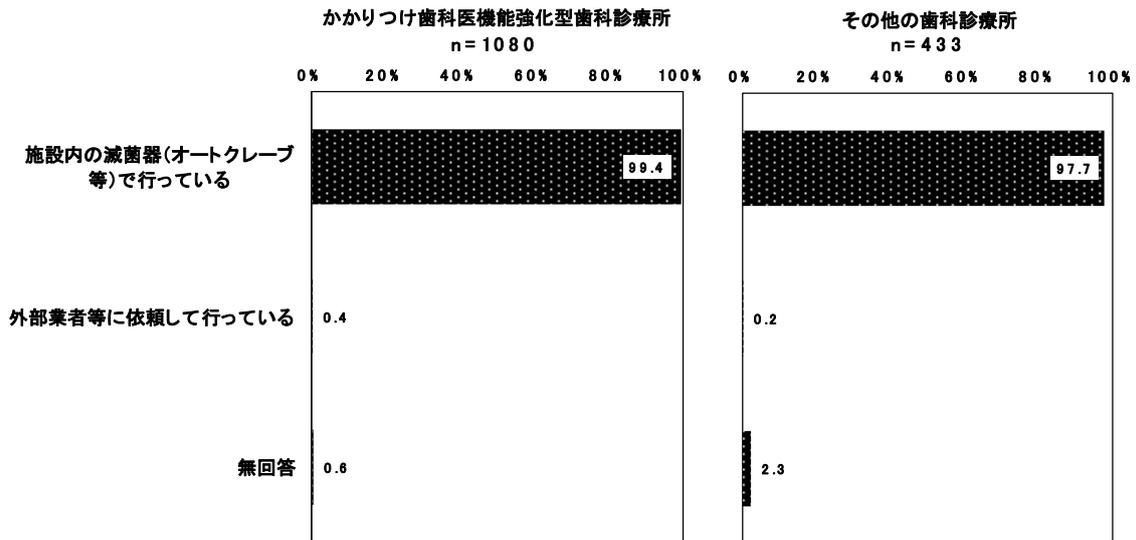


※n 数に留意が必要。

② 機器等の滅菌体制

機器等の滅菌体制についてみると、「施設内の滅菌器（オートクレーブ等）で行っている」がかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では99.4%、その他の歯科診療所では97.7%であった。

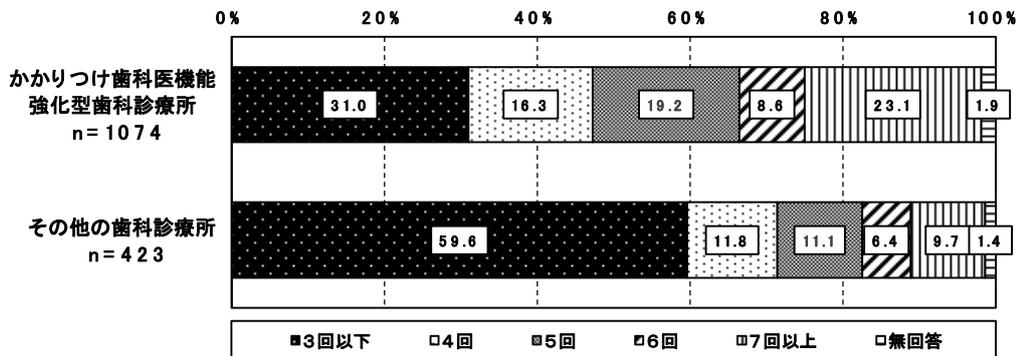
図表 2-29 機器等の滅菌体制（複数回答）



【滅菌を施設内の滅菌器で行っている場合】

滅菌を「施設内の滅菌器で行っている」場合の滅菌の実施回数については、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「3回以下」が31.0%で最も多く、次いで「7回以上」が23.1%であった。その他の歯科診療所では「3回以下」が59.6%で最も多く、次いで「4回」が11.8%であった。

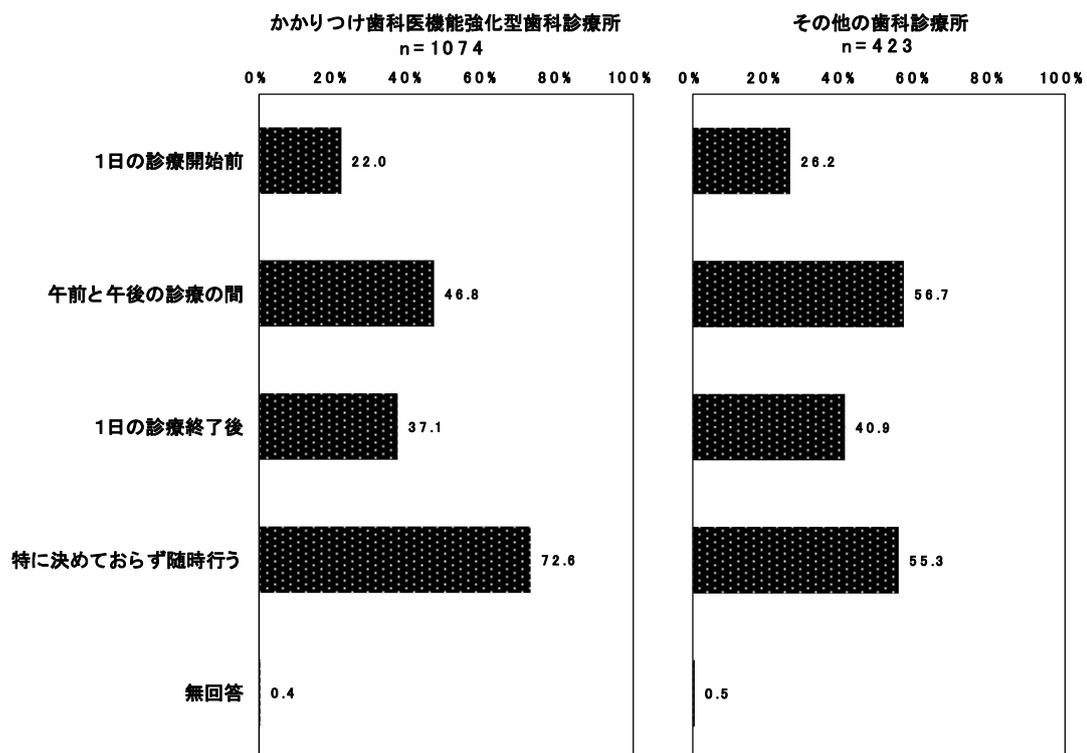
図表 2-30 滅菌の実施回数



滅菌を「施設内の滅菌器で行っている」場合、実施する主な時間帯についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では、「特に決めておらず随時行う」が72.6%で最も多く、次いで「午前と午後の診療の間」が46.8%であった。

その他の歯科診療所では、「午前と午後の診療の間」が56.7%で最も多く、次いで「特に決めておらず随時行う」が55.3%であった。

図表 2-31 滅菌を実施する主な時間帯（複数回答）



③ 歯科疾患管理料の算定状況等（令和3年6月）

1) 歯科疾患管理料の算定患者数

歯科疾患管理料の算定患者数についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「600人以上」が22.5%で最も多く、次いで「200人以上300人未満」が18.4%であった。

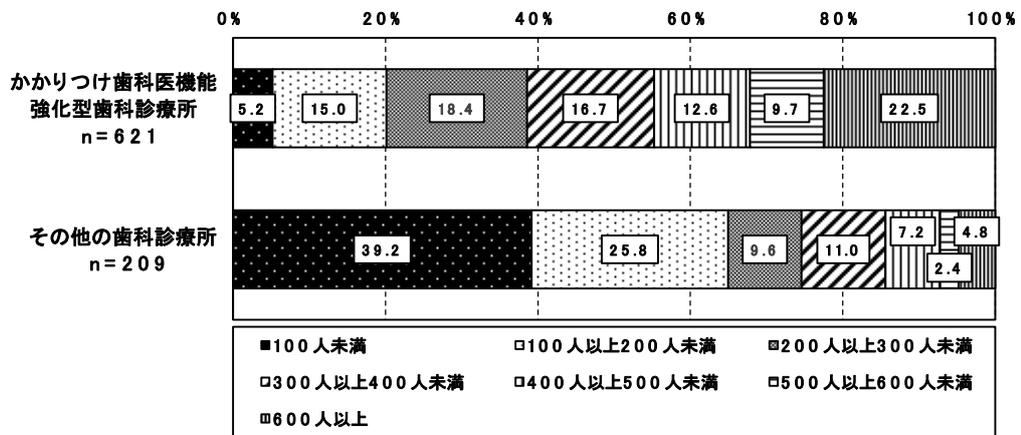
その他の歯科診療所では「100人未満」が39.2%で最も多く、次いで「100人以上200人未満」が25.8%であった。

図表 2-32 歯科疾患管理料の算定有無

	n=1080	n=433 (単位：施設)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所	その他の歯科診療所
なし	2	14
あり	1001	343
無回答	77	76

※算定患者数に1以上の回答をした施設を「あり」として集計している。

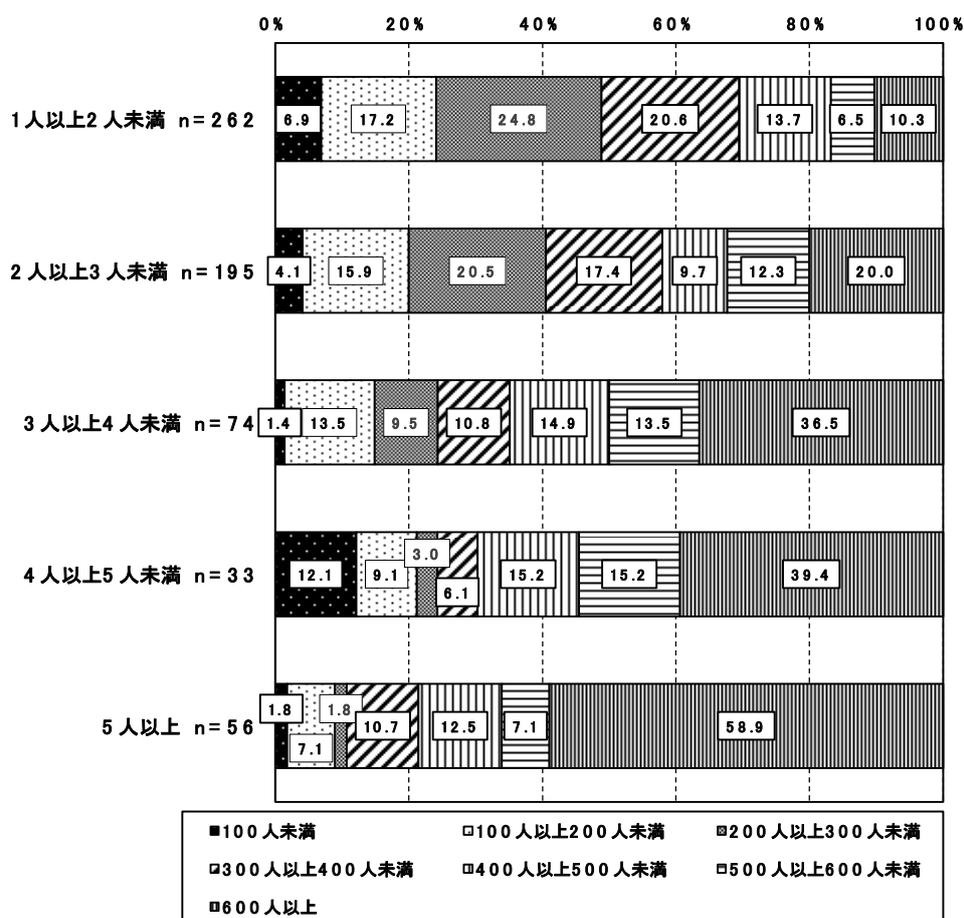
図表 2-33 歯科疾患管理料の算定患者数（算定あり施設の内訳）



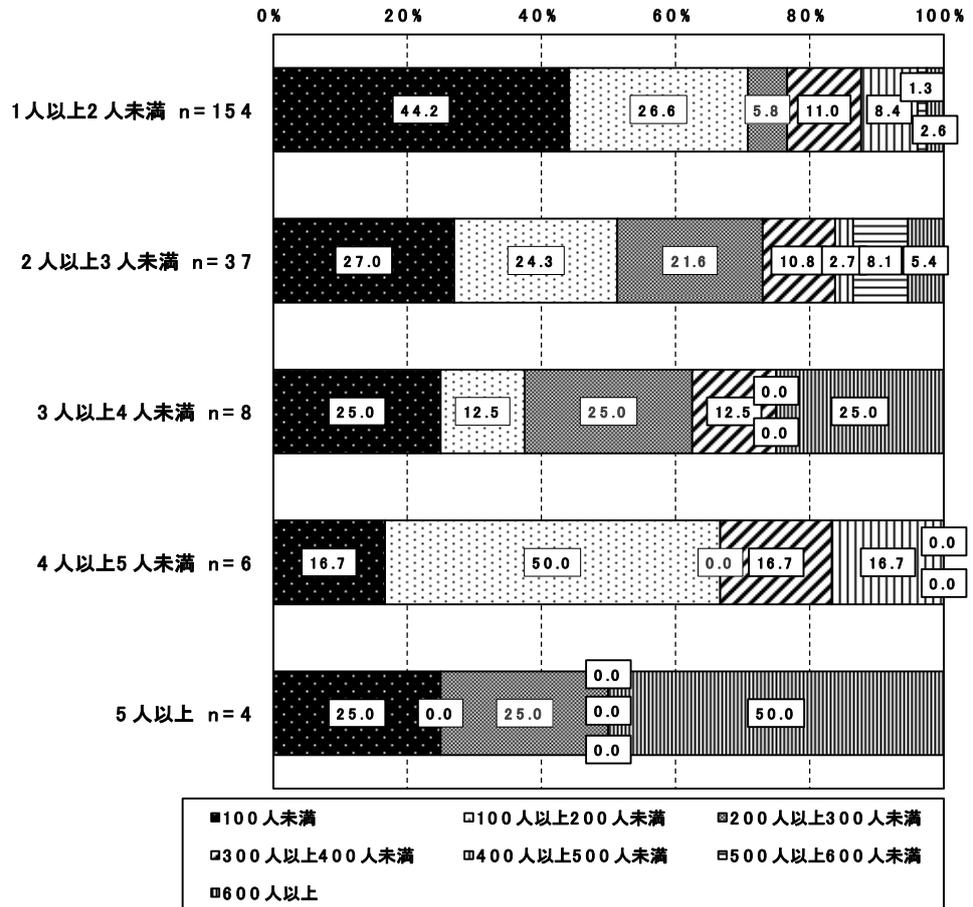
※算定患者数1以上の施設で、③の設問に通じて回答のあった施設の回答のみを集計している。

さらに歯科疾患管理料の算定患者数について、常勤換算歯科医師数別に比較すると、歯科医師数「1人以上2人未満」のかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「200人以上300人未満」が24.8%で最も多かったのに対し、歯科医師数「1人以上2人未満」のその他の歯科診療所では「100人未満」が44.2%で最も多かった。

図表 2-34 歯科疾患管理料の算定患者数（算定あり施設の内訳）
（常勤換算歯科医師数別）〈かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所〉



図表 2-35 歯科疾患管理料の算定患者数（算定あり施設の内訳）
 （常勤換算歯科医師数別）〈その他の歯科診療所〉



2) 歯科疾患管理料を算定した患者のうち、各治療・管理を実施している患者のおよその割合

歯科疾患管理料を算定した患者のうち、各治療・管理を実施している患者のおよその割合をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「歯周病の治療・管理」が平均74.1%で最も多く、次いで「う蝕の治療・管理」が平均31.0%であった。

その他の歯科診療所でも、「歯周病の治療・管理」が平均76.2%で最も多く、次いで「う蝕の治療・管理」が平均30.0%であった。

図表 2-36 歯科疾患管理料を算定した患者のうち、各治療・管理を実施している患者のおよその割合

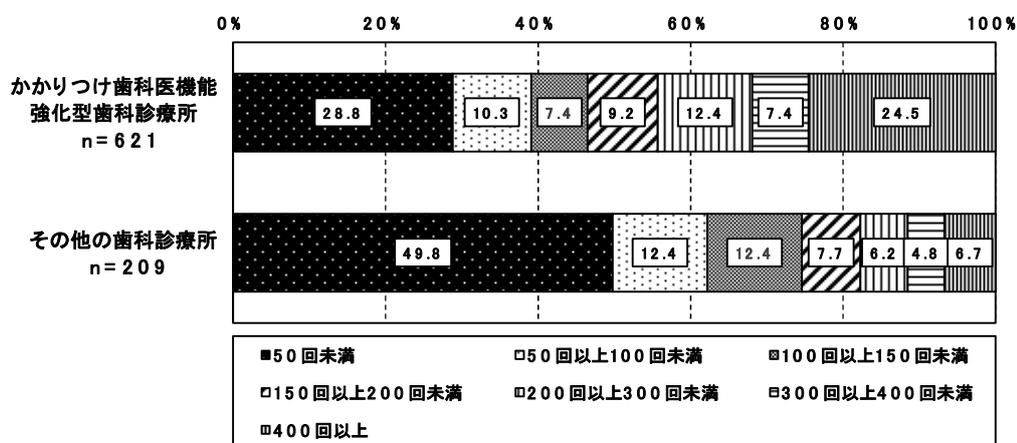
	n=621			n=209			(単位：%)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			その他の歯科診療所			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
歯科疾患管理料を算定した患者のうち、歯周病の治療・管理の患者の割合	74.1	19.9	80	76.2	37.6	80	
歯科疾患管理料を算定した患者のうち、う蝕の治療・管理の患者の割合	31.0	22.0	30	30.0	28.3	20	
歯科疾患管理料を算定した患者のうち、口腔機能発達不全症の治療・管理の患者の割合	1.5	4.4	0	0.4	2.2	0	
歯科疾患管理料を算定した患者のうち、口腔機能低下症の治療・管理の患者の割合	1.8	5.1	0	1.7	9.5	0	
歯科疾患管理料を算定した患者のうち、顎関節症の治療・管理の患者の割合	2.0	4.6	0	1.6	7.4	0	
歯科疾患管理料を算定した患者のうち、その他の患者の割合	1.9	5.9	0	1.6	5.5	0	

※算定患者数1以上の施設で、③の設問に通じて回答のあった施設の回答のみを集計している。

3) 歯科疾患管理料 文書提供加算の算定回数

歯科疾患管理料 文書提供加算の算定回数をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「50回未満」が28.8%で最も多く、次いで「400回以上」が24.5%であった。その他の歯科診療所では、「50回未満」が49.8%で最も多く、次いで「50回以上100回未満」、「100回以上150回未満」がともに12.4%であった。

図表 2-37 歯科疾患管理料 文書提供加算の算定回数



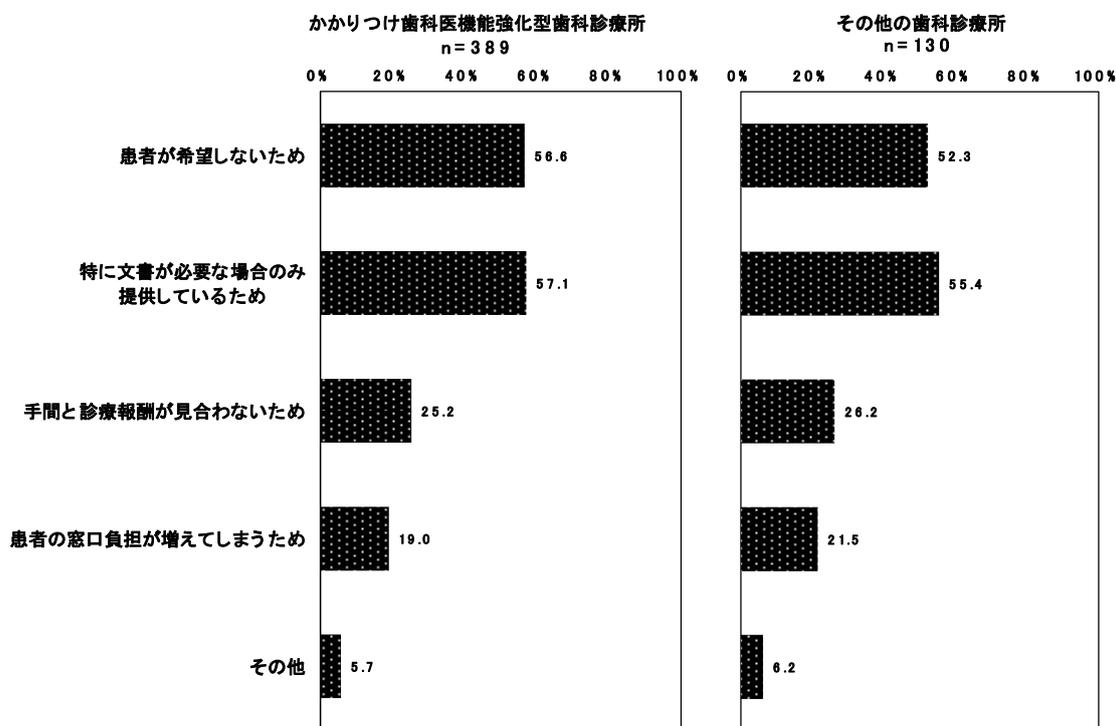
※算定患者数1以上の施設で、③の設問に通じて回答のあった施設の回答のみを集計している。

4) 歯科疾患管理料の算定にあたり、患者への文書提供を行わないことがある場合、その理由

歯科疾患管理料の算定にあたり、患者への文書提供を行わないことがある場合の理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「特に文書が必要な場合のみ提供しているため」が57.1%で最も多く、次いで「患者が希望しないため」が56.6%であった。

その他の歯科診療所でも、「特に文書が必要な場合のみ提供しているため」が55.4%で最も多く、次いで「患者が希望しないため」が52.3%であった。

図表 2-38 歯科疾患管理料の算定にあたり、患者への文書提供を行わないことがある場合、その理由（複数回答）



※本設問に回答のあった施設の回答のみを集計している。

5) ~7) 歯科疾患管理料の算定患者のうち、初診の患者数およびその内訳

歯科疾患管理料の算定患者数のうち、初診の患者数およびその内訳をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では、「初診の患者数」が平均 85.8 人、「うち、本調査票記入日時点で再診を行っていない患者数」は平均 24.2 人であった。その他の歯科診療所では「初診の患者数」が平均 50.7 人、「うち、本調査票記入日時点で再診を行っていない患者数」は平均 14.1 人であった。

さらに、本調査票記入日時点で再診を行っていない患者数のうち、再診を行わなかった理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「予定している次回再診日が本調査票記入日以降であるため」が平均 9.0 人で最も多く、次いで「初診時の処置等に対する経過観察中であり、明確な予約日時を決めていなかったため」が平均 8.3 人であった。

その他の歯科診療所では、「初診時の処置等に対する経過観察中であり、明確な予約日時を決めていなかったため」が平均 5.5 人で最も多く、次いで「予定している次回再診日が本調査票記入日以降であるため」が平均 4.5 人であった。

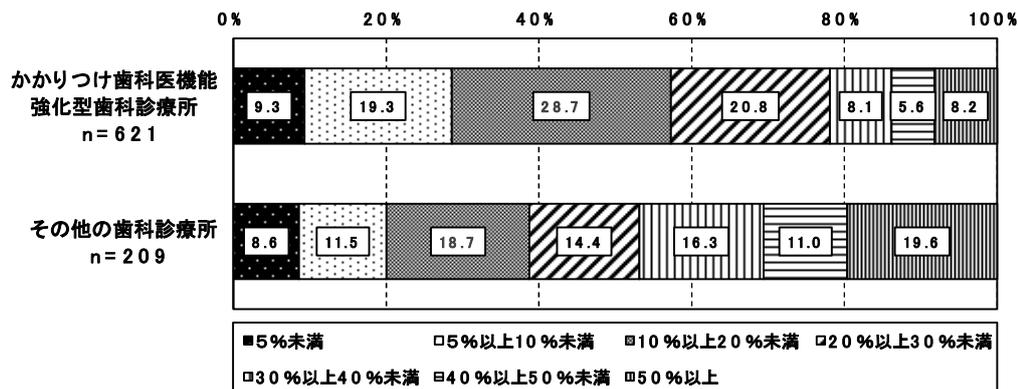
図表 2-39 歯科疾患管理料の算定患者のうち、初診の患者数およびその内訳

		n=621			n=209			(単位：人)
		かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			その他の歯科診療所			
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
歯科疾患管理料の算定患者数のうち、初診の患者数		85.8	89.4	59	50.7	49.1	36	
再診を行わなかった理由別人数	うち、本調査票記入日時点で再診を行っていない患者数	24.2	43.8	7	14.1	23.0	4	
	初診時の処置等に対する経過観察中であり、明確な予約日時を決めていなかったため	8.3	24.7	0	5.5	11.0	0	
	予定している次回再診日が本調査票記入日以降であるため	9.0	23.1	0	4.5	13.0	0	
	予約日時を決めたが患者が来院しなかったため	4.1	7.6	1	2.7	5.1	0	
	翌日以降に初診に該当する行為があり、再診料ではなく初診料を算定したため	0.9	10.0	0	0.3	1.6	0	

※歯科疾患管理料算定患者数 1 以上の施設で、③の他の設問に回答のあった施設の回答のみを集計している。

「歯科疾患管理料の算定患者数」のうち初診時に歯科疾患管理料を算定した患者数の割合の分布は以下のとおりであった。

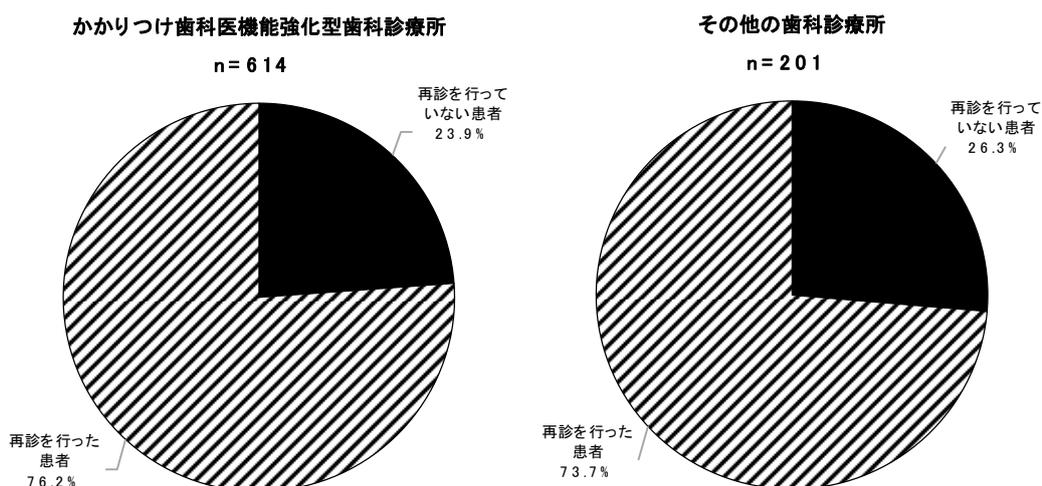
図表 2-40 「歯科疾患管理料の算定患者数」のうち初診時に歯科疾患管理料を算定した患者数の割合



※本集計は、施設単位で各割合を集計し、その分布を示しているため、分子、分母両方に回答があり、分母が1以上の施設を対象に集計を行っている。

初診時に歯科疾患管理料を算定した患者数に占める「再診を行っていない患者数」の割合の平均値をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では平均23.9%、その他の歯科診療所では平均26.3%であった。

図表 2-41 初診時に歯科疾患管理料を算定した患者数に占める「再診を行っていない患者数」の割合の平均

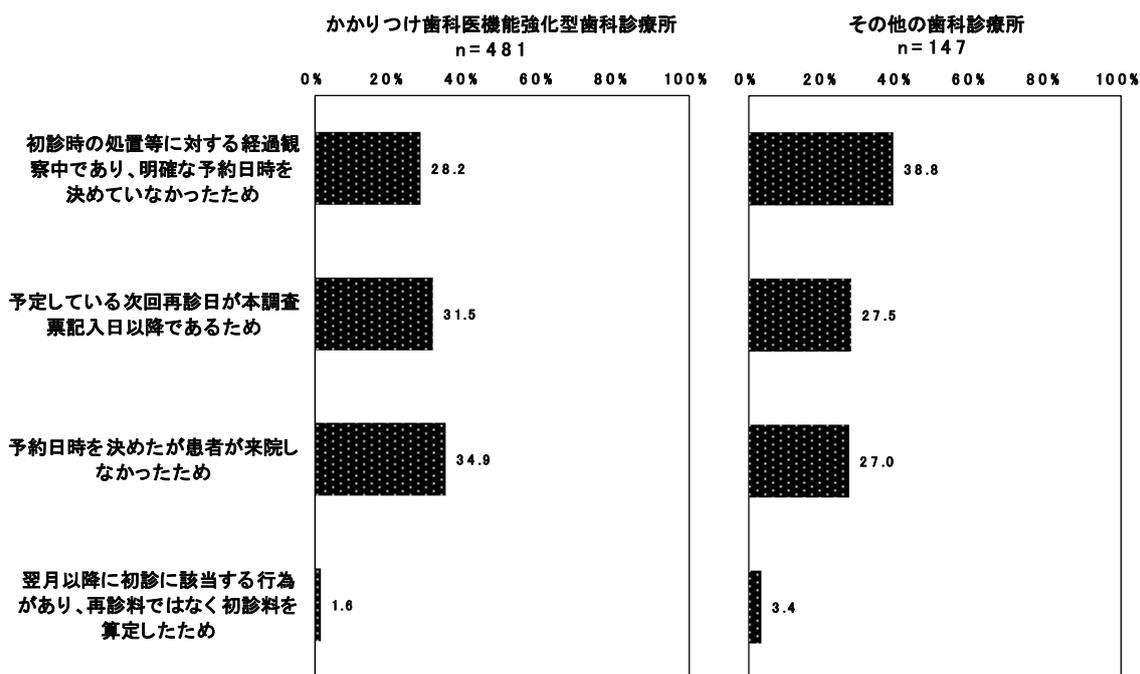


※本集計は、施設単位で各割合を集計し、その平均を示しているため、分子、分母両方に回答があり、分母が1以上の施設を対象に集計を行っている。

※令和3年6月に受診した患者のうち、本調査票記入日時点の回答を集計。

「再診を行っていない患者数」に占める「再診を行わなかった理由別人数」の割合をみると下記のとおりであった。

図表 2-42 「再診を行っていない患者数」に占める、「再診を行わなかった理由別人数」の割合の平均



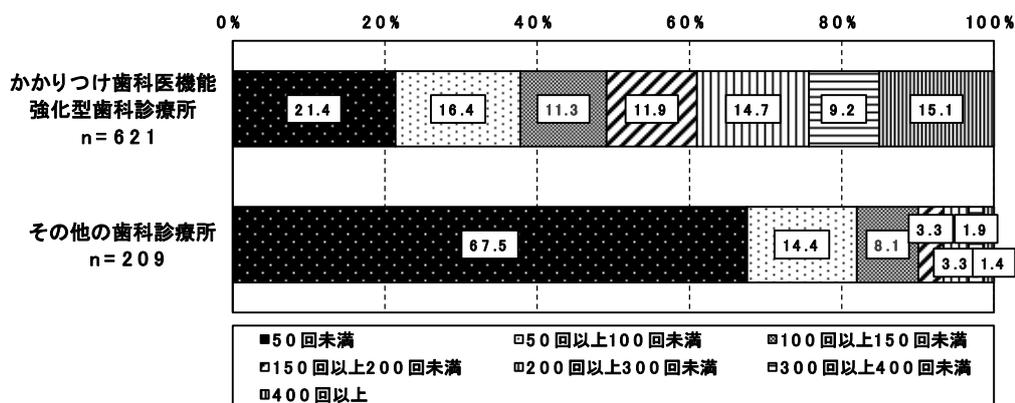
※本集計は、施設単位で各割合を集計し、その平均を示しているため、分子、分母両方に回答があり、分母が1以上の施設を対象に集計を行っている。

8) 歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数

歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「50回未満」が21.4%で最も多く、次いで「50回以上100回未満」が16.4%、「400回以上」が15.1%であった。

その他の歯科診療所では、「50回未満」が67.5%で最も多く、次いで「50回以上100回未満」が14.4%、「100回以上150回未満」が8.1%であった。

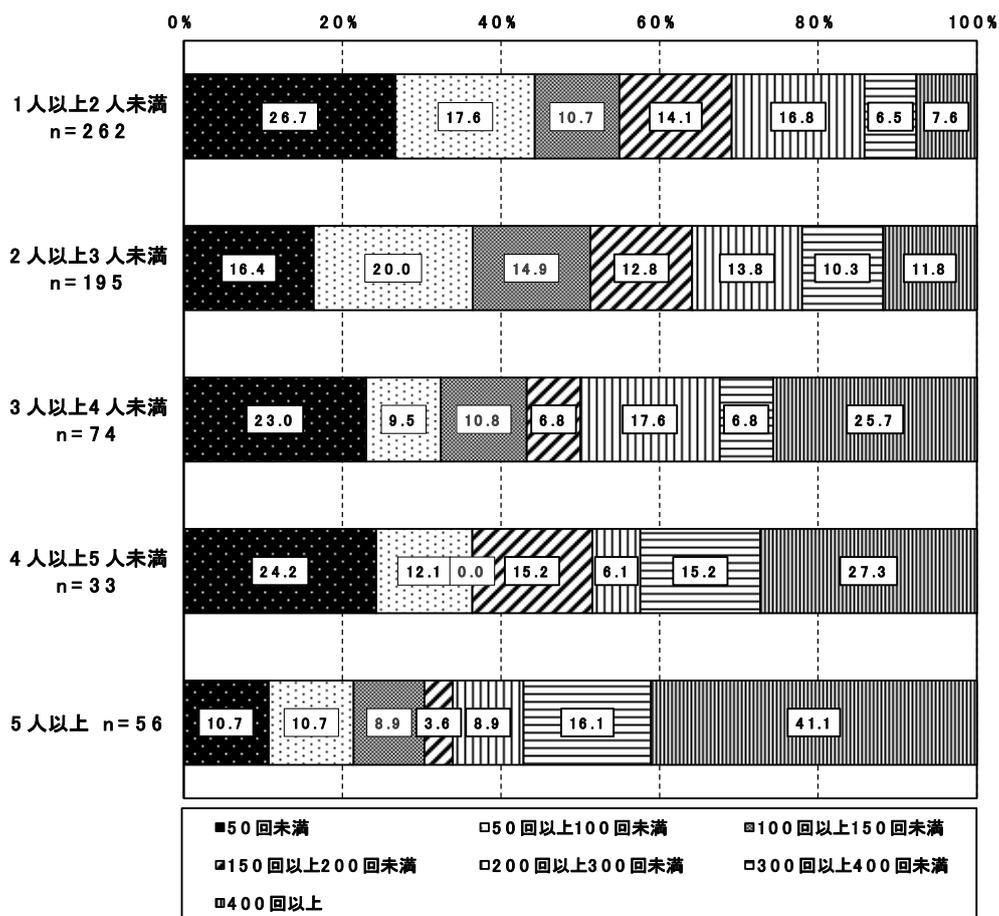
図表 2-43 歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数



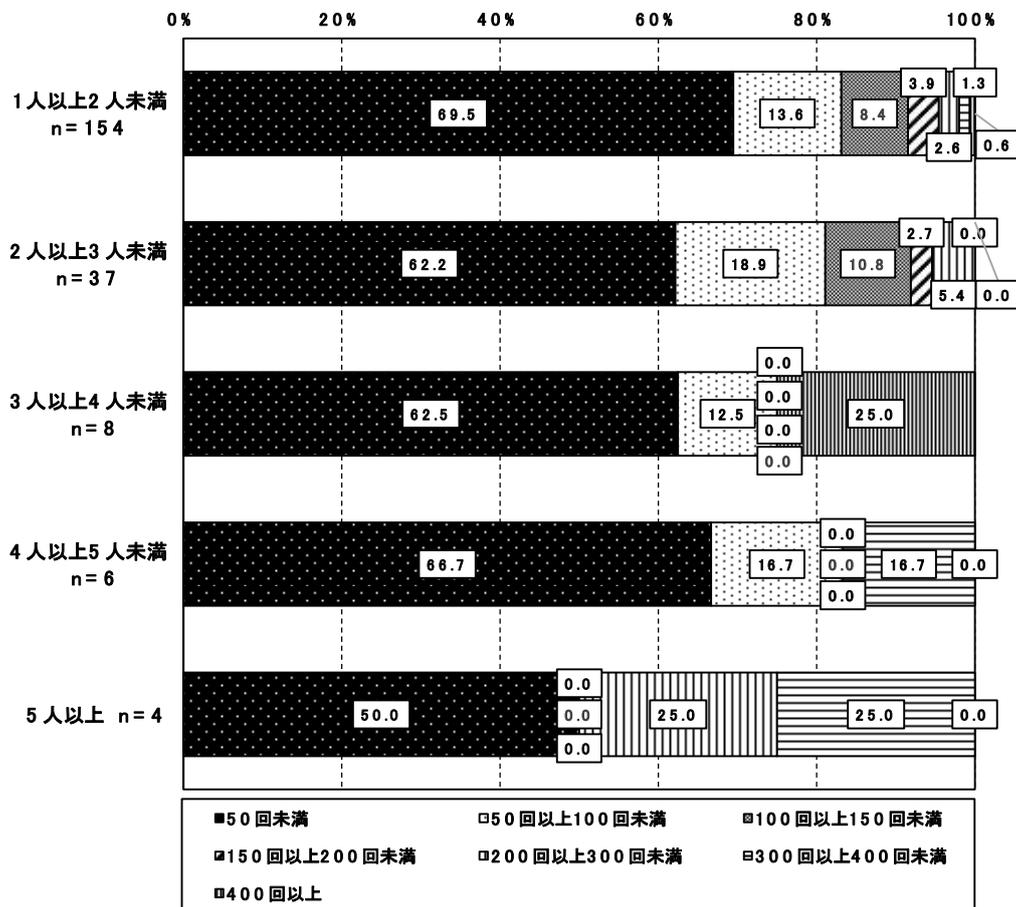
※算定患者数1以上の施設で、③の設問に通じて回答のあった施設の回答のみを集計している。

さらに歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数について、常勤換算歯科医師数別に比較すると、その他の歯科診療所において全区分で「50回未満」となった診療所の割合が最も多かった。

図表 2-44 歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数（常勤換算歯科医師数別）
〈かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所〉

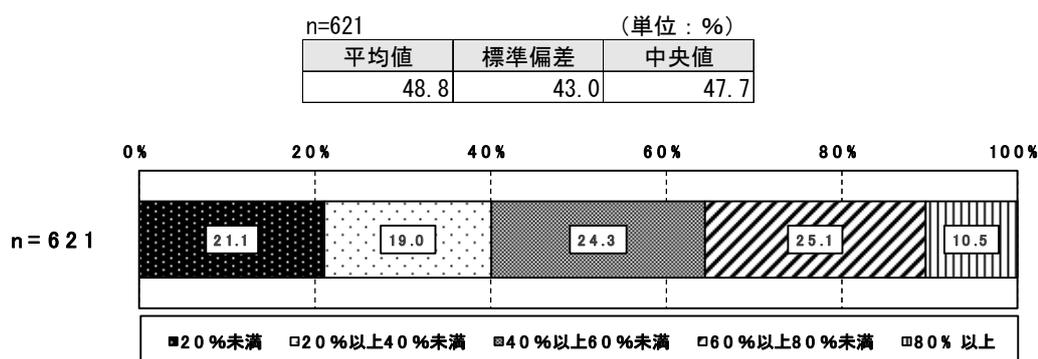


図表 2-45 歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数（常勤換算歯科医師数別）
 〈その他の歯科診療所〉

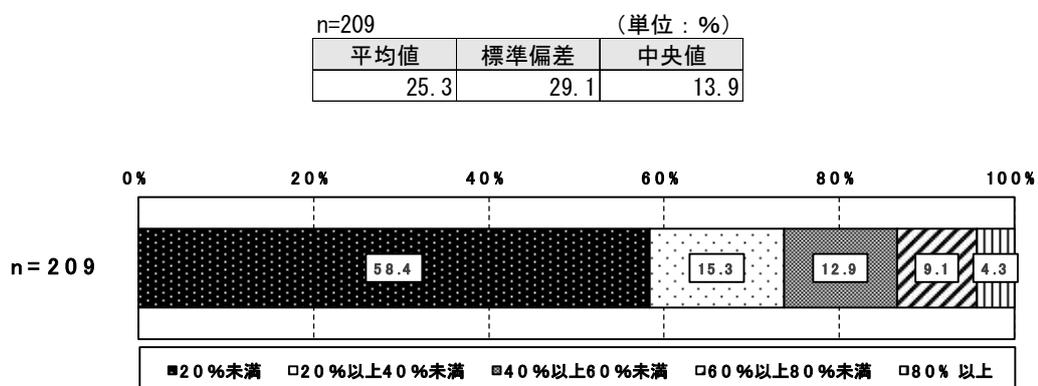


さらに歯科疾患管理料の算定患者数のうち、長期管理加算が算定された患者数の割合をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「20%未満」となった医療機関が21.1%であったのに対し、その他の歯科診療所では「20%未満」となった医療機関が58.4%であった。

図表 2-46 歯科疾患管理料算定患者数のうち、長期管理加算の算定割合
〈かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所〉



図表 2-47 歯科疾患管理料算定患者数のうち、長期管理加算の算定割合
〈その他の歯科診療所〉



※本集計（図表 2-46, 図表 2-47）は、施設単位で各割合を集計し、その平均・分布を示しているため、分子、分母両方に回答があり、分母が1以上の施設を対象に集計を行っている。

※各施設について令和3年6月の「長期管理加算算定回数」の回答を分子、「歯科疾患管理料算定患者数」の回答を分母としているため、結果が100%を超える場合がある。（図表 2-46, 図表 2-47）

9) 長期管理加算を算定した患者のうち、各治療・管理を実施している患者のおよその割合（長期管理加算の算定回数が1回以上の場合のみ集計）

長期管理加算を算定している施設について、長期管理加算を算定した患者のうち、各治療・管理を実施している患者のおよその割合をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「歯周病の治療・管理」が平均 81.9%で最も多く、次いで「う蝕の治療・管理」が平均 21.6%であった。

その他の歯科診療所でも、「歯周病の治療・管理」が平均 78.7%で最も多く、次いで「う蝕の治療・管理」が平均 23.3%であった。

図表 2-48 長期管理加算を算定した患者のうち、各治療・管理を実施している患者のおよその割合

	n=592			n=166			(単位：%)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所	その他の歯科診療所		その他の歯科診療所		中央値	
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
長期管理加算を算定した患者のうち、歯周病の治療・管理の患者の割合	81.9	19.5	90	78.7	28.0	90	
長期管理加算を算定した患者のうち、う蝕の治療・管理の患者の割合	21.6	21.3	16.15	23.3	29.1	10	
長期管理加算を算定した患者のうち、口腔機能発達不全症の治療・管理の患者の割合	1.3	5.5	0	0.8	6.7	0	
長期管理加算を算定した患者のうち、口腔機能低下症の治療・管理の患者の割合	1.4	5.0	0	0.7	4.8	0	
長期管理加算を算定した患者のうち、顎関節症の治療・管理の患者の割合	1.3	3.7	0	1.3	4.4	0	
長期管理加算を算定した患者のうち、その他の患者の割合	1.4	5.5	0	0.5	1.8	0	

10) う蝕や歯周病の重症化予防のために、治療計画に基づき定期的に医療機関を受診している患者の割合

う蝕や歯周病の重症化予防のために、治療計画に基づき定期的に医療機関を受診している患者の割合は以下のとおりである。

図表 2-49 う蝕や歯周病の重症化予防のために、治療計画に基づき定期的に医療機関を受診している患者の割合

	n=621			n=209			(単位：%)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所 平均値	標準偏差	中央値	その他の歯科診療所 平均値	標準偏差	中央値	
う蝕や歯周病の重症化予防のために、治療計画に基づき定期的に医療機関を受診している患者の割合	45.0	31.8	45	30.6	32.2	20	

※歯科疾患管理料算定患者数1以上の施設で、③の設問に通じて回答のあった施設の回答のみを集計している。

④ 小児口腔機能管理料の算定回数等（令和3年6月）

小児口腔機能管理料の算定回数についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では平均5.5回、その他の歯科診療所では平均1.1回であった。

算定した患者が算定時に該当していた症状についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「（離乳完了後）口呼吸がある」が57.1%で最も多く、次いで「（離乳完了後）口唇の閉鎖不全がある」が54.8%であった。その他の歯科診療所では「（離乳完了後）機能的因子による歯列・咬合の異常がある」が57.6%で最も多く、次いで「（離乳完了後）口唇の閉鎖不全がある」が56.1%であった。

1) 小児口腔機能管理料の算定回数

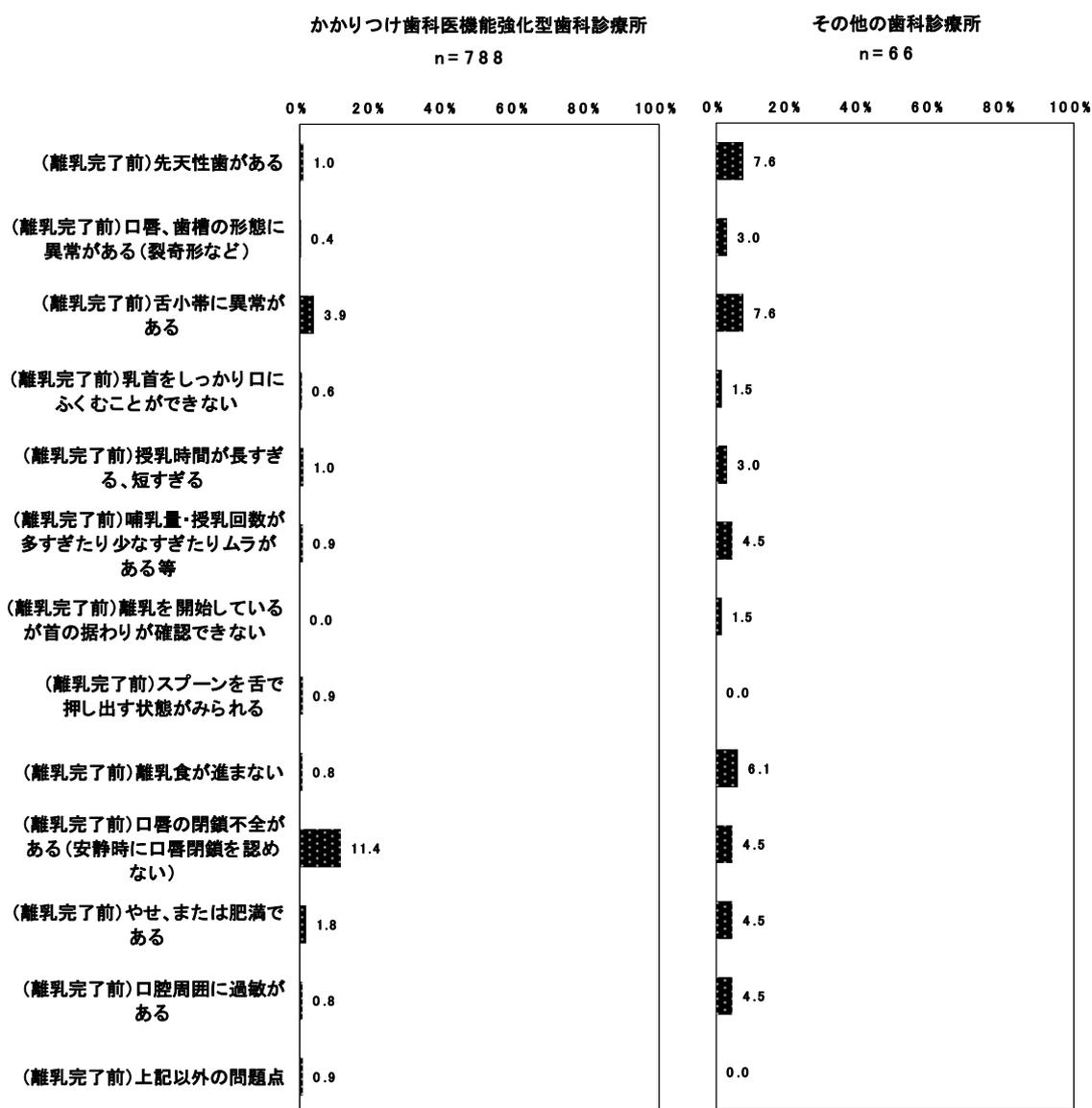
図表 2-50 小児口腔機能管理料の算定回数

	n=1006			n=388			(単位：回)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			その他の歯科診療所			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
小児口腔機能管理料の算定回数（令和3年6月）	5.5	26.6	0	1.1	8.5	0	

2) 小児口腔機能管理料を算定した患者が、算定時に該当していた症状
 (小児口腔機能管理料の算定回数が1回以上の場合のみ集計)

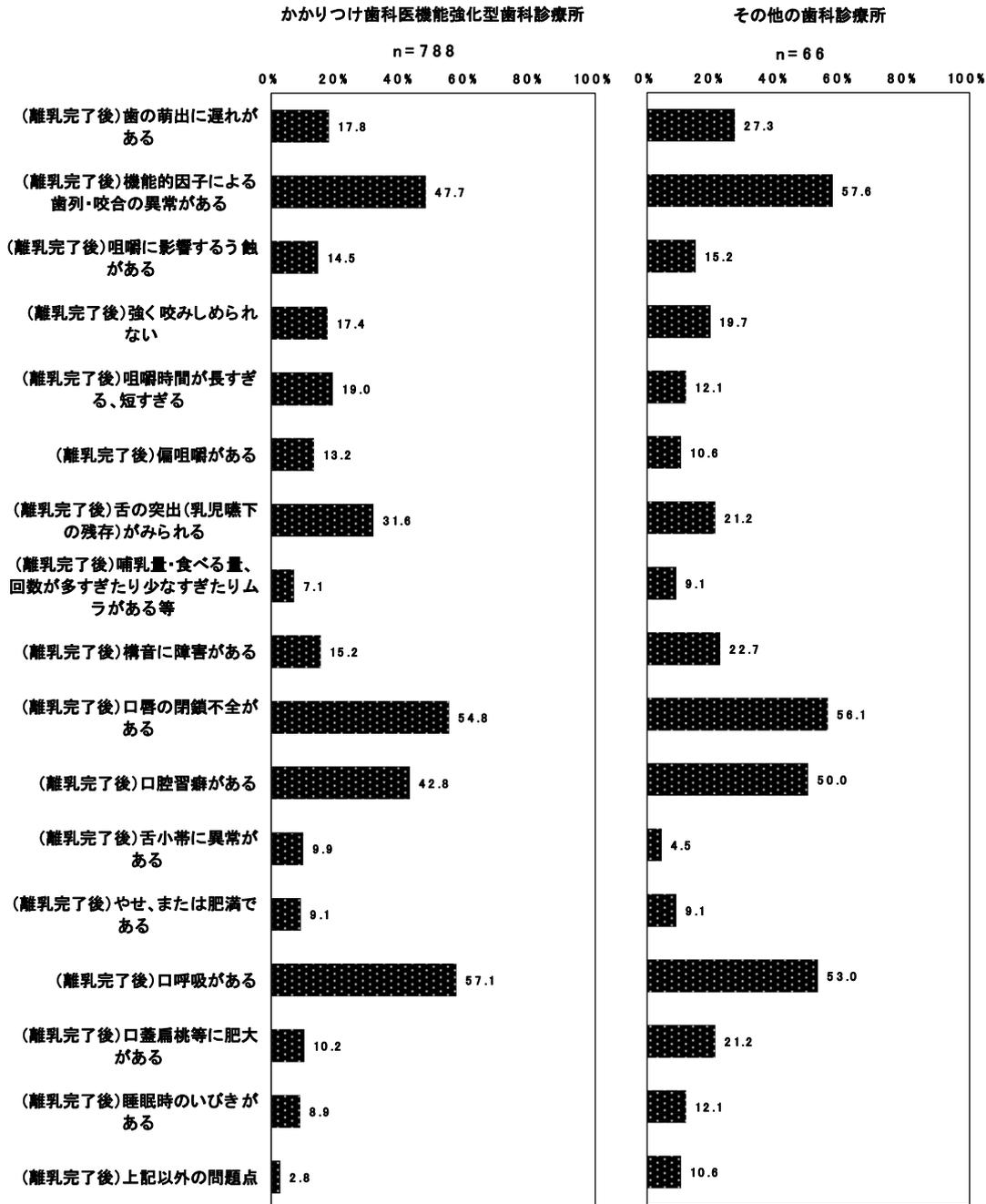
図表 2-51 小児口腔機能管理料を算定した患者が、算定時に該当していた症状
 (複数回答)

※離乳完了前の項目



(※次ページに続く)

※離乳完了後の項目



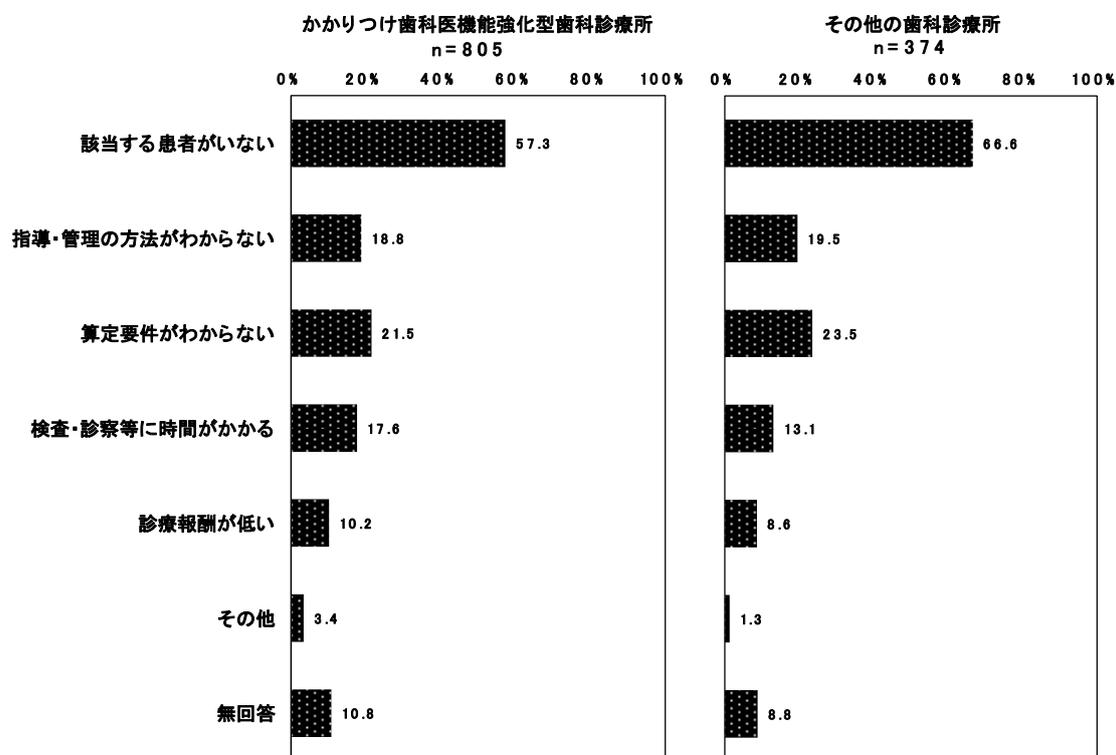
※各施設患者5人までの回答を収集し、有効なサンプルのみを集計している。

3) 小児口腔機能管理料を算定していない場合、その理由

(小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合のみ集計)

算定回数が0回の場合、算定していない理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「該当する患者がない」が57.3%で最も多く、次いで「算定要件がわからない」が21.5%であった。その他の歯科診療所でも、「該当する患者がない」が66.6%で最も多く、次いで「算定要件がわからない」が23.5%であった。

図表 2-52 小児口腔機能管理料を算定していない理由（複数回答）



⑤ 口腔機能管理料の算定回数等（令和3年6月）

口腔機能管理料の算定回数についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では、平均4.0回、その他の歯科診療所では平均0.3回であった。

算定した患者が算定時に該当していた症状についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「口腔衛生状態不良」が64.1%で最も多く、次いで「口腔乾燥」、「咀嚼機能低下」がともに50.5%であった。その他の歯科診療所では「口腔衛生状態不良」が88.9%で最も多く、次いで「咬合力低下」が50.0%であった。

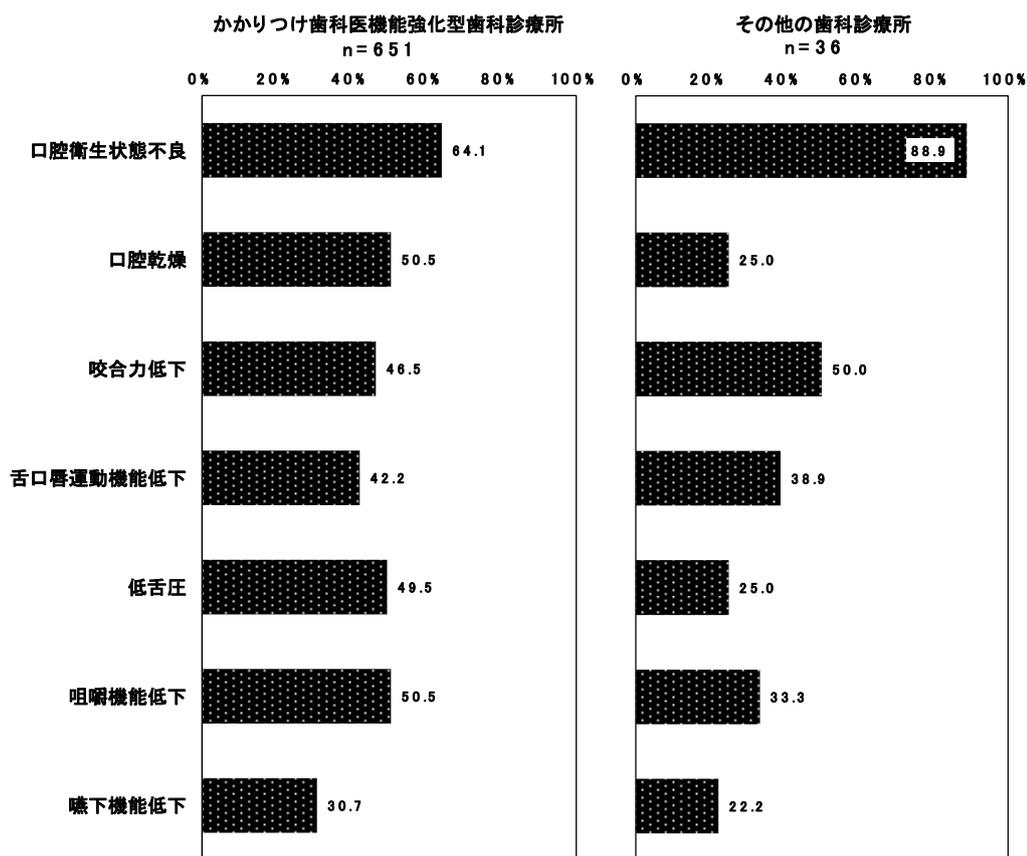
1) 口腔機能管理料の算定回数

図表 2-53 口腔機能管理料の算定回数

	n=1001			n=387			(単位：回)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			その他の歯科診療所			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
口腔機能管理料の算定回数（令和3年6月）	4.0	21.8	0	0.3	3.0	0	

2) 口腔機能管理料を算定した患者が、算定時に該当していた症状
 (口腔機能管理料の算定回数が1回以上の場合のみ集計)

図表 2-54 口腔機能管理料を算定した患者が、算定時に該当していた症状
 (複数回答)

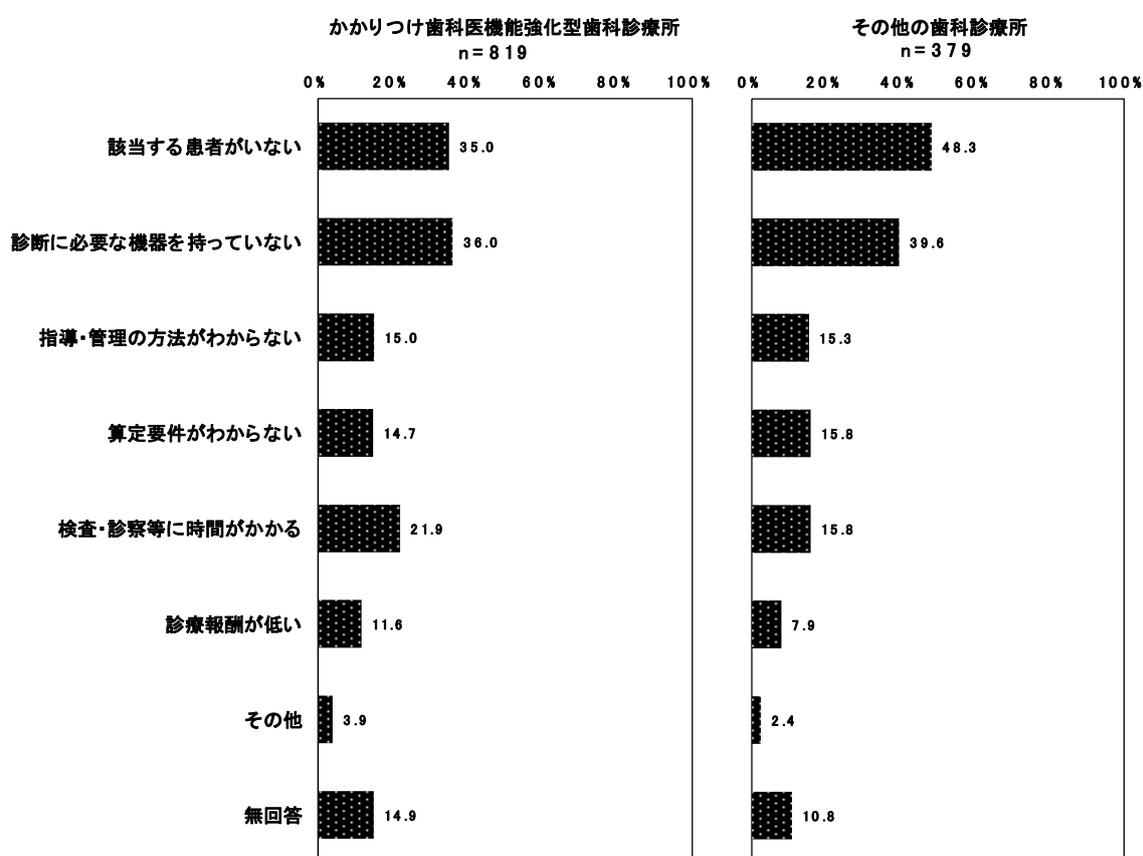


※各施設患者5人までの回答を収集し、有効なサンプルのみを集計している。

3) 口腔機能管理料を算定していない場合、その理由
 (口腔機能管理料の算定回数が0回の場合のみ集計)

算定回数が0回の場合、算定していない理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「診断に必要な機器を持っていない」が36.0%で最も多く、次いで「該当する患者がいない」が35.0%であった。その他の歯科診療所では「該当する患者がいない」が48.3%で最も多く、次いで「診断に必要な機器を持っていない」が39.6%であった。

図表 2-55 口腔機能管理料を算定していない理由 (複数回答)



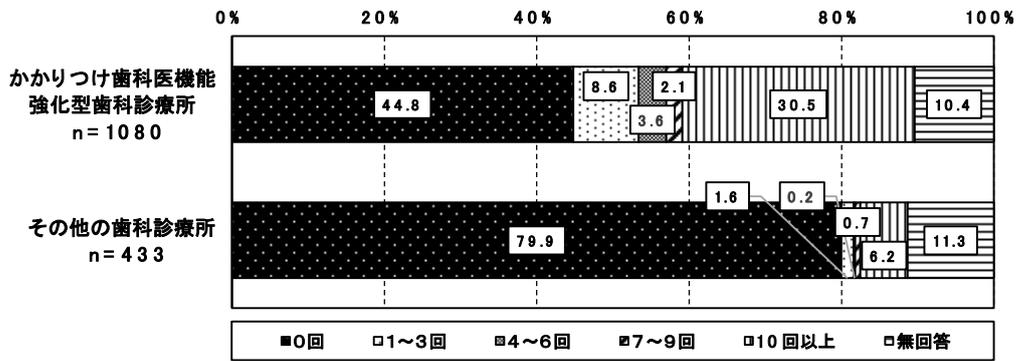
⑥ 歯科治療時医療管理料の算定回数等（令和3年6月）

歯科治療時医療管理料の算定回数についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「0回」が44.8%で最も多く、次いで「10回以上」が30.5%であった。その他の歯科診療所では「0回」が79.9%で最も多く、次いで「10回以上」が6.2%であった。

歯科治療時医療管理料を算定した患者に該当する疾患として多いものをみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「高血圧性疾患」が93.8%で最も多く、次いで「糖尿病」が65.2%であった。その他の歯科診療所でも、「高血圧性疾患」が86.8%で最も多く、次いで「糖尿病」が65.8%であった。

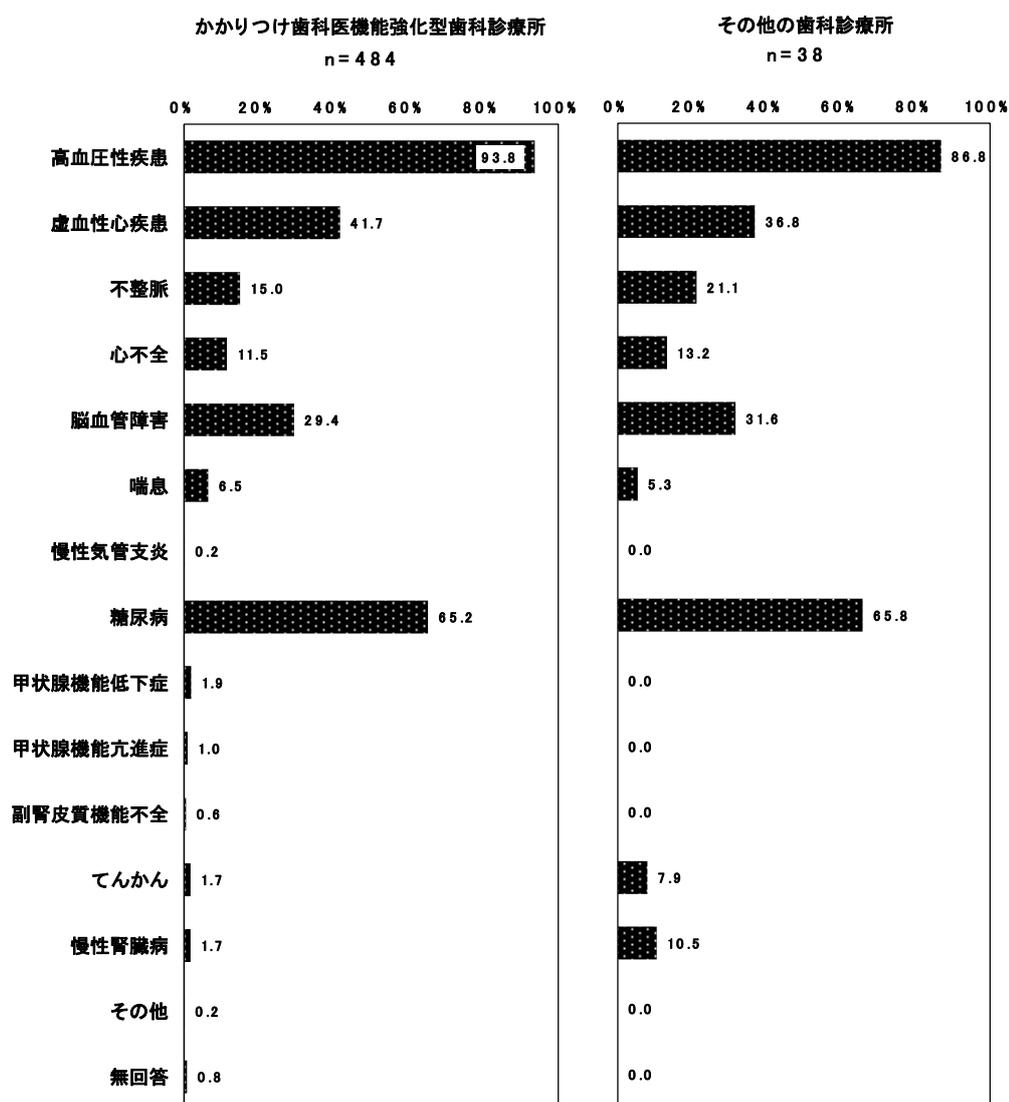
1) 歯科治療時医療管理料の算定回数

図表 2-56 歯科治療時医療管理料の算定回数



2) 歯科治療時医療管理料を算定した患者に多い疾患
 (歯科治療時医療管理料の算定回数が1回以上の場合のみ集計)

図表 2-57 歯科治療時医療管理料を算定した患者に多い疾患 (3つまで回答)



⑦ 診療料・加算等の算定状況（令和3年6月）

診療料・加算等の算定状況は以下のとおりであった。

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所について、歯科訪問診療の算定回数をみると「歯科訪問診療1」の「20分以上」が平均10.4回、「20分未満」が平均0.6回、「歯科訪問診療2」の「20分以上」が平均16.7回、「20分未満」が平均5.2回、「歯科訪問診療3」の「20分以上」が平均5.1回、「20分未満」が平均11.7回であった。「歯科口腔リハビリテーション料1」は平均55.1回、「う蝕歯即時充填形成」は平均106.4回、「歯周基本検査（20歯以上に限る）」は平均97.0回であった。

図表 2-58 診療料・加算等の算定状況
〈かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所〉

n=1027

	歯科訪問診療1			歯科訪問診療2			歯科訪問診療3		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科訪問診療	歯科訪問診療1			歯科訪問診療2			歯科訪問診療3		
20分以上	10.4	39.1	1	16.7	69.8	0	5.1	38.6	0
20分未満	0.6	6.4	0	5.2	41.6	0	11.7	79.0	0
歯周病安定期治療	1歯以上10歯未満			10歯以上20歯未満			20歯以上		
歯周病安定期治療（Ⅰ）	1.5	6.9	0	3.5	10.8	0	14.0	38.7	0
歯周病安定期治療（Ⅱ）	6.6	17.9	2	13.8	23.3	5	51.1	92.2	13
歯周病重症化予防治療	1歯以上10歯未満			10歯以上20歯未満			20歯以上		
	0.4	2.9	0	1.5	6.9	0	8.0	23.5	0
在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料	1歯以上10歯未満			10歯以上20歯未満			20歯以上		
	0.9	11.7	0	1.1	17.5	0	1.3	18.4	0

	平均値	標準偏差	中央値
歯科口腔リハビリテーション料1	55.1	85.3	30
歯科疾患在宅療養管理料 在宅総合医療管理加算	7.5	44.8	0
フッ化物歯面塗布処置（う蝕多発傾向者の場合）	2.6	19.7	0
フッ化物歯面塗布処置（在宅等療養患者の場合）	1.7	14.2	0
フッ化物歯面塗布処置（エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合）	26.6	79.6	0
連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数	0.5	7.6	0
診療情報提供料（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）（※合計）	4.0	18.4	2
診療情報連携共有料	0.9	2.7	0
抜髄（3根管以上に限る）	7.0	14.9	4
抜歯手術（乳歯を除く）	21.0	22.4	16
新製有床義歯管理料1・2（※合計）	8.7	15.3	6
クラウン・ブリッジ維持管理料（歯冠補填物に限る）	26.5	35.3	20
感染根管処置（3根管以上に限る）	8.3	14.0	5
う蝕歯即時充填形成	106.4	157.5	73
歯周基本検査（20歯以上に限る）	97.0	126.7	64
歯周精密検査（20歯以上に限る）	31.6	66.6	8
咀嚼能力検査	0.9	4.7	0
咬合圧検査	0.2	3.3	0
舌圧検査	1.7	8.4	0
睡眠時歯科筋電図検査	0.0	0.3	0
小児口唇閉鎖力検査	1.9	12.1	0
象牙質レジンコーティング	5.2	12.5	0
非経口摂取患者口腔粘膜処置	0.3	2.4	0
既製金属冠	0.6	7.8	0
咬合印象	6.3	26.4	0

その他の歯科診療所について、歯科訪問診療の算定回数を見ると「歯科訪問診療 1」の「20分以上」が平均 2.1 回、「20分未満」が平均 0.4 回、「歯科訪問診療 2」の「20分以上」が平均 3.9 回、「20分未満」が平均 2.4 回、「歯科訪問診療 3」の「20分以上」が平均 0.1 回、「20分未満」が平均 2.5 回であった。「歯科口腔リハビリテーション料 1」は平均 16.7 回、「う蝕歯即時充填形成」は平均 64.0 回、「歯周基本検査（20 歯以上に限る）」は平均 59.2 回であった。

図表 2-59 診療料・加算等の算定状況〈その他の歯科診療所〉

n=396 (単位：回)

	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科訪問診療	歯科訪問診療 1			歯科訪問診療 2			歯科訪問診療 3		
20分以上	2.1	12.6	0	3.9	32.0	0	0.1	0.8	0
20分未満	0.4	3.3	0	2.4	29.1	0	2.5	28.1	0
歯周病安定期治療	1 歯以上10歯未満			10歯以上20歯未満			20歯以上		
歯周病安定期治療 (I)	0.6	3.4	0	1.7	6.9	0	5.6	23.7	0
歯周病安定期治療 (II)	0.1	1.0	0	0.1	1.0	0	0.1	1.0	0
歯周病重症化予防治療	1 歯以上10歯未満			10歯以上20歯未満			20歯以上		
	0.2	1.0	0	0.6	3.8	0	2.6	15.0	0
在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料	1 歯以上10歯未満			10歯以上20歯未満			20歯以上		
	0.0	0.1	0	0.0	0.1	0	0.0	0.4	0

	平均値	標準偏差	中央値
歯科口腔リハビリテーション料 1	16.7	30.3	0
歯科疾患在宅療養管理料 在宅総合医療管理加算	1.0	12.0	0
フッ化物歯面塗布処置 (う蝕多発傾向者の場合)	1.4	12.0	0
フッ化物歯面塗布処置 (在宅等療養患者の場合)	0.0	0.3	0
フッ化物歯面塗布処置 (エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合)	1.8	16.2	0
連携する在宅療養支援歯科診療所 1・2 に依頼した歯科訪問診療の回数	0.5	8.7	0
診療情報提供料 (I)・(II)・(III) (※合計)	1.9	5.4	1
診療情報連携共有料	0.2	0.8	0
抜髄 (3 根管以上に限る)	4.6	10.6	2
抜歯手術 (乳歯を除く)	11.2	16.5	5
新製有床義歯管理料 1・2 (※合計)	6.5	16.5	3
クラウン・ブリッジ維持管理料 (歯冠補填物に限る)	19.2	65.7	9.5
感染根管処置 (3 根管以上に限る)	5.7	11.2	2
う蝕歯即時充填形成	64.0	114.3	33
歯周基本検査 (20歯以上に限る)	59.2	88.7	29
歯周精密検査 (20歯以上に限る)	7.5	24.8	0
咀嚼能力検査	0.2	1.8	0
咬合圧検査	0.1	1.6	0
舌圧検査	0.2	2.3	0
睡眠時歯科筋電図検査	0.0	0.0	0
小児口唇閉鎖力検査	0.6	6.4	0
象牙質レジンコーティング	2.9	12.4	0
非経口摂取患者口腔粘膜処置	0.0	0.3	0
既製金属冠	0.2	2.5	0
咬合印象	2.4	10.0	0

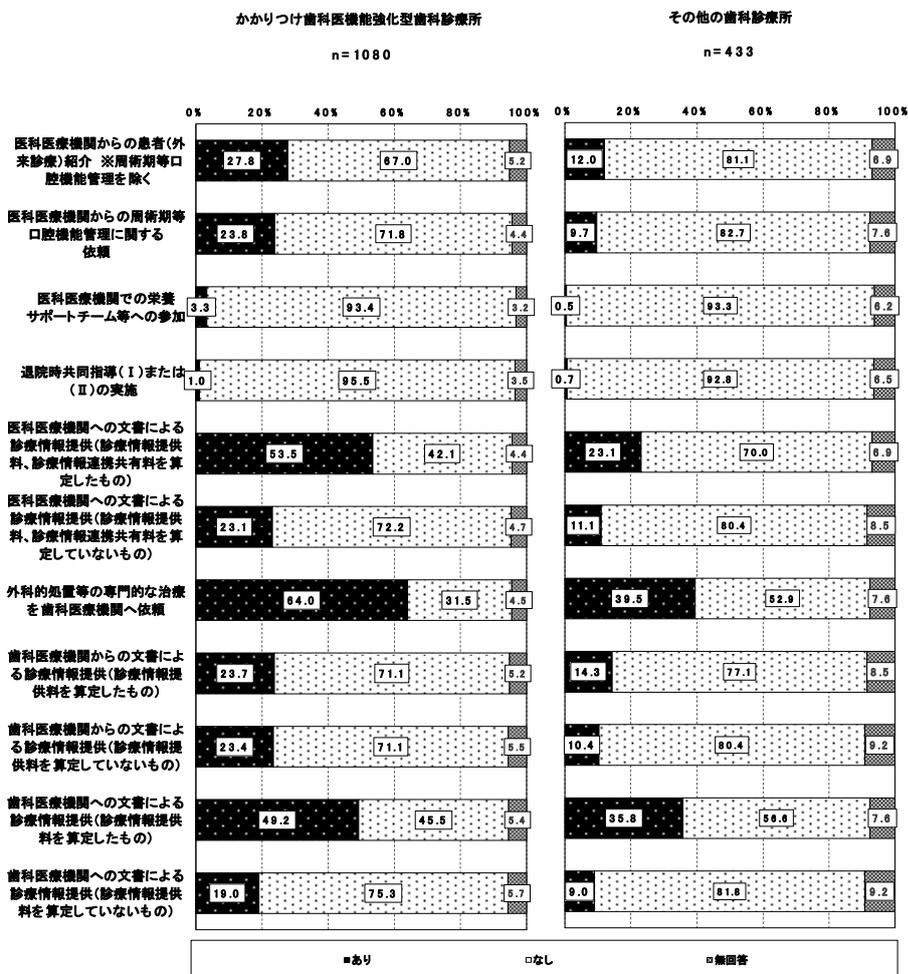
(4) 多職種連携に関する取組等

① 医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等の状況（令和3年6月）

医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等の状況について、「あり」と回答した取組についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「外科的処置等の専門的な治療を歯科医療機関へ依頼」が64.0%で最も多く、次いで「医科医療機関への文書による診療情報提供（診療情報提供料、診療情報連携共有料を算定したもの）」が53.5%であった。

その他の歯科診療所では「外科的処置等の専門的な治療を歯科医療機関へ依頼」が39.5%で最も多く、次いで「歯科医療機関への文書による診療情報提供（診療情報提供料を算定したもの）」が35.8%であった。

図表 2-60 医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等の状況

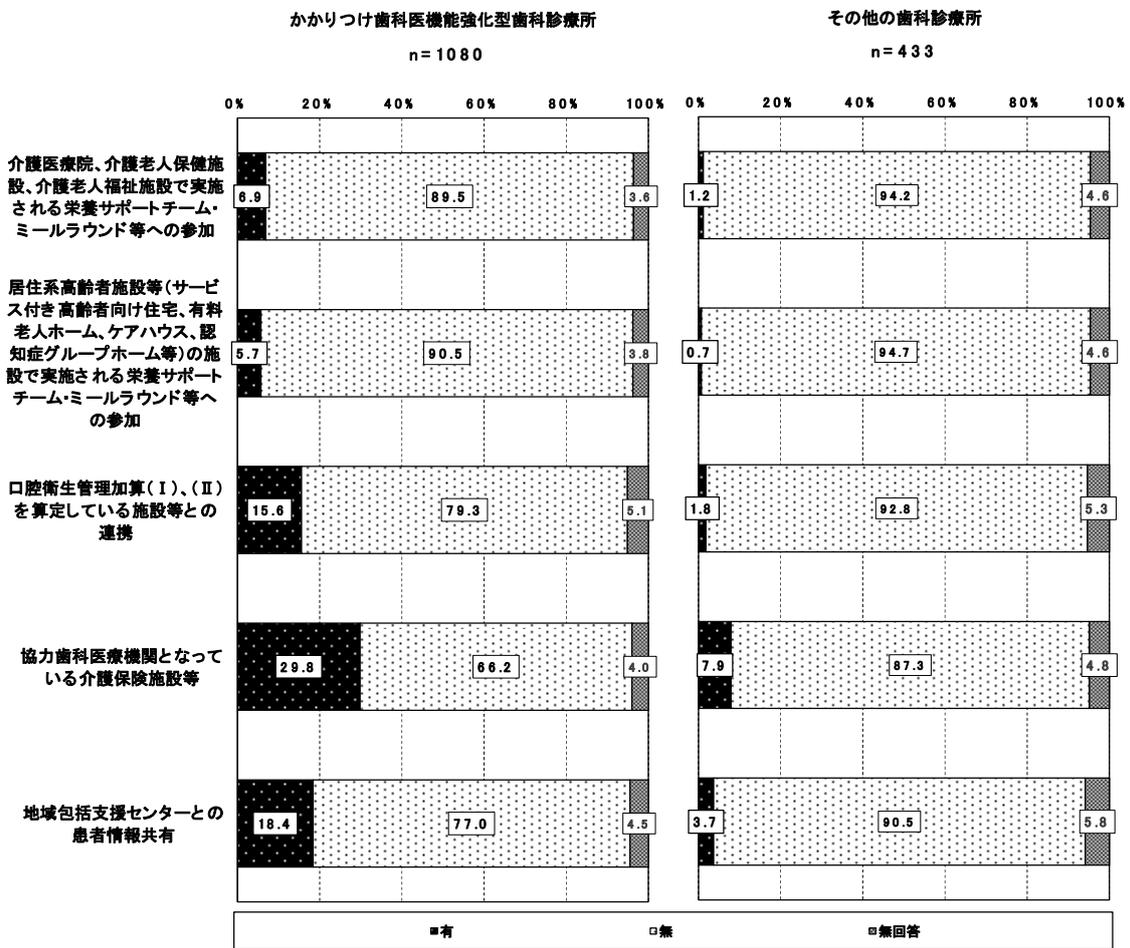


② 介護保険施設等との連携状況（令和3年6月）

介護保険施設等との連携状況について、「あり」の回答についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では、「協力歯科医療機関となっている介護保険施設等」が29.8%で最も多く、次いで「地域包括支援センターとの患者情報共有」が18.4%であった。

その他の歯科診療所でも「協力歯科医療機関となっている介護保険施設等」が7.9%で最も多く、次いで「地域包括支援センターとの患者情報共有」が3.7%であった。

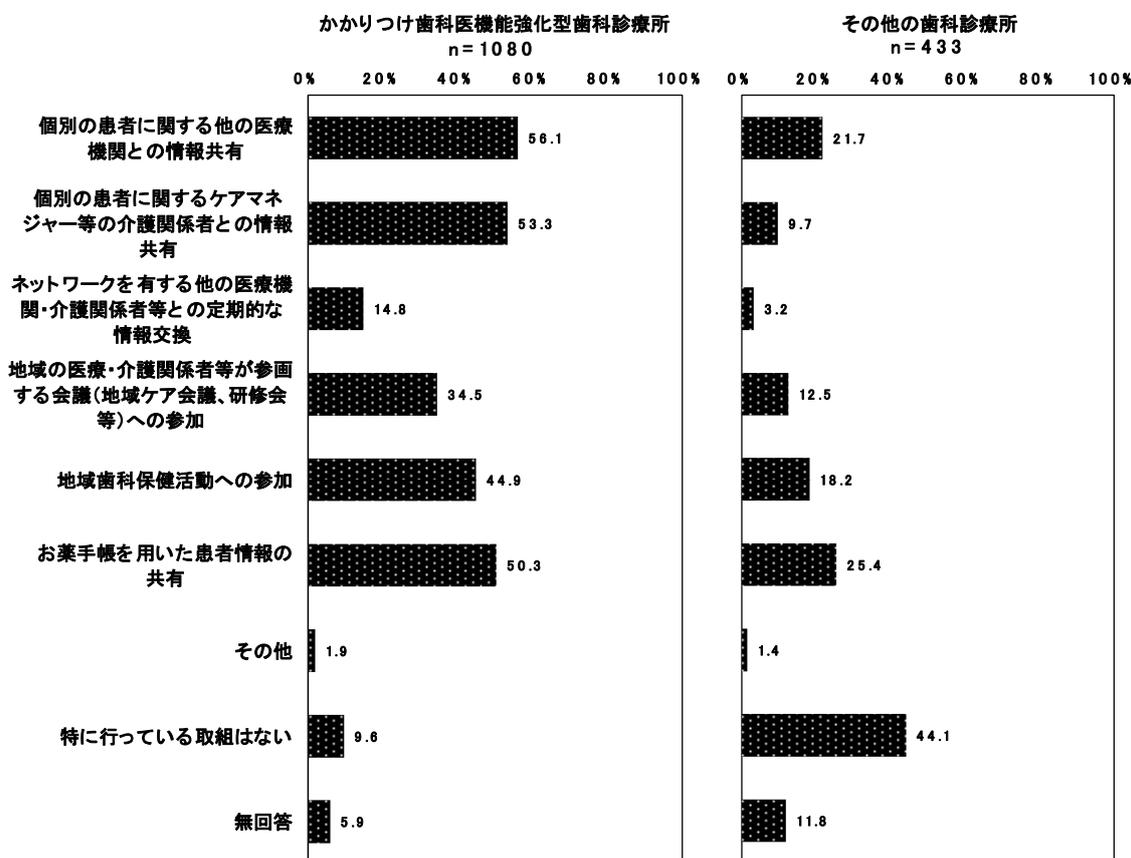
図表 2-61 介護保険施設等との連携状況



③ 地域における在宅医療・介護を推進するために取り組んでいる内容

地域における在宅医療・介護を推進するために取り組んでいる内容をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「個別の患者に関する他の医療機関との情報共有」が56.1%で最も多く、次いで「個別の患者に関するケアマネジャー等の介護関係者との情報共有」が53.3%であった。その他の歯科診療所では、「特に行っている取組はない」が44.1%で最も多く、次いで「お薬手帳を用いた患者情報の共有」が25.4%であった。

図表 2-62 地域における在宅医療・介護を推進するために取り組んでいる内容
(複数回答)



(5) 新型コロナウイルス感染症に伴う医療提供状況等の変化

① 一回目の緊急事態宣言期間中（令和2年4月7日～5月6日）における新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化の状況

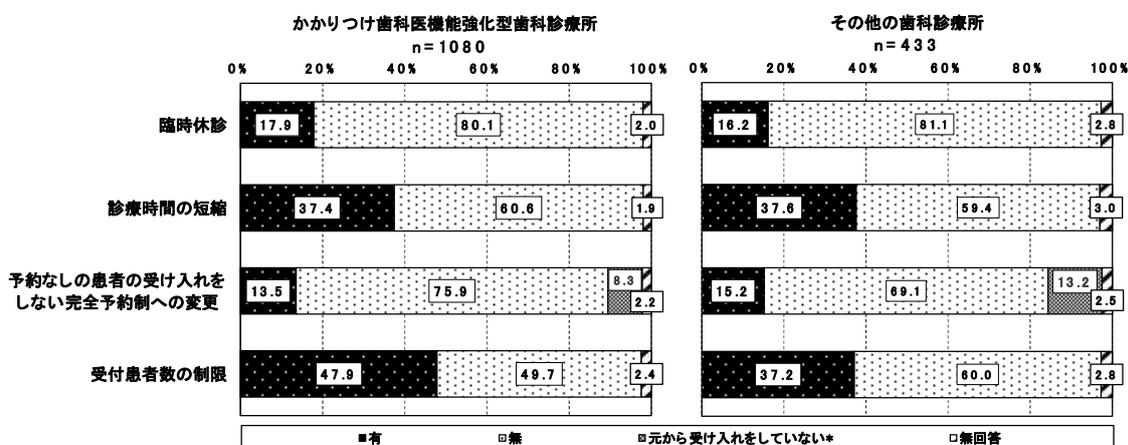
一回目の緊急事態宣言期間中における新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化の状況について、実施「有」の回答についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「受付患者数の制限」が47.9%で最も多く、次いで「診療時間の短縮」が37.4%であった。

その他の歯科診療所では、「診療時間の短縮」が37.6%で最も多く、次いで「受付患者数の制限」が37.2%であった。

臨時休診を実施した場合の日数については、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では平均6.5日、その他の歯科診療所では平均7.9日であった。

受付患者数の制限を実施した場合の制限割合については、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所、その他の歯科診療所ともに新型コロナウイルス感染症流行以前の平均6.4割まで制限した結果となった。

図表 2-63 一回目の緊急事態宣言期間中における新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化の状況



* 「元から受け入れをしていない」の選択肢は「予約なしの患者の受け入れをしない完全予約制への変更」の項目のみ

【臨時休診を実施した場合】

図表 2-64 一回目の緊急事態宣言期間中における臨時休診日数
 (① 1) で臨時休診を「実施した」と回答した場合のみ集計)

	n=193			n=70			(単位: 日)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			その他の歯科診療所			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
臨時休診日数	6.5	9.7	4	7.9	9.7	5	

【受付患者数の制限を実施した場合】

図表 2-65 一回目の緊急事態宣言前比の受付患者制限割合
 (① 4) で受付患者数の制限を「実施した」と回答した場合のみ集計)

	n=517			n=161			(単位: 割)
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所			その他の歯科診療所			
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
受付患者数の制限割合 (コロナ以前比)	6.4	3.8	7	6.4	1.6	7	

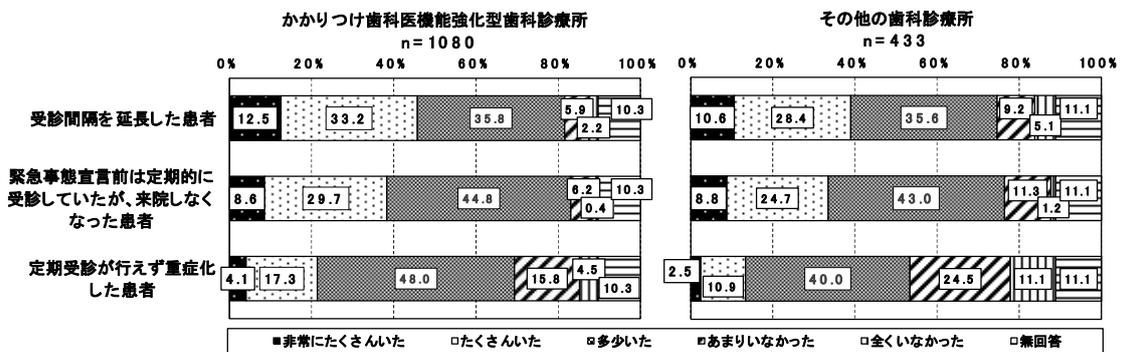
② 一回目の緊急事態宣言以降、調査時点までの新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化の状況

一回目の緊急事態宣言以降、調査時点までの新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化の状況についてみると、「受診間隔を延長した患者」については、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「非常にたくさんいた」が12.5%、「たくさんいた」が33.2%、「多少いた」が35.8%であった。その他の歯科診療所では、「非常にたくさんいた」が10.6%、「たくさんいた」が28.4%、「多少いた」が35.6%であった。

「緊急事態宣言前は定期的を受診していたが、来院しなくなった患者」については、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「非常にたくさんいた」が8.6%、「たくさんいた」が29.7%、「多少いた」が44.8%であった。その他の歯科診療所では、「非常にたくさんいた」が8.8%、「たくさんいた」が24.7%、「多少いた」が43.0%であった。

「定期受診が行えず重症化した患者」については、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「非常にたくさんいた」が4.1%、「たくさんいた」が17.3%、「多少いた」が48.0%であった。その他の歯科診療所では、「非常にたくさんいた」が2.5%、「たくさんいた」が10.9%、「多少いた」が40.0%であった。

図表 2-66 一回目の緊急事態宣言以降、調査時点までの新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化の状況



③ 患者数、診療報酬明細書の件数（令和元年～3年の4～6月各1か月間）

令和元年～3年の4～6月の各1か月間の患者数、診療報酬明細書の件数は以下のとおりであった。

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では、「令和元年4月」、「令和2年4月」、「令和3年4月」のそれぞれで「初診の患者数」の平均値をみると、それぞれ平均113.7人、平均75.4人、平均99.8人であった。

同様に「再診の延べ患者数」の平均値をみると、それぞれ平均651.6人、平均541.5人、平均682.2人であった。

同様に「診療報酬明細書の件数」の平均値をみると、それぞれ平均533.3件、平均424.1件、平均555.8件であった。

図表 2-67 患者数、診療報酬明細書の件数（令和元年～3年の各4～6月）
〈かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所〉

n=871 (患者数単位：人、明細書の件数：件)

		初診の患者数			再診の延べ患者数			診療報酬明細書の件数		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
令和元年	4月1か月間	113.7	120.9	82	651.6	537.3	525	533.3	425.6	428
	5月1か月間	109.6	112.7	79	620.7	512.8	504	516.7	406.9	421
	6月1か月間	122.7	127.5	87	672.8	553.3	544	555.9	435.5	449
令和2年	4月1か月間	75.4	79.9	54	541.5	445.4	448	424.1	326.9	347
	5月1か月間	80.3	87.3	57	514.0	423.7	419	415.6	323.5	334
	6月1か月間	117.5	130.5	80	647.5	530.1	525	526.0	408.8	422
令和3年	4月1か月間	99.8	109.4	70	682.2	561.1	541	555.8	426.2	450
	5月1か月間	89.7	96.2	63	626.8	514.0	508	522.3	400.1	424
	6月1か月間	103.5	114.9	72	694.0	564.5	553	567.8	436.2	461

その他の歯科診療所では、「令和元年4月」、「令和2年4月」、「令和3年4月」のそれぞれで「初診の患者数」の平均値をみると、それぞれ平均68.8人、平均46.0人、平均65.0人であった。

同様に「再診の延べ患者数」の平均値をみると、それぞれ平均356.2人、平均301.0人、平均355.8人であった。

同様に「診療報酬明細書の件数」の平均値をみると、それぞれ平均276.2件、平均223.6件、平均278.5件であった。

図表 2-68 患者数、診療報酬明細書の件数（令和元年～3年の各4～6月）
〈その他の歯科診療所〉

n=296 (患者数単位：人、明細書の件数：件)

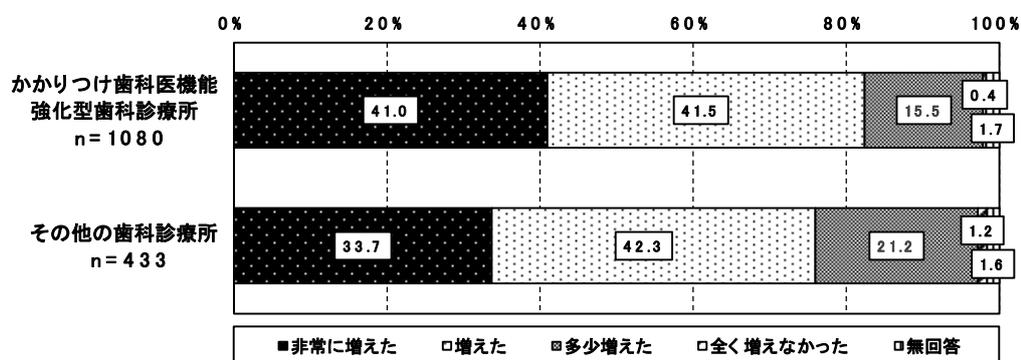
		初診の患者数			再診の延べ患者数			診療報酬明細書の件数		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
令和元年	4月1か月間	68.8	78.2	50.5	356.2	283.6	285.5	276.2	270.3	199
	5月1か月間	68.0	81.8	49	344.1	267.4	292	272.2	267.3	206.5
	6月1か月間	73.9	89.8	52	367.8	280.6	299.5	289.6	289.0	228
令和2年	4月1か月間	46.0	47.0	32	301.0	242.1	239	223.6	201.5	161
	5月1か月間	50.6	52.8	35	277.1	231.4	206.5	212.2	201.4	152.5
	6月1か月間	73.9	93.0	50	338.1	273.9	270	260.9	265.1	193.5
令和3年	4月1か月間	65.0	76.1	45	355.8	283.7	299.5	278.5	269.2	203.5
	5月1か月間	58.9	67.1	40	324.3	264.0	252.5	259.6	247.7	192
	6月1か月間	66.3	75.2	46	357.6	287.9	298.5	279.9	274.1	201

④ 新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、業務的負担の状況

新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、業務的負担の状況についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「非常に増えた」が41.0%、「増えた」が41.5%、「多少増えた」が15.5%であった。

その他の歯科診療所では、「非常に増えた」が33.7%、「増えた」が42.3%、「多少増えた」が21.2%であった。

図表 2-69 新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、業務的負担の状況

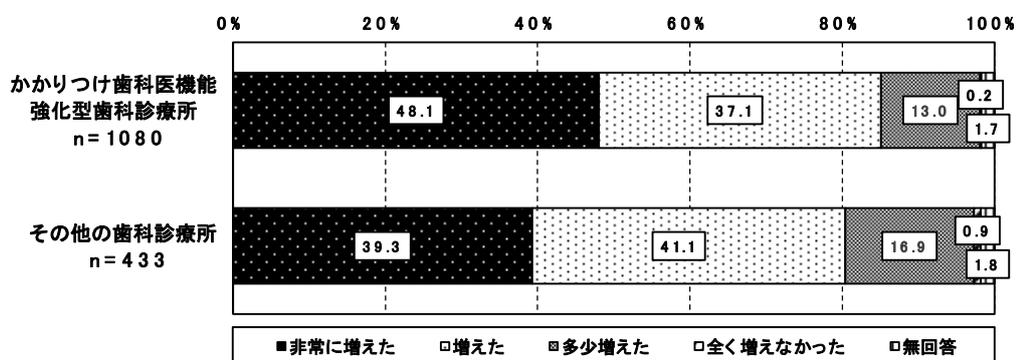


⑤ 新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、経済的負担の状況

新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、経済的負担の状況についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「非常に増えた」が48.1%、「増えた」が37.1%、「多少増えた」が13.0%であった。

その他の歯科診療所では、「非常に増えた」が39.3%、「増えた」が41.1%、「多少増えた」が16.9%であった。

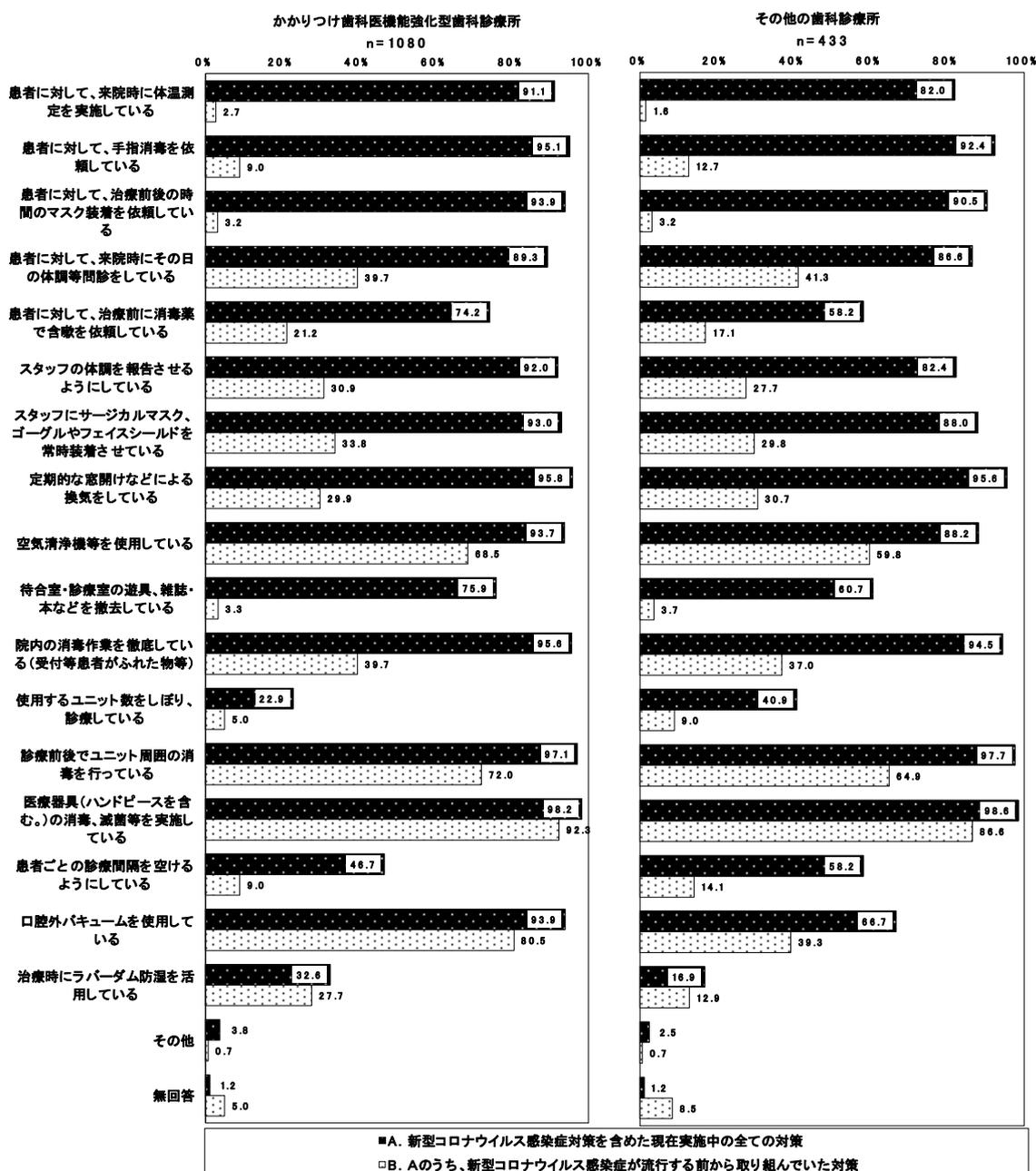
図表 2-70 新型コロナウイルス感染症に係る対策を行ったことによる、経済的負担の状況



⑥ 接触感染や飛沫感染に対する対策として実施中の対策と、そのうち新型コロナウイルス感染症流行以前からの対策

接触感染や飛沫感染に対する対策として実施中の対策と、そのうち新型コロナウイルス感染症流行以前からの対策をみると、ほとんどの選択肢で、新型コロナウイルス感染症の流行以前からの取組割合と比較して、新型コロナウイルス感染症の流行以降からの取組割合が大幅に高かった。

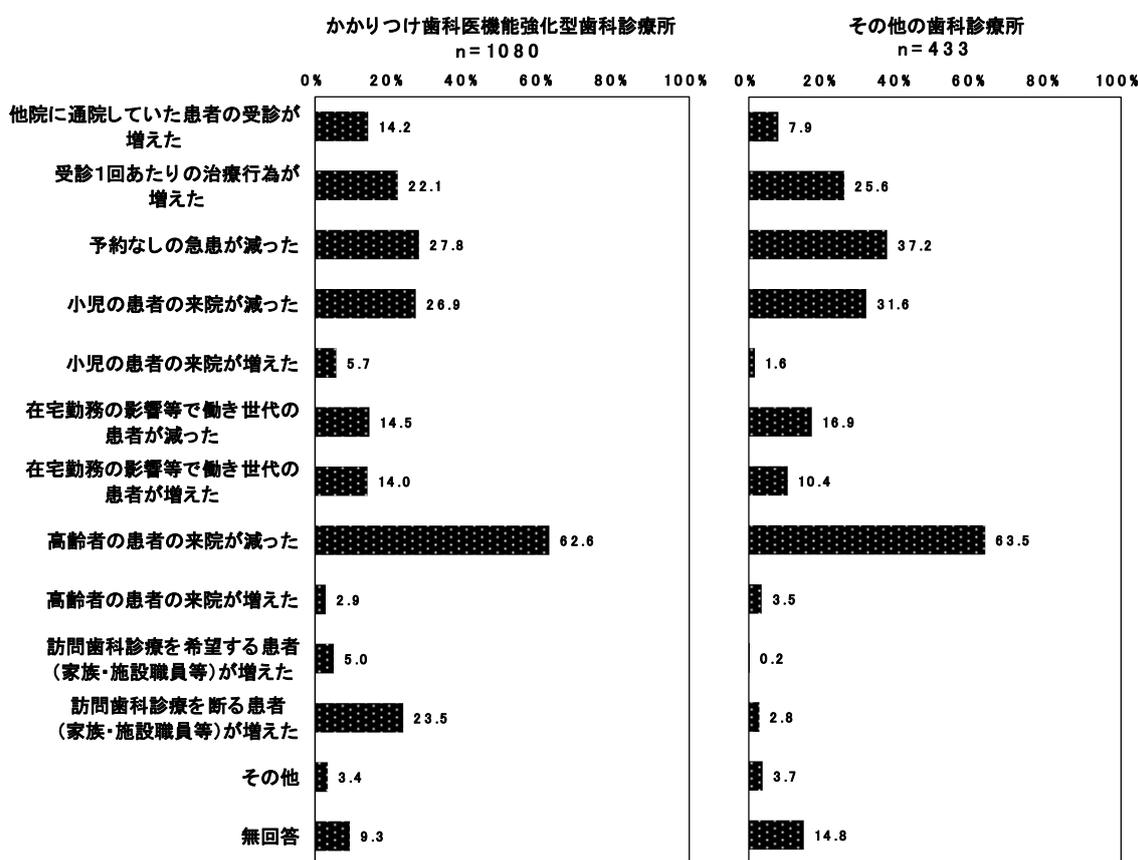
図表 2-71 接触感染や飛沫感染に対する対策として実施中の対策と、そのうち新型コロナウイルス感染症流行以前からの対策（複数回答）



⑦ 上記以外の新型コロナウイルス感染症や緊急事態宣言に伴う受療行動の変化や患者への健康影響等

設問①～⑥以外の新型コロナウイルス感染症や緊急事態宣言に伴う受療行動の変化や患者への健康影響等をみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「高齢者の来院が減った」が62.6%で最も多く、次いで「予約なしの急患が減った」が27.8%、「小児の患者の来院が減った」が26.9%であった。その他の歯科診療所でも、「高齢者の来院が減った」が63.5%で最も多く、次いで「予約なしの急患が減った」が37.2%、「小児の患者の来院が減った」が31.6%であった。

図表 2-72 上記以外の新型コロナウイルス感染症や緊急事態宣言に伴う受療行動の変化や患者への健康影響等（複数回答）

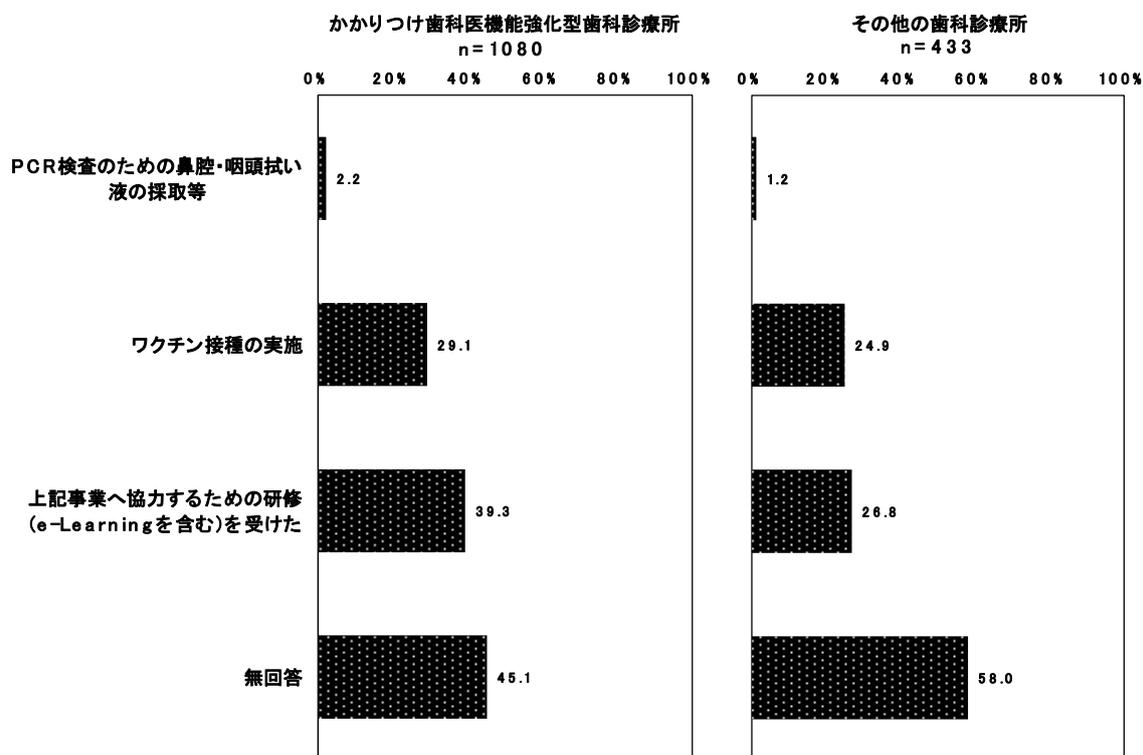


⑧ 自治体等が実施する新型コロナウイルス感染症に関する事業への協力状況

自治体等が実施する新型コロナウイルス感染症に関する事業への協力状況をみると、協力した施設の割合が、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「PCR検査のための鼻腔・咽頭拭い液の採取等」が2.2%、「ワクチン接種の実施」が29.1%、「上記事業へ協力するための研修（e-Learningを含む）を受けた」が39.3%であった。

その他の歯科診療所では、「PCR検査のための鼻腔・咽頭拭い液の採取等」が1.2%、「ワクチン接種の実施」が24.9%、「上記事業へ協力するための研修（e-Learningを含む）を受けた」が26.8%であった。

図表 2-73 自治体等が実施する新型コロナウイルス感染症に関する事業への協力状況（複数回答）



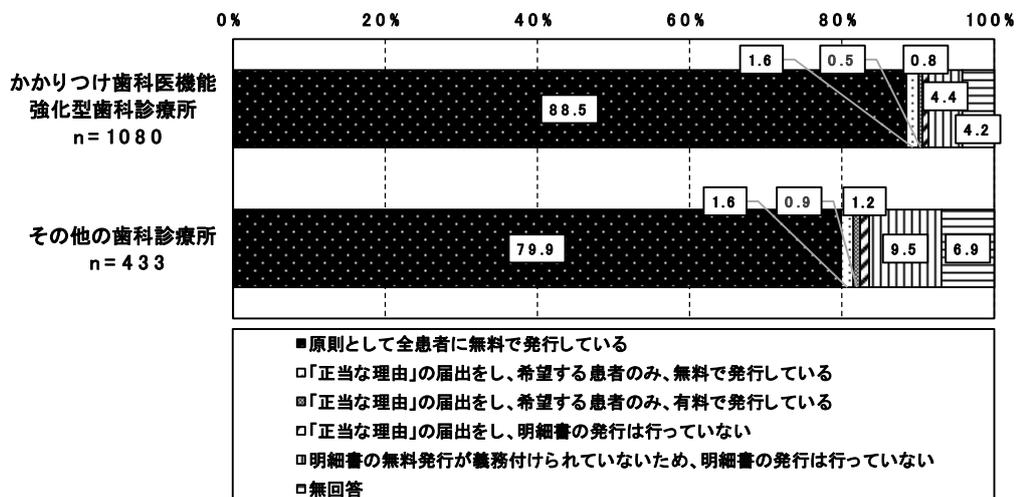
(6) 明細書の無料発行について

① 明細書の発行状況

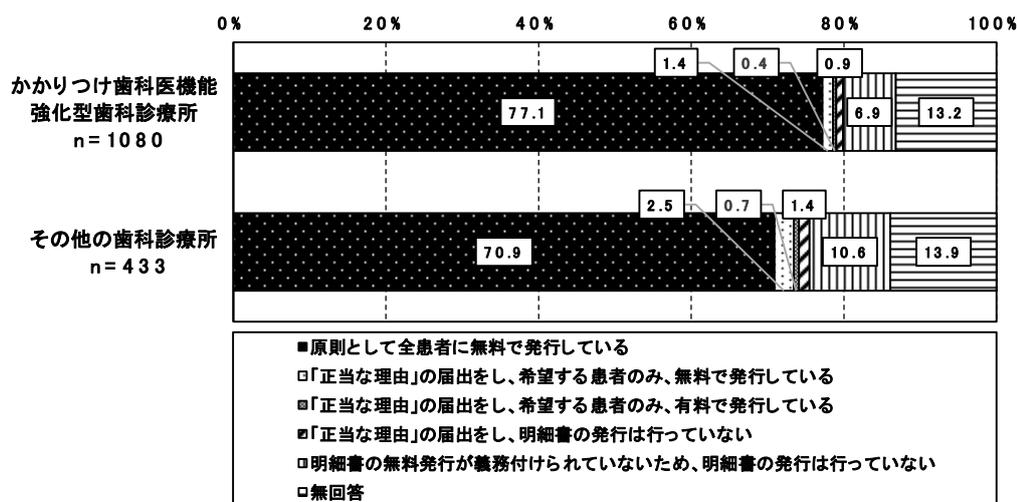
明細書の発行状況について、自己負担のある患者についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「原則として全患者に無料で発行している」が88.5%で最も多く、次いで「明細書の無料発行が義務付けられていないため、明細書の発行は行っていない」が4.4%であった。

その他の歯科診療所では「原則として全患者に無料で発行している」が79.9%で最も多く、次いで「明細書の無料発行が義務付けられていないため、明細書の発行は行っていない」が9.5%であった。

図表 2-74 自己負担のある患者への明細書の発行状況



図表 2-75 自己負担のない患者への明細書の発行状況



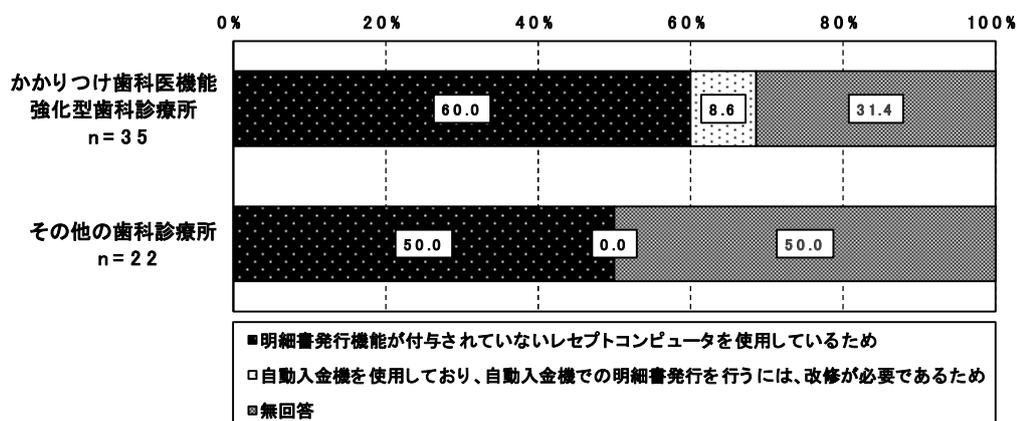
②-1 該当する「正当な理由」

(①で「正当な理由」の届出をしていると回答した場合のみ集計)

「正当な理由」の届出をしていると回答した施設の「正当な理由」の内容についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため」が60.0%、「自動入金機を使用しており、自動入金機での明細書発行を行うには、改修が必要であるため」が8.6%であった。

その他の歯科診療所では「明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため」が50.0%であり、「自動入金機を使用しており、自動入金機での明細書発行を行うには、改修が必要であるため」との回答はなかった。

図表 2-76 該当する「正当な理由」



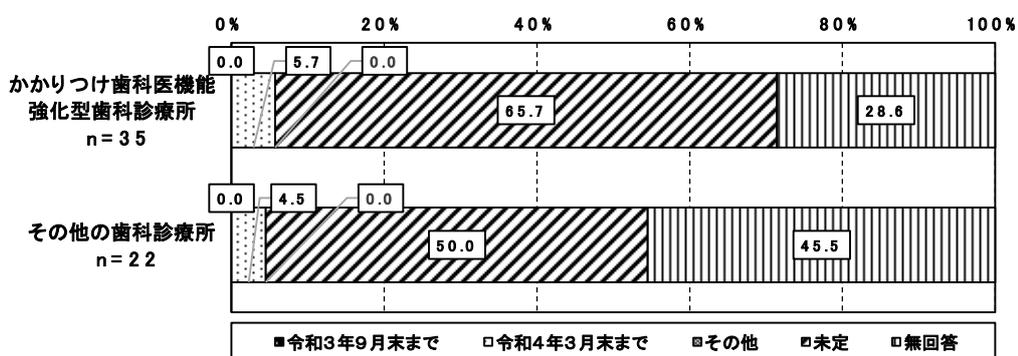
②-2 「正当な理由」への対応予定時期

(①で「正当な理由」の届出をしていると回答した場合のみ集計)

「正当な理由」の届出をしていると回答した施設の「正当な理由」への対応予定時期についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「未定」が65.7%で最も多く、次いで「令和4年3月末まで」が5.7%であった。

その他の歯科診療所でも「未定」が50.0%で最も多く、次いで「令和4年3月末まで」が4.5%であった。

図表 2-77 「正当な理由」への対応予定時期



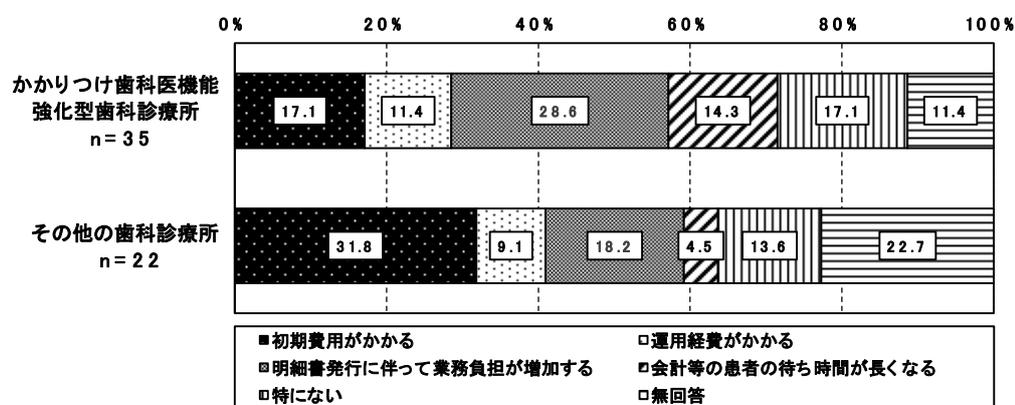
②-3 全患者に明細書を無料で発行するにあたり困ること

(①で「正当な理由」の届出をしていると回答した場合のみ集計)

「正当な理由」の届出をしていると回答した施設の全患者に明細書を無料で発行するにあたり困ることについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「明細書発行に伴って業務負担が増加する」が28.6%で最も多く、次いで「初期費用がかかる」、「特にない」がともに17.1%であった。

その他の歯科診療所では「初期費用がかかる」が31.8%で最も多く、次いで「明細書発行に伴って業務負担が増加する」が18.2%であった。

図表 2-78 全患者に明細書を無料で発行するにあたり困ること



3. 患者調査

(かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所・患者票)

(かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外の歯科診療所・患者票)

【調査対象等】

調査対象：施設調査対象施設（かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所 2,000 施設、その他の歯科診療所 1,000 施設）において、令和 3 年 8 月 11 日～9 月 17 日に受診した患者のうち、「歯科疾患管理料」を算定した再診患者に対し、受診日時順に最大 2 名に配布

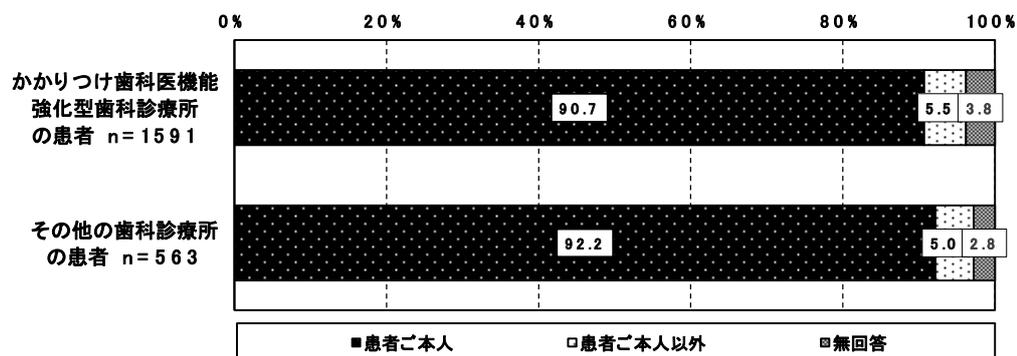
有効回答数：かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者 1,591 人分
 その他の歯科診療所の患者 563 人分

回答者：患者もしくは家族等

(0) 調査票の記入者

患者調査票の記入者は、次のとおりであった。

図表 3-1 調査票の記入者

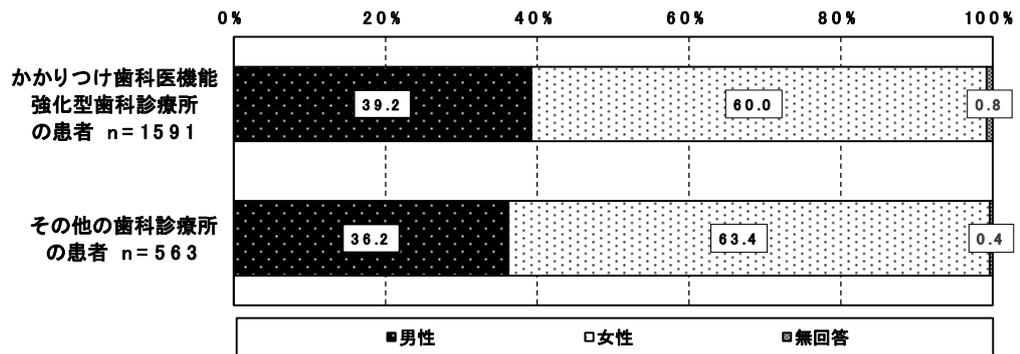


(1) 患者属性

① 患者の性別

患者の性別は、次のとおりであった。

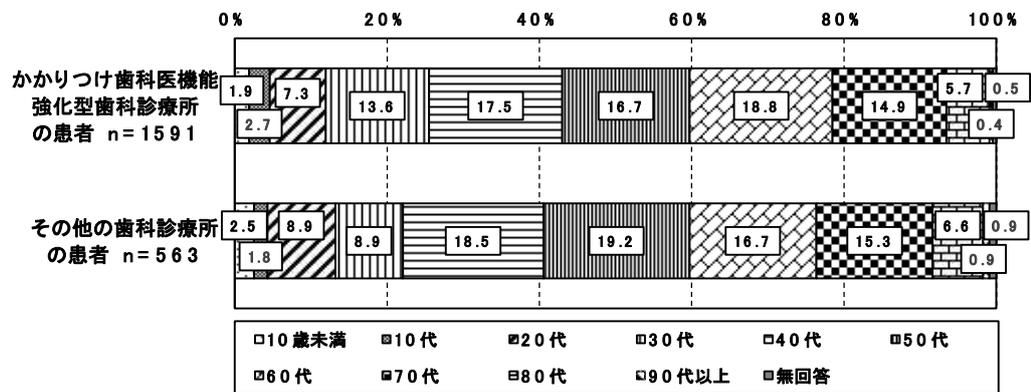
図表 3-2 患者の性別



② 患者の年齢

患者の年齢は、次のとおりであった。

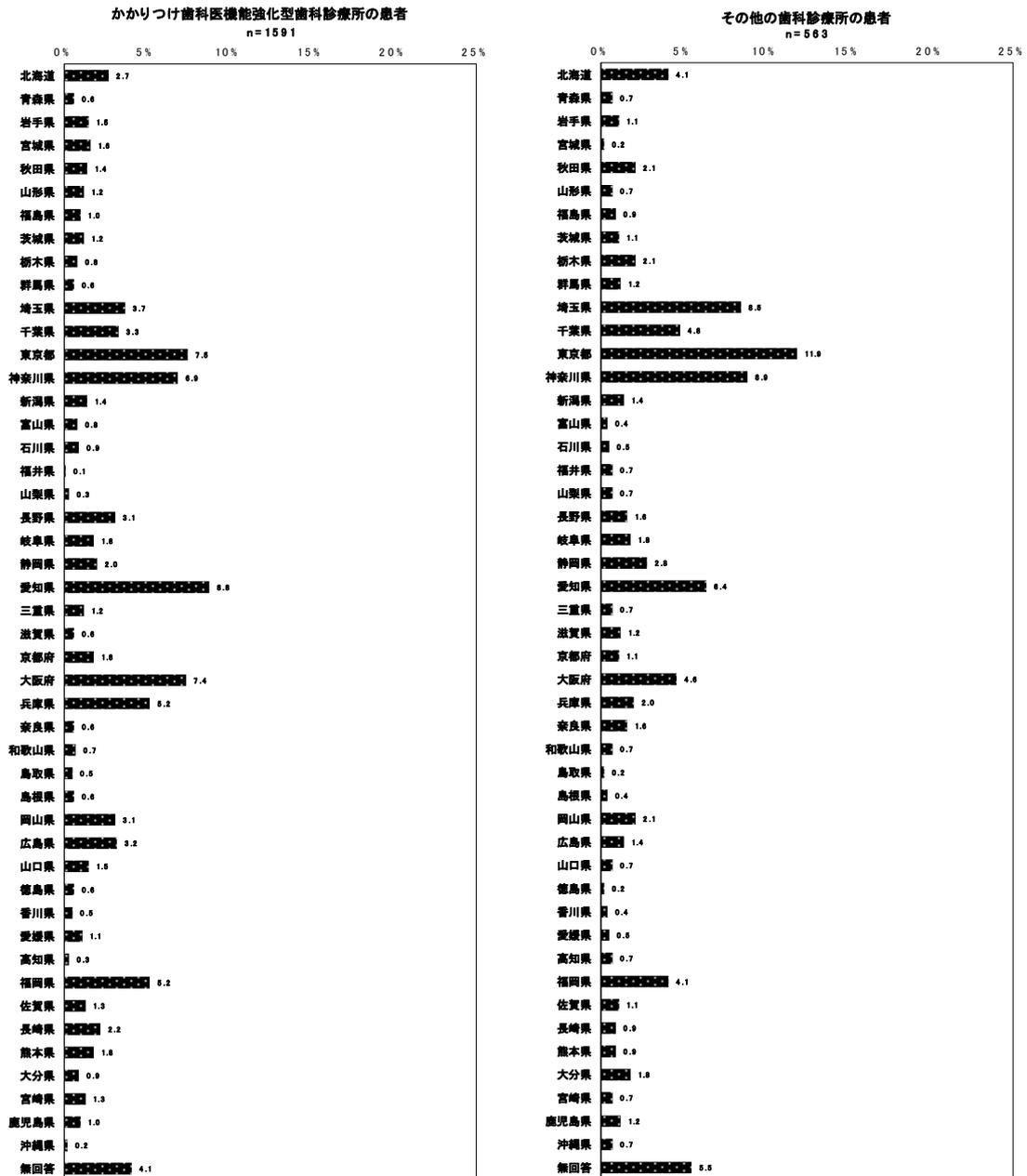
図表 3-3 患者の年齢



③ 患者の居住地

患者の居住地は、次のとおりであった。

図表 3-4 患者の居住地

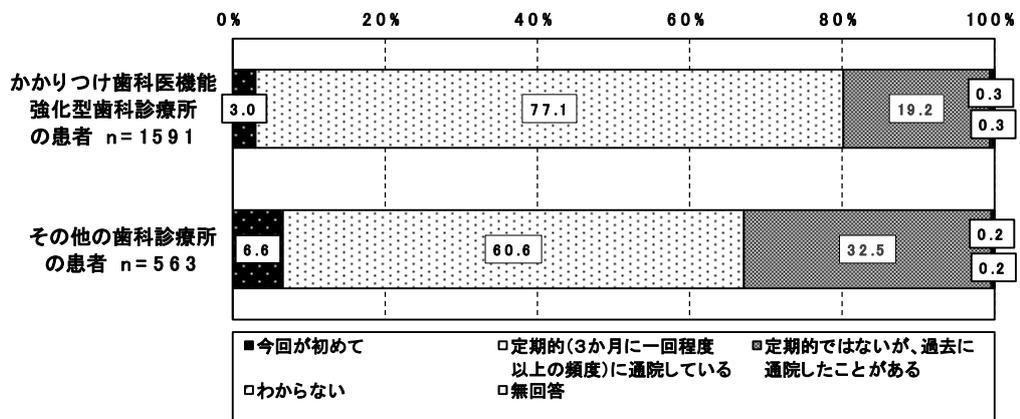


④ 当該歯科診療所への通院頻度

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「定期的（3か月に一回程度以上の頻度）に通院している」が77.1%と最も多かった。次いで、「定期的ではないが、過去に通院したことがある」が19.2%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「定期的（3か月に一回程度以上の頻度）に通院している」が60.6%と最も多かった。次いで、「定期的ではないが、過去に通院したことがある」が32.5%であった。

図表 3-5 当該歯科診療所への通院頻度

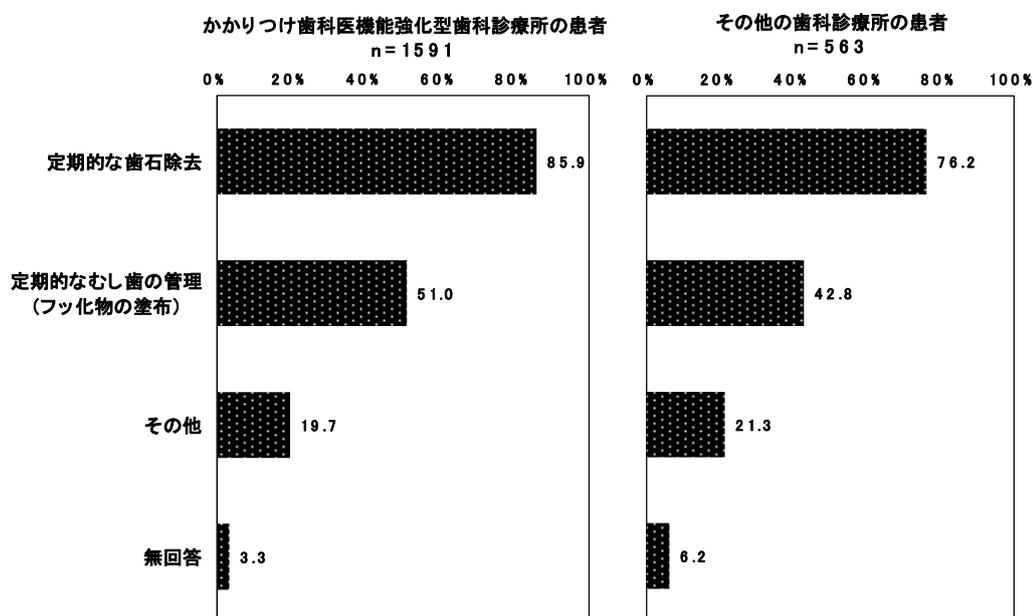


⑤ 当該歯科診療所でこれまでに受けたことのある治療

当該歯科診療所でこれまでに受けたことのある治療についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「定期的な歯石除去」が85.9%と最も多かった。次いで、「定期的なむし歯の管理（フッ化物の塗布）」が51.0%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「定期的な歯石除去」が76.2%と最も多かった。次いで、「定期的なむし歯の管理（フッ化物の塗布）」が42.8%であった。なお、両方の調査票の「その他」の治療内容としては、むし歯、義歯、歯周病、歯列矯正等があげられた。

図表 3-6 当該歯科診療所でこれまでに受けたことのある治療（複数回答）



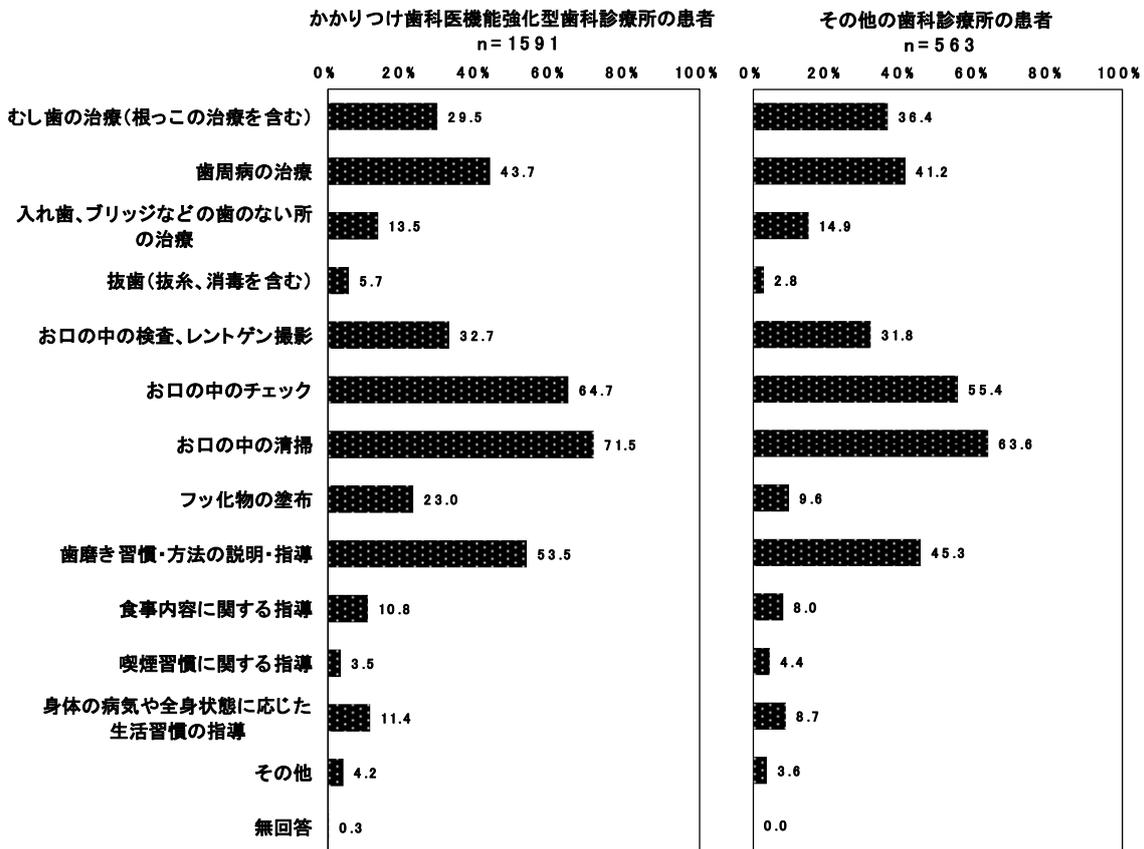
⑥ 当該歯科診療所で調査日に歯科医師もしくは歯科衛生士から受けた治療等の内容

当該歯科診療所で調査日に歯科医師もしくは歯科衛生士から受けた治療等の内容についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「お口の中の清掃」が71.5%と最も多かった。次いで、「お口の中のチェック」が64.7%、「歯磨き習慣・方法の説明・指導」が53.5%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「お口の中の清掃」が63.6%と最も多く、次いで、「お口の中のチェック」が55.4%、「歯磨き習慣・方法の説明・指導」が45.3%であった。

なお、両方の調査票の「その他」の治療内容としては、義歯の調整、矯正治療、マウスピースの調整等があげられた。

図表 3-7 当該歯科診療所で調査日に受けた治療等の内容（複数回答）



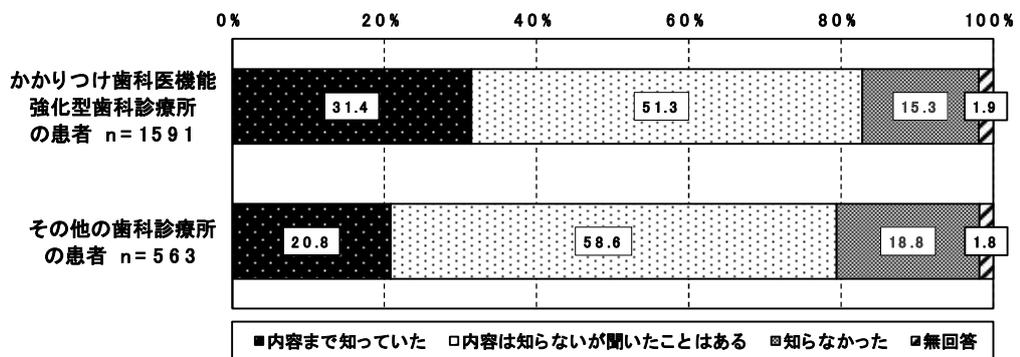
(2) かかりつけ歯科医について

① 「かかりつけ歯科医」の認知度

「かかりつけ歯科医」という言葉を知っていたかについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「内容まで知っていた」が31.4%、「内容は知らないが聞いたことはある」が51.3%であった。

その他の歯科診療所の患者では「内容まで知っていた」が20.8%、「内容は知らないが聞いたことはある」が58.6%であった。

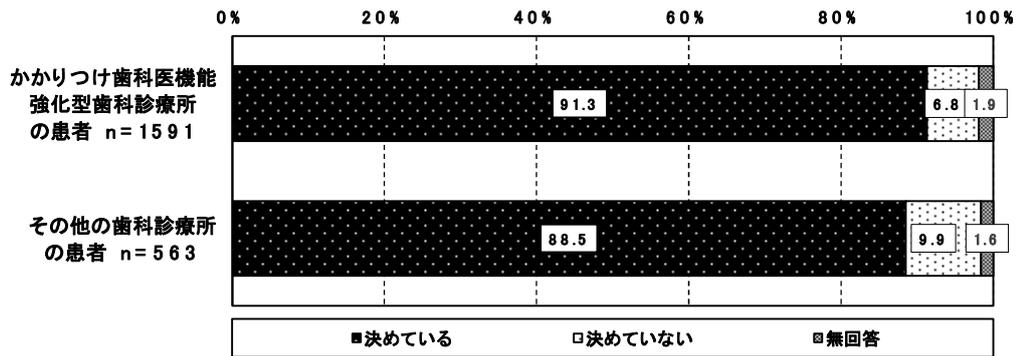
図表 3-8 「かかりつけ歯科医」の認知度



② かかりつけ歯科医の有無

かかりつけ歯科医を決めているかについてみると、「決めている」がかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者で91.3%、その他の歯科診療所の患者で88.5%であった。

図表 3-9 かかりつけ歯科医の有無

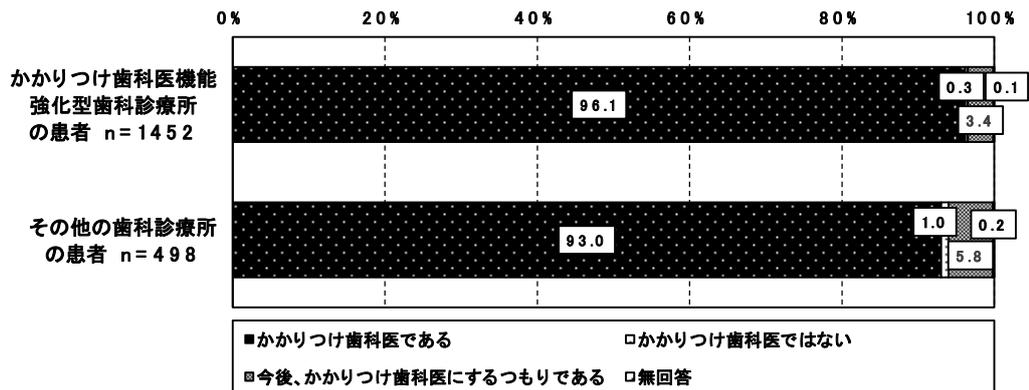


②-1 調査施設の医師がかかりつけ歯科医であるか

(②で「決めている」を選択した場合のみ集計)

かかりつけ歯科医を決めている場合に、当該歯科診療所がかかりつけ歯科医であるかについてみると、「かかりつけ歯科医である」がかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者で96.1%、その他の歯科診療所の患者で93.0%であった。

図表 3-10 調査施設の医師がかかりつけ歯科医か



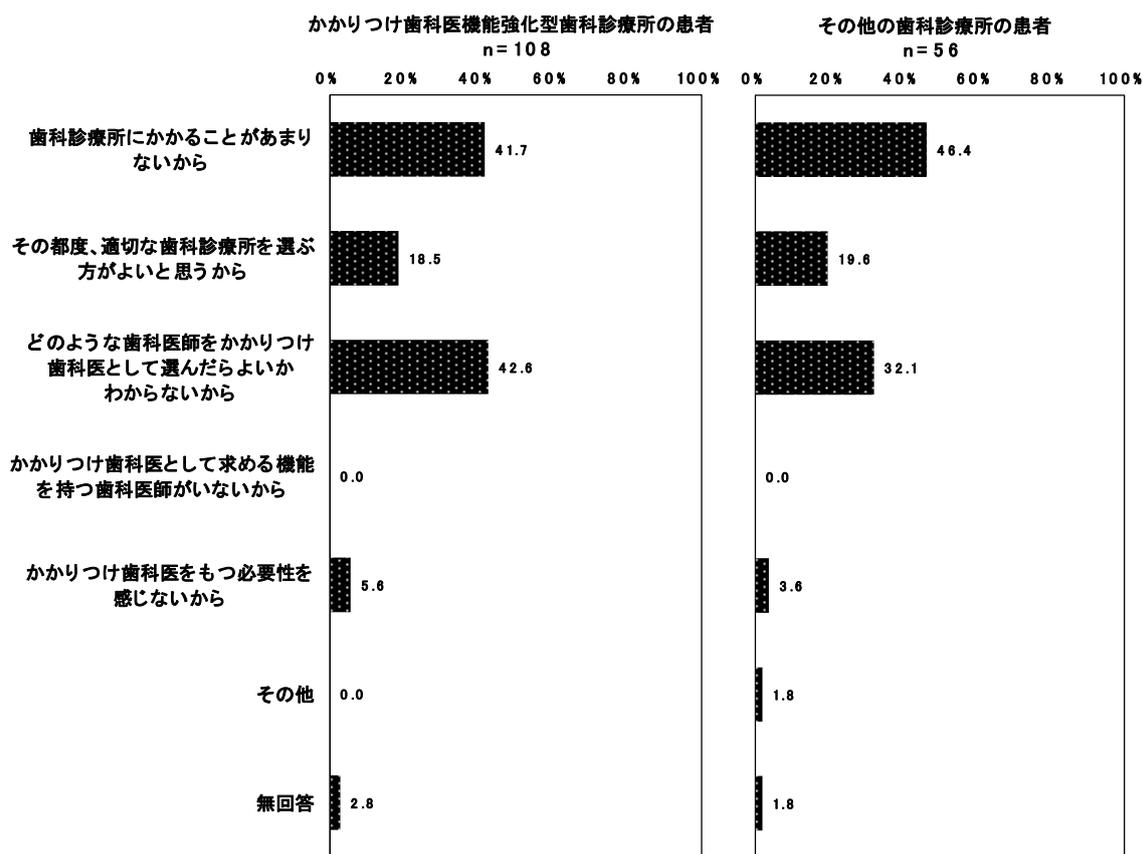
②-2 かかりつけ歯科医を決めていない理由

(②で「決めていない」を選択した場合のみ集計)

かかりつけ歯科医を決めていない場合に、その理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では「どのような歯科医師をかかりつけ歯科医として選んだらよいかわからないから」が42.6%で最も多く、次いで「歯科診療所にかかることがあまりないから」が41.7%、「その都度、適切な歯科診療所を選ぶ方がよいと思うから」が18.5%であった。

その他の歯科診療所の患者では、「歯科診療所にかかることがあまりないから」が46.4%で最も多く、次いで、「どのような歯科医師をかかりつけ歯科医として選んだらよいかわからないから」が32.1%、「その都度、適切な歯科診療所を選ぶ方がよいと思うから」が19.6%であった。なお、「その他」の内容としては、長期間にわたり歯科診療所にかかっていないことがあげられた。

図表 3-11 かかりつけ歯科医を決めていない理由（複数回答）



※n 数に留意が必要。

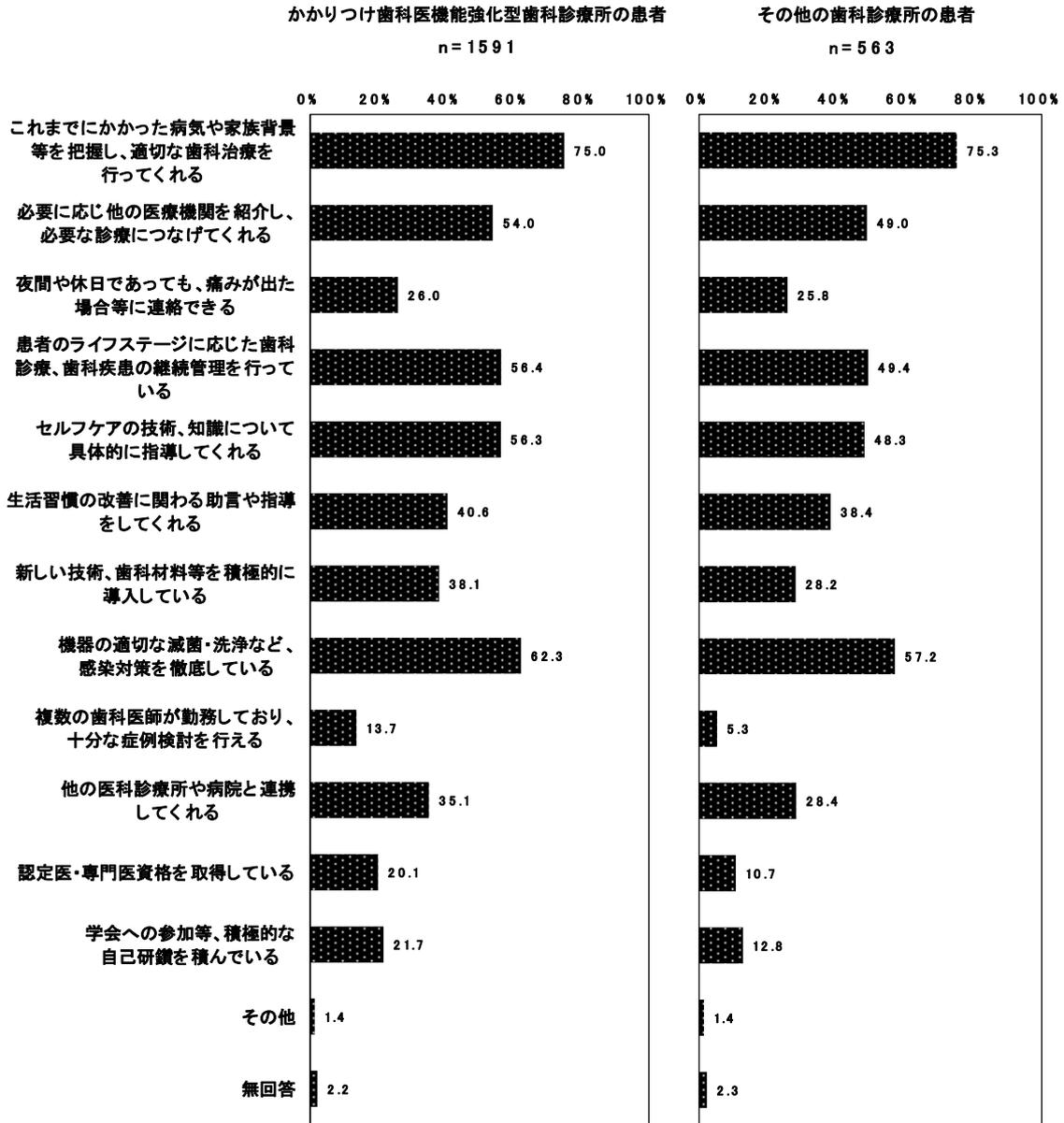
③ かかりつけ歯科医に求めるもの

かかりつけ歯科医に求めるものについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「これまでにかかった病気や家族背景等を把握し、適切な歯科治療を行ってくれる」が75.0%と最も多く、次いで、「機器の適切な滅菌・洗浄など、感染対策を徹底している」が62.3%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「これまでにかかった病気や家族背景等を把握し、適切な歯科治療を行ってくれる」が75.3%と最も多く、次いで、「機器の適切な滅菌・洗浄など、感染対策を徹底している」が57.2%であった。

なお、両方の調査票の「その他」の内容としては、説明がわかりやすい、気兼ねなく相談できる、家に近い、入れ歯等の技術に優れていること、痛くないこと等があげられた。

図表 3-12 かかりつけ歯科医に求めるもの（複数回答）



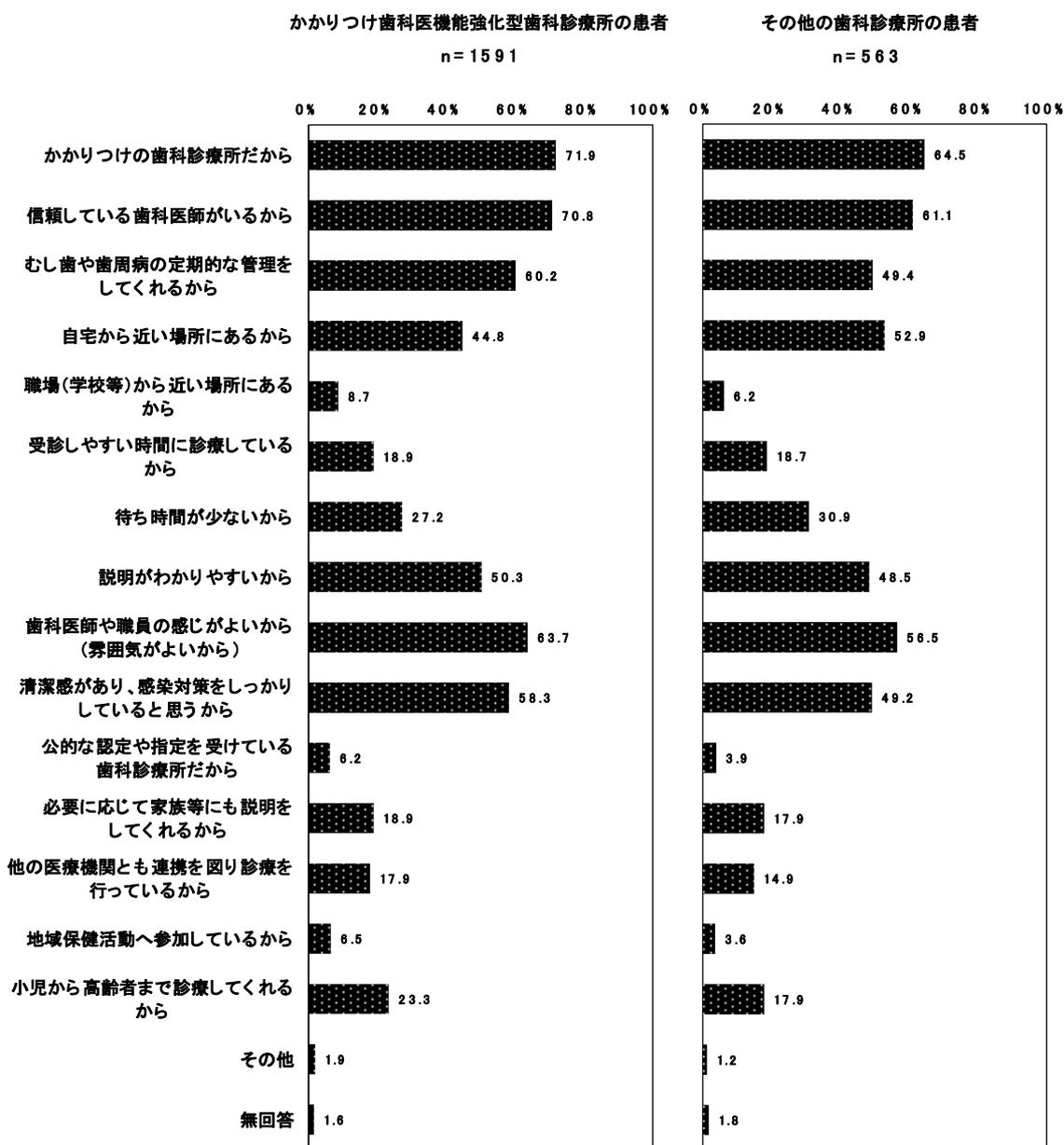
④ 当該歯科診療所の選択理由

当該歯科診療所を選んだ理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所では「かかりつけの歯科診療所だから」が71.9%と最も多く、次いで「信頼している歯科医師がいるから」が70.8%、「歯科医師や職員の感じがよいから（雰囲気がいから）」が63.7%、「むし歯や歯周病の定期的な管理をしてくれるから」が60.2%であった。なお、「公的な認定や指定を受けている歯科診療所だから」の具体的な内容としては、歯科医師会への所属、口腔外科の専門医、インプラントの専門医、歯周病の認定医、障害児歯科の認定医、社会医療法人、労災指定病院、歯科外来診療環境体制・かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所等があげられた。

その他の歯科診療所の患者では、「かかりつけの歯科診療所だから」が64.5%と最も多く、次いで「信頼している歯科医師がいるから」が61.1%、「歯科医師や職員の感じがよいから（雰囲気がよいから）」が56.5%、「自宅から近い場所にあるから」が52.9%であった。なお、「公的な認定や指定を受けている歯科診療所だから」の具体的な内容としては、学校区、保育園などの歯科医師、口腔保健センター、歯科医師会への所属、保険医等があげられた。

なお、両方の調査票の「その他」の理由としては、知人からの紹介（多数）、金銭面の具体的な説明があるため、総合病院であるため、バリアフリー、無料の託児等があげられた。

図表 3-13 当該歯科診療所の選択理由（複数回答）

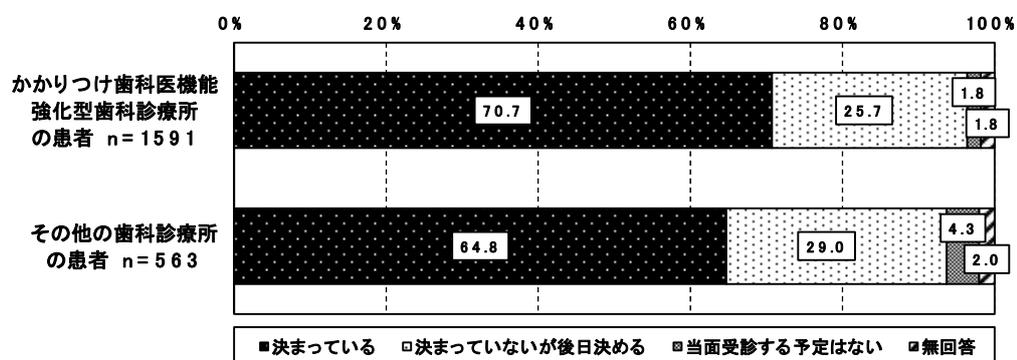


⑤ 当該歯科診療所を次回受診する予定

当該歯科診療所を次回受診する日時が決まっているかについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「決まっている」が70.7%、次いで「決まっていないが後日決める」が25.7%、「当面受診する予定はない」が1.8%であった。

その他の歯科診療所の患者では、「決まっている」が64.8%、次いで「決まっていないが後日決める」が29.0%、「当面受診する予定はない」が4.3%であった。

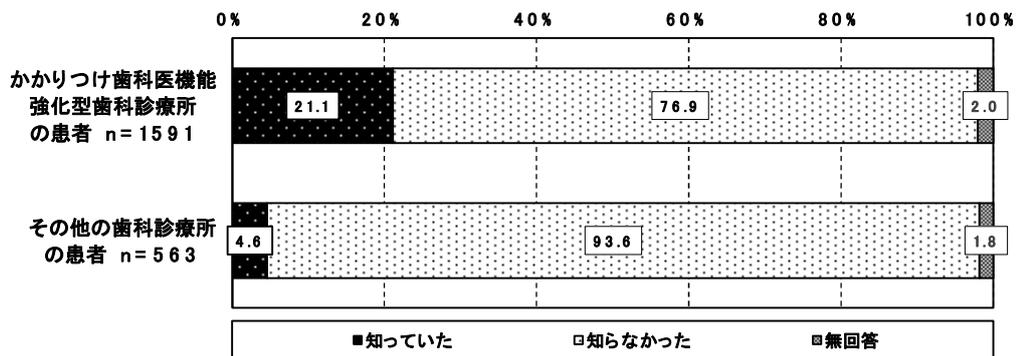
図表 3-14 当該歯科診療所を次回受診する予定



⑥ 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の認知度

「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」があることを知っていたかについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では「知っていた」が21.1%、「知らなかった」が76.9%であった。その他の歯科診療所の患者では、「知っていた」が4.6%、「知らなかった」が93.6%であった。

図表 3-15 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の認知度



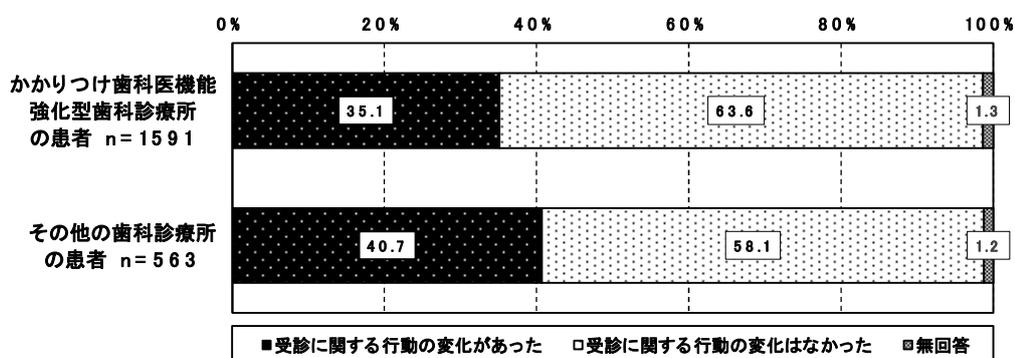
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による受療行動の変化等について

① 一回目の緊急事態宣言の発出以降調査時点までの、新型コロナウイルス感染症の影響による、受療行動の変化の有無

一回目の緊急事態宣言の発出以降調査時点までの、新型コロナウイルス感染症の影響による受療行動の変化の有無についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「受診に関する行動の変化があった」が35.1%、「受診に関する行動の変化はなかった」が63.6%であった。

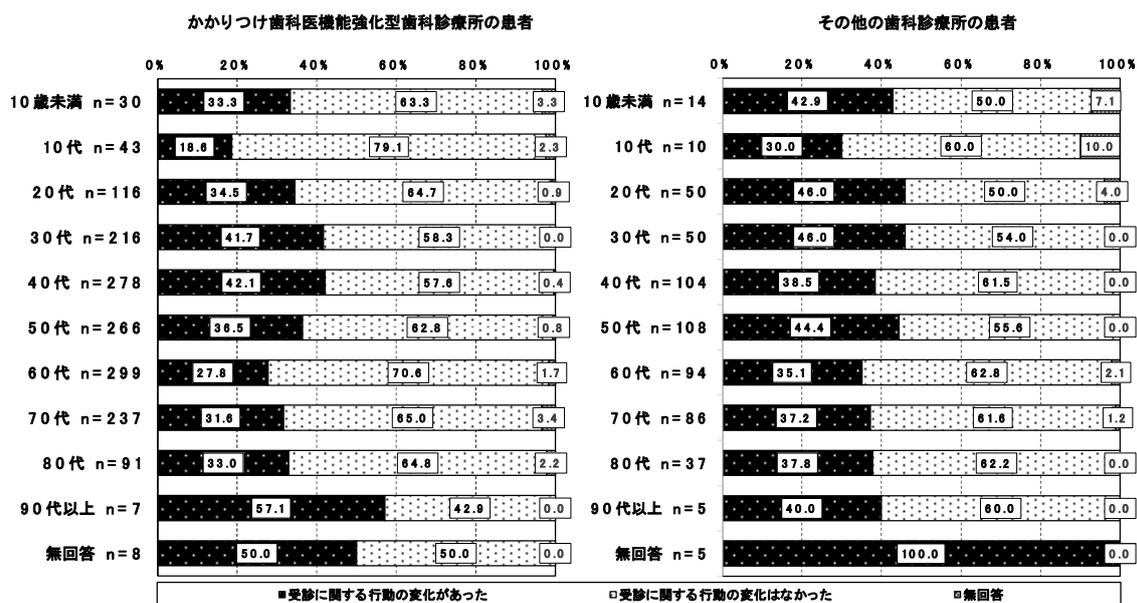
その他の歯科診療所の患者では、「受診に関する行動の変化があった」が40.7%、「受診に関する行動の変化はなかった」が58.1%であった。

図表 3-16 受療行動の変化の有無



さらに一回目の緊急事態宣言の発出以降調査時点までの、新型コロナウイルス感染症の影響による受療行動の変化の有無について年齢階級別にみると、いずれの施設においても20代から50代において、他の年代と比較し「受診に関する行動の変化があった」と回答した患者が多かった。

図表 3-17 受療行動の変化の有無（年齢別）



※ n 数に留意が必要。

② 受療行動の変化の内容

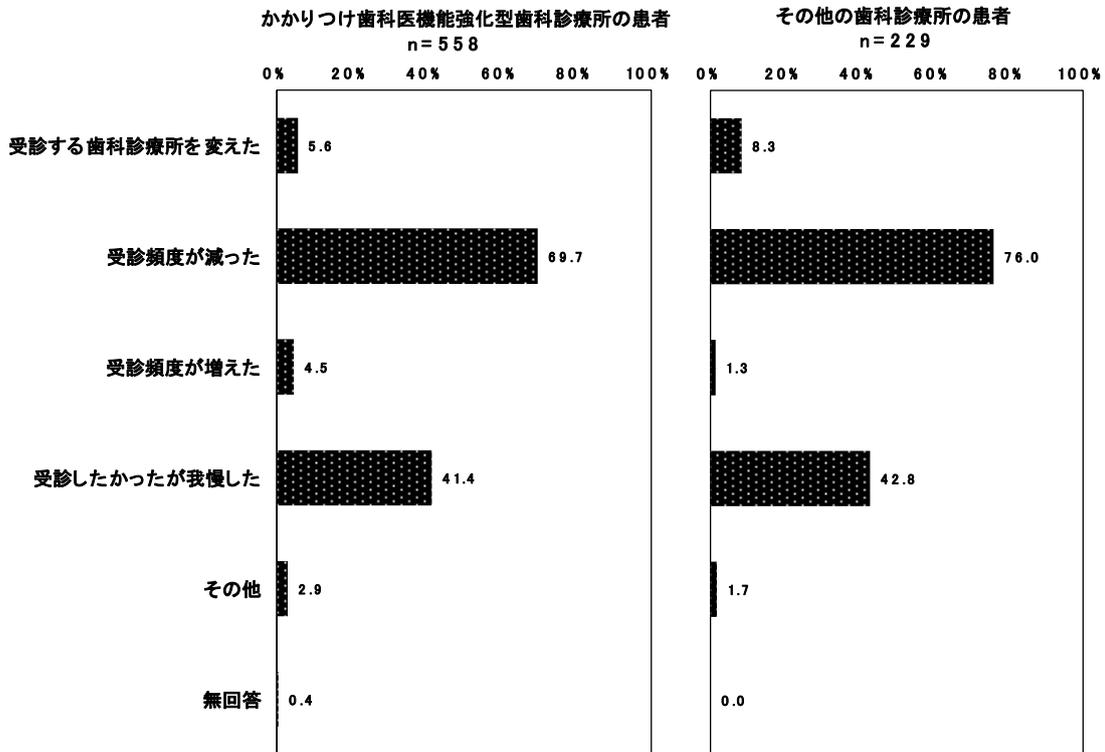
(①で「受診に関する行動の変化があった」を選択した場合のみ集計)

受診に関する行動の変化があった場合の内容についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「受診頻度が減った」が最も多く69.7%、次いで「受診しなかったが我慢した」が41.4%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「受診頻度が減った」が76.0%と最も多く、次いで「受診しなかったが我慢した」が42.8%であった。

なお、両方の調査票の「その他」の内容としては、体調を確認し受診するかを決めた、受診の必要性をあらかじめ電話で確認した、空いている時間・時期に変更した等があげられた。

図表 3-18 ② 受療行動の変化の内容 (複数回答)



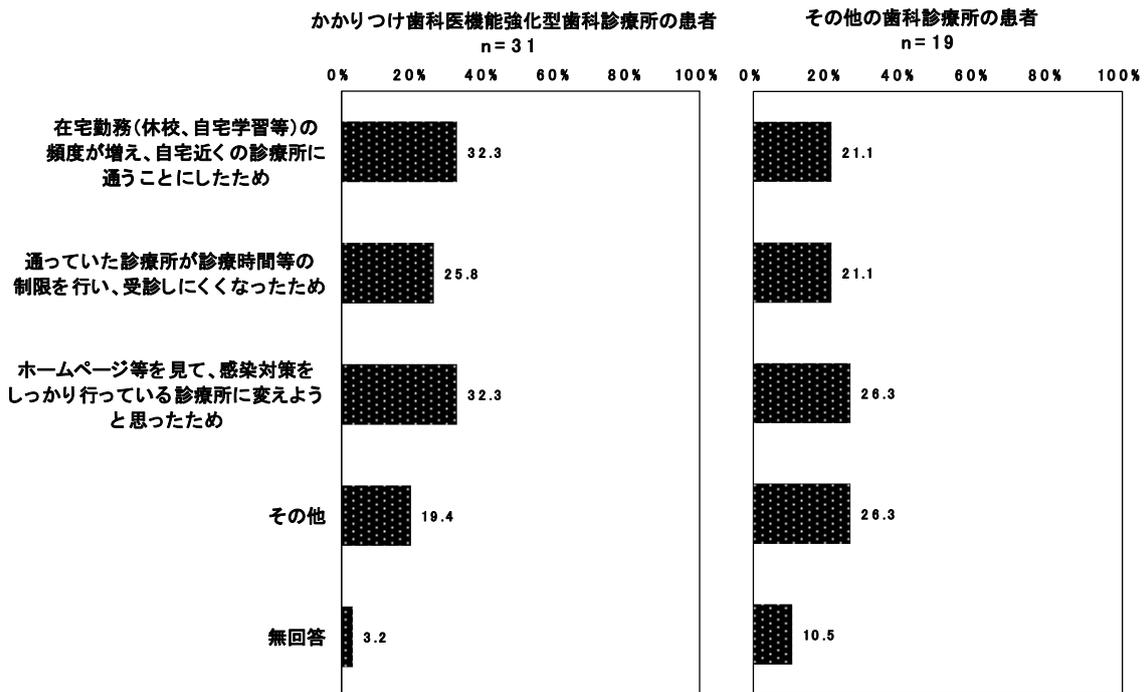
③ 受診する歯科診療所を変更した場合の理由

(②で「受診する歯科診療所を変えた」を選択した場合のみ集計)

受診する歯科診療所を変えた場合の理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「在宅勤務（休校、自宅学習等）の頻度が増え、自宅近くの診療所に通うことにしたため」と「ホームページ等を見て、感染対策をしっかりと行っている診療所に変えようと思ったため」が最も多くともに32.3%であった。次いで、「通っていた診療所が診療時間等の制限を行い、受診しにくくなったため」が25.8%であった。

その他の歯科診療所の患者では、「ホームページ等を見て、感染対策をしっかりと行っている診療所に変えようと思ったため」と「その他」が最も多くともに26.3%であった。次いで、「在宅勤務（休校、自宅学習等）の頻度が増え、自宅近くの診療所に通うことにしたため」と「通っていた診療所が診療時間等の制限を行い、受診しにくくなったため」がともに21.1%であった。

図表 3-19 受診する歯科診療所を変更した理由（複数回答）



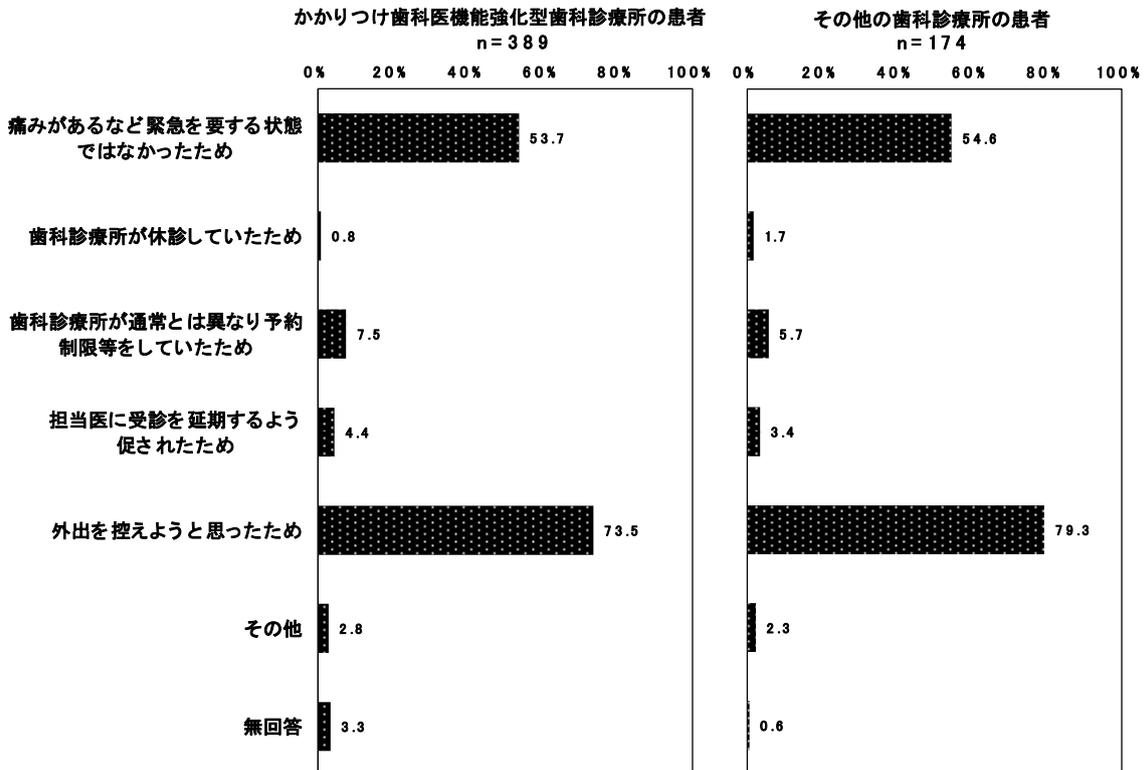
④ 受診頻度が減った場合の理由

(②で「受診頻度が減った」を選択した場合のみ集計)

受診頻度が減った場合の理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「外出を控えようと思ったため」が最も多く73.5%であった。次いで、「痛みがあるなど緊急を要する状態ではなかったため」が53.7%であった。なお、「その他」の内容としては、生活の変化(子どもの休校等で留守にできなくなった、勤務形態が変わった等)、家族から止められていた等があげられた。

その他の歯科診療所の患者でも、「外出を控えようと思ったため」が最も多く79.3%であった。次いで、「痛みがあるなど緊急を要する状態ではなかったため」が54.6%であった。

図表 3-20 受診頻度が減った理由(複数回答)

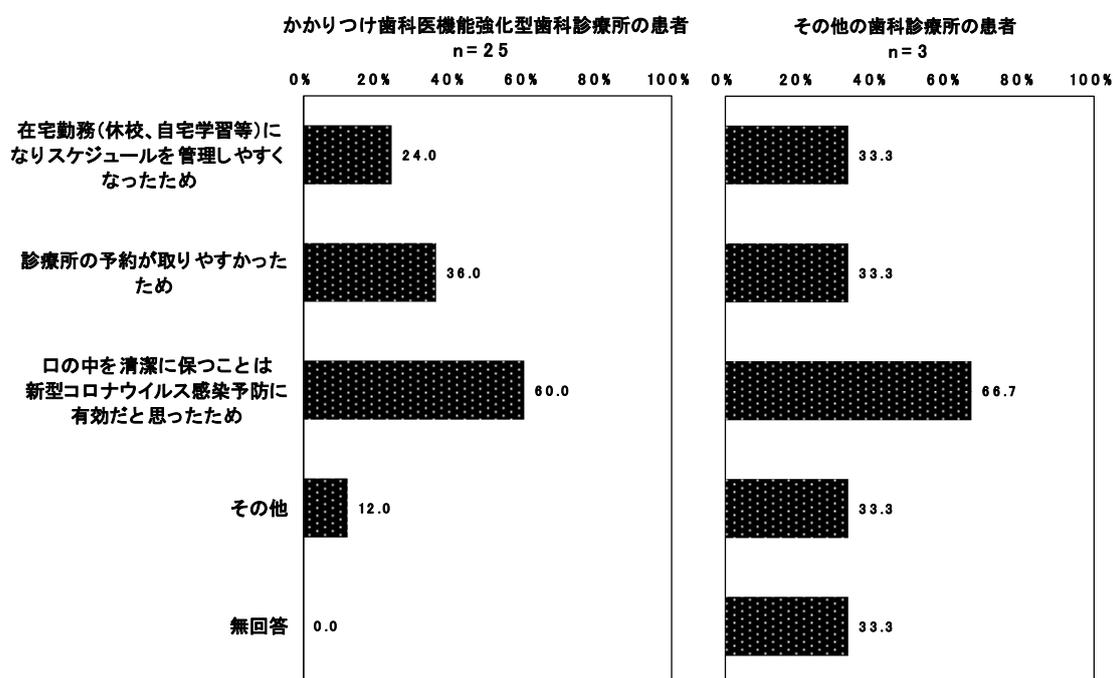


⑤ 受診頻度が増えた場合の理由

(②で「受診頻度が増えた」を選択した場合のみ集計)

受診頻度が増えた場合の理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「口の中を清潔に保つことは新型コロナウイルス感染予防に有効だと思ったため」が最も多く60.0%であった。次いで、「診療所の予約が取りやすかったため」が36.0%であった。

図表 3-21 受診頻度が増えた理由（複数回答）



※ n数が少ないことに留意が必要。

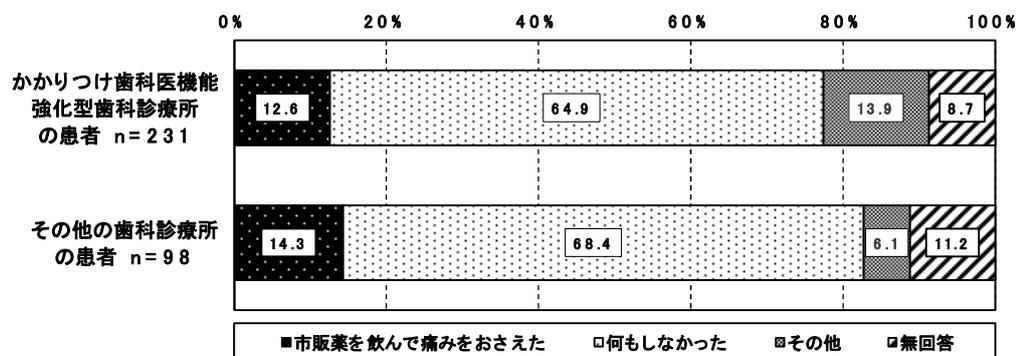
⑥ 受診を控えている間の対処方法

(②で「受診したかったが我慢した」を選択した場合のみ集計)

受診したかったが我慢した場合の対処方法についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「何もしなかった」が最も多く64.9%であった。次いで、「その他」が13.9%、「市販薬を飲んで痛みをおさえた」が12.6%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「何もしなかった」が最も多く68.4%であった。次いで、「市販薬を飲んで痛みをおさえた」が14.3%、「その他」が6.1%であった。

図表 3-22 受診を控えている間の対処方法



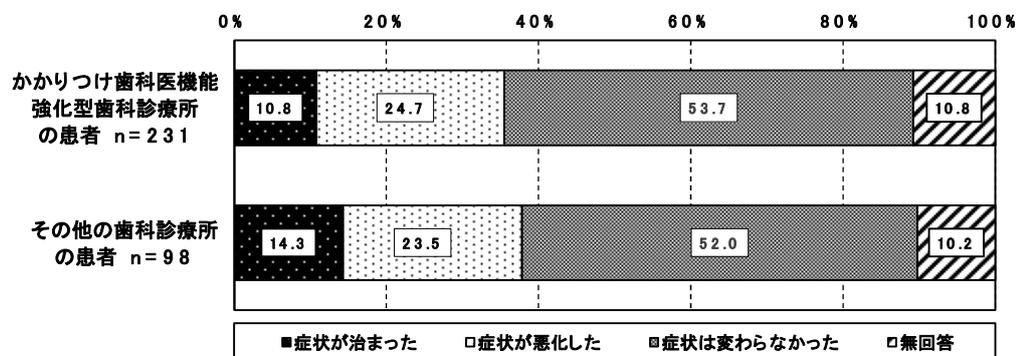
⑦ 受診を控えた結果

(②で「受診したかったが我慢した」を選択した場合のみ集計)

受診したかったが我慢した場合の結果についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「症状は変わらなかった」が最も多く 53.7%であった。次いで、「症状が悪化した」が 24.7%、「症状が治まった」が 10.8%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「症状は変わらなかった」が最も多く 52.0%であった。次いで、「症状が悪化した」が 23.5%、「症状が治まった」が 14.3%であった。

図表 3-23 受診を控えた結果

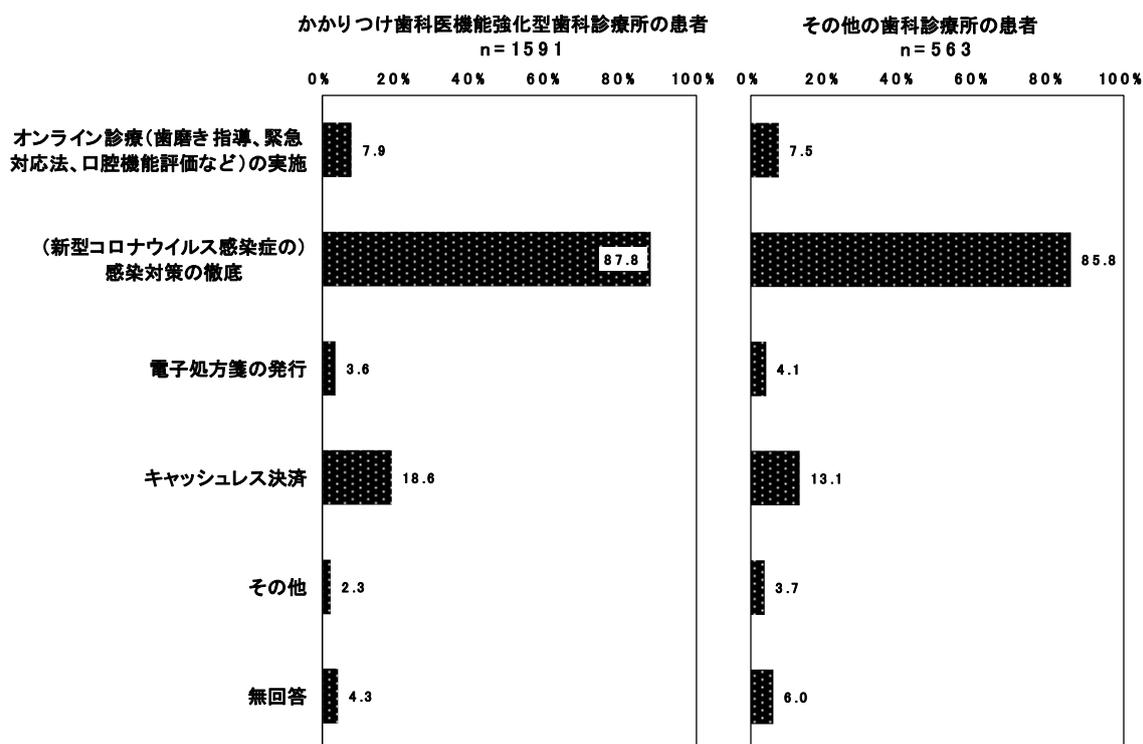


⑧ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、歯科診療所に求めること

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、歯科診療所に求めることについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「(新型コロナウイルス感染症の)感染対策の徹底」が最も多く87.8%であった。次いで、「キャッシュレス決済」が18.6%、「オンライン診療(歯磨き指導、緊急対応法、口腔機能評価など)の実施」が7.9%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「(新型コロナウイルス感染症の)感染対策の徹底」が最も多く85.8%であった。次いで、「キャッシュレス決済」が13.1%、「オンライン診療(歯磨き指導、緊急対応法、口腔機能評価など)の実施」が7.5%であった。

図表 3-24 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、歯科診療所に求めること
(複数回答)



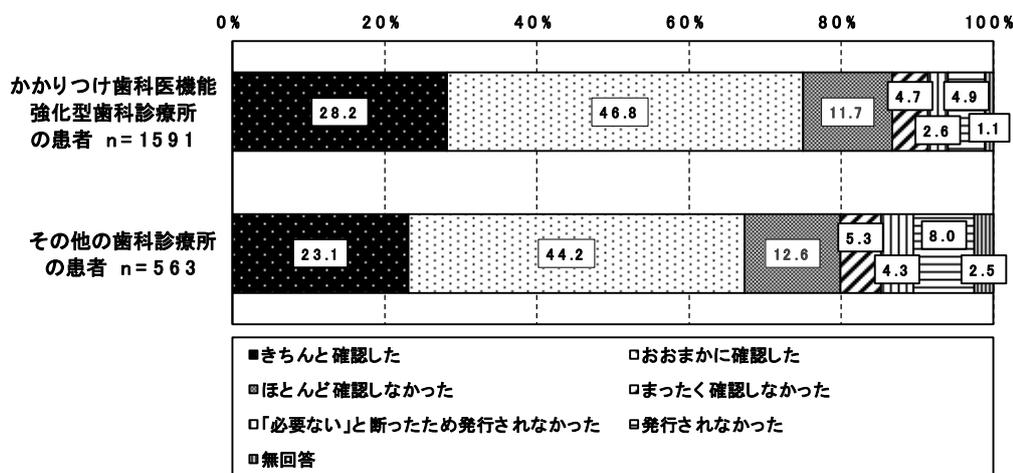
(4) 調査日における明細書の受取状況と明細書の受取に対する考えについて

① 調査日の診療についての明細書内容の確認状況

調査日に受けた診療に関する明細書の内容を確認したかについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「おおまかに確認した」が46.8%と最も多く、次いで「きちんと確認した」が28.2%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「おおまかに確認した」が44.2%と最も多く、次いで「きちんと確認した」が23.1%であった。

図表 3-25 調査日の診療についての明細書内容の確認状況



①-1 明細書を確認しなかった、受け取らなかった、断った場合の理由

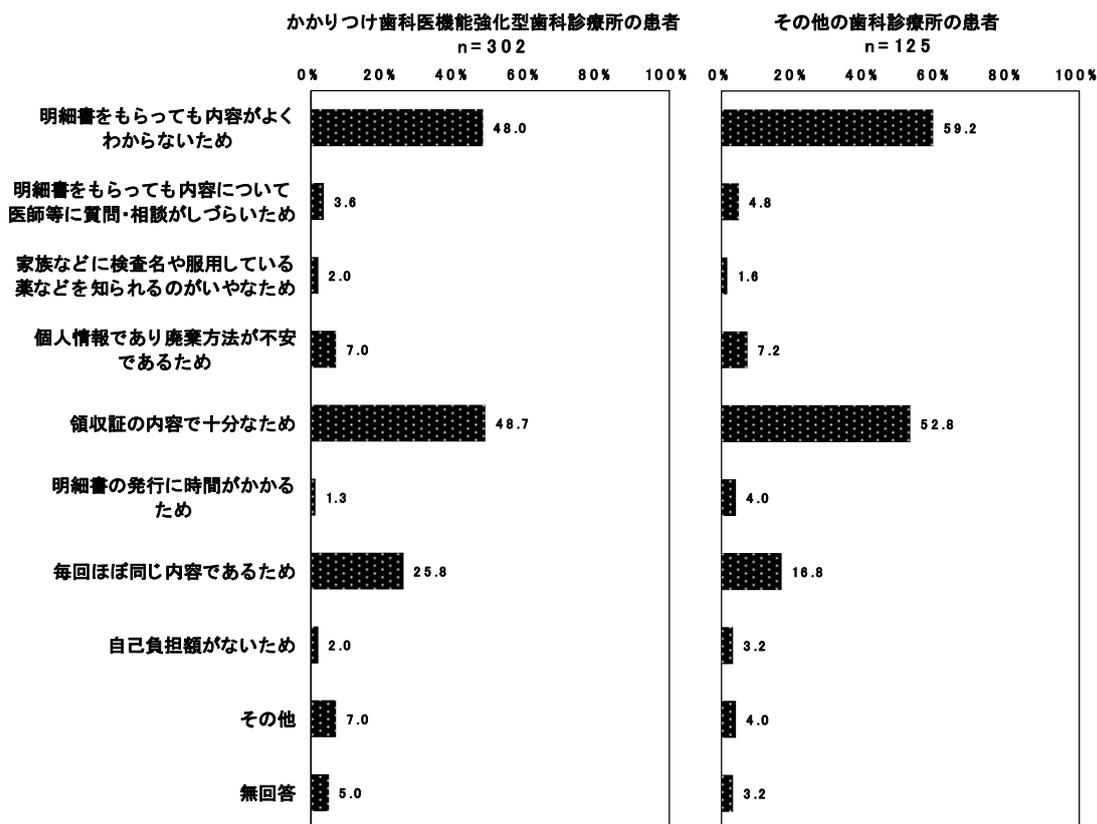
(①で「確認しなかった」、「受け取らなかった」、「断った」を選択した場合のみ集計)

明細書を確認しなかった、受け取らなかった、または断った理由についてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「領収証の内容で十分なため」が48.7%と最も多く、次いで「明細書をもらっても内容がよくわからないため」が48.0%、「毎回ほぼ同じ内容であるため」が25.8%であった。

その他の歯科診療所の患者では、「明細書をもらっても内容がよくわからないため」が59.2%と最も多く、次いで「領収証の内容で十分なため」が52.8%、「毎回ほぼ同じ内容であるため」が16.8%であった。

なお、両方の調査票の「その他」の内容としては、治療内容は歯科医師から説明されるから、紙資源がもったいないと感じるから、関心がないから等があげられた。

図表 3-26 明細書を確認しなかった、受け取らなかった、断った場合の理由
(複数回答)

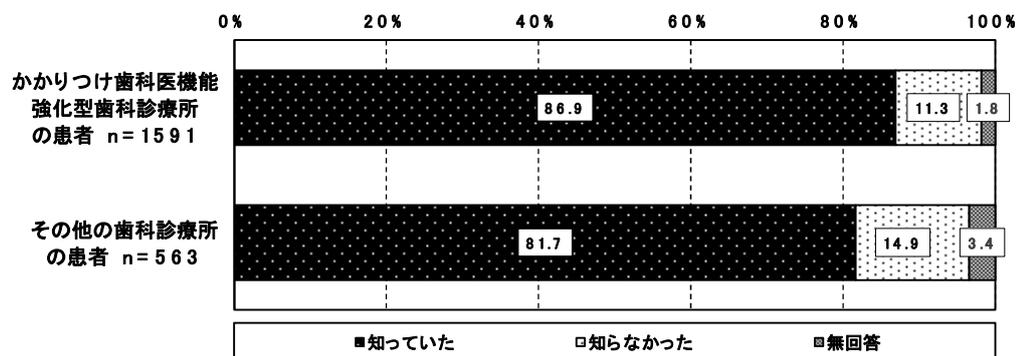


② 医療機関での会計の際に明細書を受け取れることの認知度

医療機関での会計の際に明細書を受け取れることを知っていたかについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「知っていた」が86.9%、「知らなかった」が11.3%であった。

その他の歯科診療所の患者では、「知っていた」が81.7%、「知らなかった」が14.9%であった。

図表 3-27 医療機関での会計の際に明細書を受け取れることの認知度

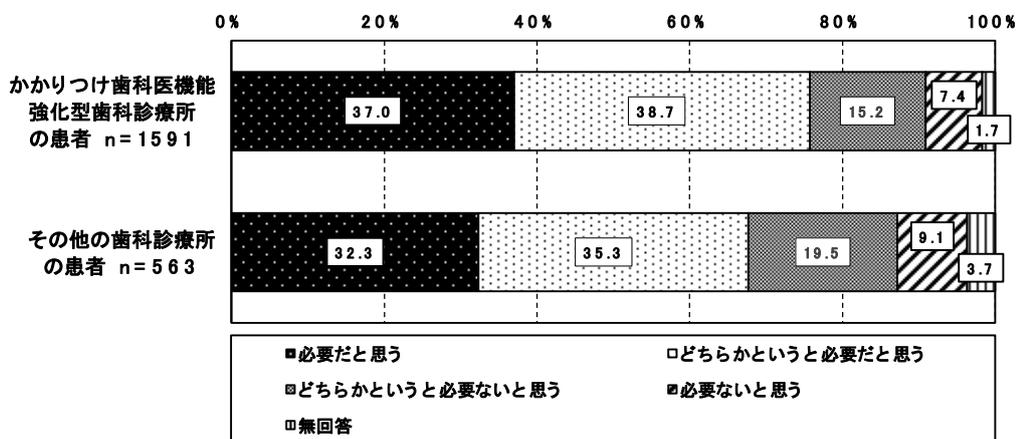


③ 医療機関を受診して会計を行う際に明細書を原則無料で受け取れる制度についての考え

医療機関を受診して会計を行う際に、明細書を原則無料で受け取れる制度について、どのように思うかについてみると、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では「どちらかという必要だと思う」が38.7%と最も多く、次いで「必要だと思う」が37.0%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「どちらかという必要だと思う」が35.3%と最も多く、次いで「必要だと思う」が32.3%であった。

図表 3-28 医療機関を受診して会計を行う際に、明細書を原則無料で受け取れる制度についての考え



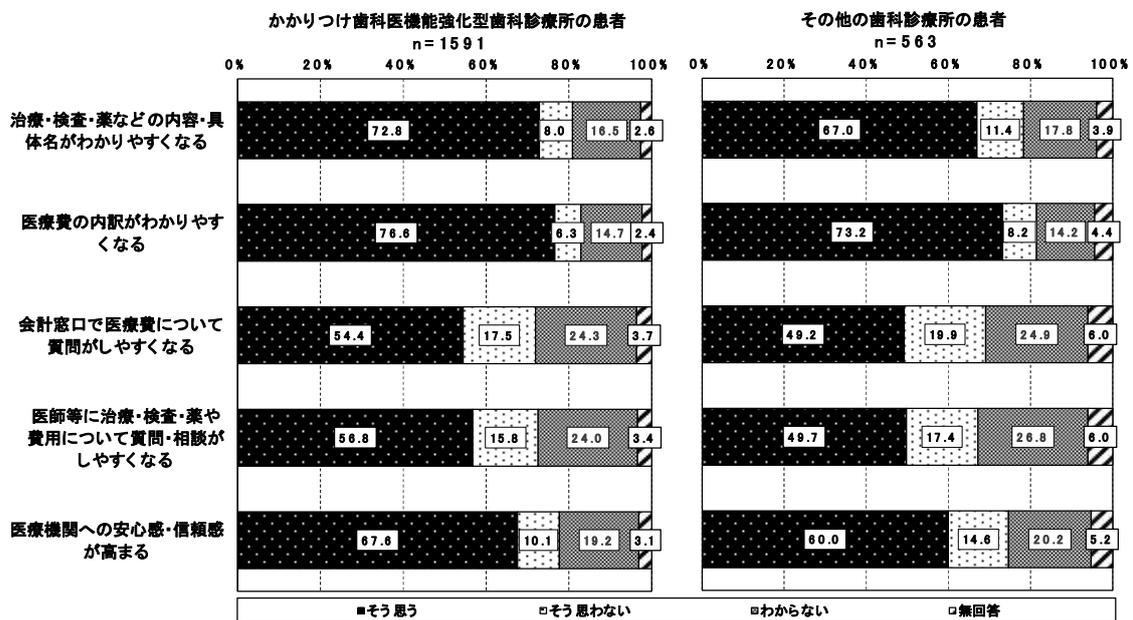
④ 明細書の内容を確認することでどのようなことに役立つと思うか

明細書の内容を確認することによってどのようなことに役立つと思うかについて、それぞれ該当状況をたずねたところ、「そう思う」の回答が最も多かったのは、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の患者では、「医療費の内訳がわかりやすくなる」で76.6%であった。次いで「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなる」で72.8%、「医療機関への安心感・信頼感が高まる」で67.6%、「医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなる」で56.8%、「会計窓口で医療費について質問がしやすくなる」で54.4%であった。

その他の歯科診療所の患者でも、「そう思う」の回答が最も多かったのは「医療費の内訳がわかりやすくなる」の73.2%であった。次いで「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなる」で67.0%、「医療機関への安心感・信頼感が高まる」で60.0%、「医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなる」で49.7%、「会計窓口で医療費について質問がしやすくなる」で49.2%であった。

なお、「6) その他」の具体的な回答は表のとおりである。

図表 3-29 明細書の内容を確認することでどのようなことに役立つと思うか



図表 3-30 明細書の内容を確認することで役立つと思うこと「6) その他」の具体的な回答（主な意見ごとに分類）

○料金が明快になり役立つ	検査料金がよくわかる
	治療の予算計画が立てられる
	入れ歯、材料、技工士に係る料金等がわかる
○場合により必要なとき、不要なときがある	歯石除去や点検のみの場合は不要と感じる
○特に必要がない	信頼している医院では不要と感じる
	不明点は歯科医師に質問できるため不要と感じる
○活用できていない	用語が難解
	紙媒体であり、カバンや財布に入れられない

NDB データを用いた集計

● 歯科疾患管理料等の算定状況

(令和2年11月診療分)

	算定医療機関数	算定回数
歯科疾患管理料（初診月）	59,010	4,448,430
歯科疾患管理料	59,221	10,865,877
フッ化物洗口指導加算	327	2,180
文書提供加算	42,129	7,267,350
エナメル質初期う蝕管理加算	7,586	569,200
総合医療管理加算	2,019	22,380
長期管理加算（かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の場合）	10,113	1,918,482
長期管理加算（イ以外の保険医療機関の場合）	44,244	2,851,438
小児口腔機能管理料	3,014	73,530
口腔機能管理料	2,286	38,160

(令和元年11月診療分)

	算定医療機関数	算定回数
歯科疾患管理料	59,380	15,523,683
フッ化物洗口指導加算	270	1,884
文書提供加算	41,784	7,295,539
エナメル質初期う蝕管理加算	7,118	475,799
総合医療管理加算	1,933	21,550
小児口腔機能管理加算	1,824	41,603
口腔機能管理加算	1,575	26,850

● 歯周病安定期治療の算定状況

(令和2年11月診療分)

	算定医療機関数	算定回数
歯周病安定期治療（Ⅰ）	16,803	451,270
1 1歯以上10歯未満	7,579	24,943
2 10歯以上20歯未満	11,623	76,710
3 20歯以上	15,764	349,617
歯周病安定期治療（Ⅱ）	8,570	688,177
1 1歯以上10歯未満	6,566	46,183
2 10歯以上20歯未満	7,695	123,484
3 20歯以上	8,328	518,510
歯周病重症化予防治療	10,206	148,183
1 1歯以上10歯未満	2,256	4,831
2 10歯以上20歯未満	4,221	16,026
3 20歯以上	9,738	127,326

(令和元年11月診療分)

	算定医療機関数	算定回数
歯周病安定期治療（Ⅰ）	15,387	422,045
1 1歯以上10歯未満	6,995	24,107
2 10歯以上20歯未満	10,657	73,189
3 20歯以上	14,437	324,749

歯周病安定期治療（Ⅱ）	8,000	580,987
1 1歯以上10歯未満	5,830	41,739
2 10歯以上20歯未満	7,007	109,243
3 20歯以上	7,713	430,005

ID _____

令和2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和3年度調査)
かかりつけ歯科医機能の評価や歯科疾患管理料の評価の見直しの
影響及び歯科疾患の継続的管理等の実施状況調査

施設票

- ※ この調査票は、歯科医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における歯科医療の実施状況や医療機関との連携状況等についてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をお書きください。()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をお書きください。
- ※ 特に断りのない場合は、令和3年7月1日時点の状況についてご記入ください。
- ※ 患者数について「実人数」と記載のある質問についてはレセプト件数と同数をお答えください。
- ※ 特に断りのない場合は、『医療保険』の歯科診療に関してお答えください。介護保険など、医療保険以外に関しては、設問内で指定がない場合には含みません。
- ※ 診療報酬明細書(レセプト)を手書きで記入している場合等、患者数や診療報酬明細書の枚数等の回答が困難な場合は、それ以外の設問のみを回答して頂く形でも構いません。
- ※ 災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の概要(令和3年7月1日時点)についてお伺いします。

① 開設主体 ※○は1つだけ	1. 個人 2. 法人 3. その他(具体的に)
② 標榜診療科 ※あてはまる番号すべてに○	1. 歯科 2. 矯正歯科 3. 小児歯科 4. 歯科口腔外科
③ 管理者の年齢 ※○は1つだけ	1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上
④ 医科の医療機関の併設状況 ※○は1つだけ	1. 併設している 2. 併設していない
⑤ 貴施設と同一建物内または同一敷地内の施設・事業所として該当するものをお選びください。(同一法人かどうかは問わない) ※あてはまる番号すべてに○	1. 訪問看護ステーション 2. 介護医療院 3. 介護老人保健施設 4. 介護老人福祉施設 5. 居宅介護支援事業所 6. 通所介護事業所 7. 地域包括支援センター 8. サービス付き高齢者向け住宅 9. 有料老人ホーム 10. 養護老人ホーム・軽費老人ホーム 11. 認知症高齢者グループホーム 12. その他(具体的に:) 13. 併設施設・事業所はない
⑥ 貴施設の歯科医師が所属している日本歯科医学会の専門分科会(法人格名は省略)として該当するものをお選びください。 ※あてはまる番号すべてに○ ※歯科医師が複数の場合は、1人以上所属しているすべての項目に○	1. 歯科基礎医学会 2. 日本歯科保存学会 3. 日本補綴歯科学会 4. 日本口腔外科学会 5. 日本矯正歯科学会 6. 日本口腔衛生学会 7. 日本歯科理工学会 8. 日本歯科放射線学会 9. 日本小児歯科学会 10. 日本歯周病学会 11. 日本歯科麻酔学会 12. 日本歯科医史学会 13. 日本歯科医療管理学会 14. 日本歯科薬物療法学会 15. 日本障害者歯科学会 16. 日本老年歯科医学会 17. 日本歯科医学教育学会 18. 日本口腔インプラント学会 19. 日本顎関節学会 20. 日本臨床口腔病理学会 21. 日本接着歯学会 22. 日本歯内療法学会 23. 日本レーザー歯学会 24. 日本スポーツ歯科医学会 25. 日本有病者歯科医療学会 26. その他()

⑦ 貴施設において作成・提出している診療報酬明細書（レセプト）の媒体をお選びください。※○は1つだけ

1. 電子レセプト（オンライン請求、CD等の電子媒体による請求）
2. 紙レセプト（レセコンで作成したものを紙媒体に印刷して請求）
3. 紙レセプト（手書き）

⑧ 他の医療機関や訪問看護ステーション、薬局、居宅介護支援事業者等の関係機関の職員と情報共有・連携を行うために、ICT（情報通信技術）を活用しているかお選びください。※○は1つだけ
また、「1. ICTを活用している」を選んだ場合、活用しているICTを全てお選びください。

1. ICTを活用している



活用しているICT ※あてはまる番号 すべてに○	11. メール 12. 電子掲示板 13. グループチャット 14. ビデオ通話（オンライン会議システムを含む） 15. 地域医療情報連携ネットワーク* 16. 自院を中心とした専用の情報連携システム 17. その他（具体的に： _____） ※地域において病診連携など、主に電子カルテ情報を用いて医療情報の連携を行っているネットワーク
--------------------------------	---

2. ICTを活用していない

⑨ 歯科外来等感染症対策実施加算*1の有無 ※○は1つだけ

	1. あり	2. なし
--	-------	-------

※1 特に必要な感染予防策を講じた上で診療を行い、歯科診療報酬点数表の次に掲げる点数を算定する場合、「A002 再診料」注9に規定する明細書発行体制加算の5倍に相当する点数(5点)をさらに算定できることとしています。
 ア 初診料、イ 再診料、ウ 歯科訪問診療料 等
 (令和3年2月26日厚生労働省保険局医療課事務連絡「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて(その35)」より抜粋)

⑩ 施設基準(届出のあるもの)として該当するものをお選びください。 ※あてはまる番号すべてに○

⑩ 施設基準(届出のあるもの)として該当するものをお選びください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 歯科外来診療環境体制加算 1 2. 歯科診療特別対応連携加算 3. 初診料の注1に規定する施設基準 4. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所 5. 在宅療養支援歯科診療所 1 6. 在宅療養支援歯科診療所 2 7. 歯科疾患管理料の総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料に関する施設基準(注11に規定) 8. 歯科疾患在宅療養管理料の在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料に関する施設基準(注4に規定) 9. 地域医療連携体制加算 10. 在宅歯科医療推進加算 11. 上記のいずれもない
---	--

【以下の質問（⑩-1 から⑩-6）のご回答について】

- 前ページ⑩で「4. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を**選んだ方** …質問⑩-1 及び⑩-2 にご回答ください。
 ■前ページ⑩で「4. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を**選ばなかった方** …質問⑩-3 から⑩-6 にご回答ください。

【質問⑩-1から⑩-2は、⑩で「4. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を**選んだ方**にお伺いします。】

⑩-1 貴施設が「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であることを、どのように掲示・周知していますか。
 ※あてはまる番号すべてに○

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 院内のみ掲示している | 2. 院外でも掲示している |
| 3. ホームページで公表している | 4. その他 () |

⑩-2 貴施設における、歯科疾患の重症化予防に資する継続管理に関する研修(口腔機能の管理を含む)、高齢者の心身の特性及び緊急時対応等の適切な研修を修了した歯科医師について該当する項目をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 過去1年間に、居宅療養管理指導を提供した実績がある
2. 地域ケア会議に年1回以上出席している
3. 介護認定審査会の委員の経験を有する
4. 在宅医療に関するサービス担当者会議や病院・介護保険施設等で実施される多職種連携に係る会議等に年1回以上出席している
5. 過去1年間に、栄養サポートチーム等連携加算1または2を算定した実績がある
6. 在宅医療・介護等に関する研修を受講している
7. 過去1年間に、退院時共同指導料1、退院前在宅療養指導管理料、在宅患者連携指導料または在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定がある
8. 認知症対応力向上研修等、認知症に関する研修を受講している
9. 自治体が実施する事業に協力している
10. 学校歯科医等に就任している
11. 過去1年間に、歯科診療特別対応加算または初診時歯科診療導入加算を算定した実績がある

2. 貴施設における歯科診療の実施体制および診療患者等についてお伺いします。

① 職員数をご記入ください。

	常勤	非常勤(常勤換算※)
1) 歯科医師	() 人	() 人
2) 歯科衛生士	() 人	() 人
3) 歯科技工士	() 人	() 人
4) 専門職種(看護師、言語聴覚士、管理栄養士等)	() 人	() 人
↳ 右欄に職種をご記入ください。	(具体的に:)	
5) その他(歯科助手を含む事務職)	() 人	() 人
↳ 右欄に職種をご記入ください。	(具体的に:)	

※常勤換算については、以下の方法で算出してください。また、常勤換算後の職員数は小数点以下第1位までお答えください。
 ■1週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間)
 ■1か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間 × 4)

② 医療機器等の保有台数、保有の有無についてご記入ください。

1) 歯科用ユニット	() 台	12) 頭部X線規格撮影装置(セファロ)	有・無
2) 歯科用ハンドピース※	() 本	13) デジタル印象採得装置	有・無
3) 滅菌器(オートクレーブ等)	() 台	14) 歯科用CAD/CAM装置	有・無
4) 手術用顕微鏡(マイクロスコープ)	() 台	15) 咀嚼能率測定用のグルコース分析装置	有・無
5) ポータブルユニット	() 台	16) 舌圧測定器	有・無
6) ポータブルエンジン(携帯用マイクロモーター)	() 台	17) 歯科用咬合力計	有・無
7) ポータブルエックス線撮影装置	() 台	18) 自動体外式除細動器(AED)	有・無
8) 歯科用吸引装置(口腔外バキューム)	() 台	19) 経皮的酸素飽和度測定器(パルスオキシメーター)	有・無
9) レーザー機器	有・無	20) 酸素供給装置	有・無
10) 歯科パノラマ断層撮影装置	有・無	21) 血圧計	有・無
11) 歯科用3次元エックス線断層撮影装置	有・無	22) 救急蘇生キット	有・無

※初診料の注1の様式2の7(歯科点数表の初診料の注1の施設基準に係る報告書)に示す歯科用ハンドピースを指す

③ 令和3年6月の1か月間における、以下に該当する患者実人数をご記入ください。
 ※該当患者がいない場合は「0(ゼロ)」、わからない場合は「—」をご記入ください。

1) 他の医科医療機関から6月中に紹介を受けた患者数(実人数)	() 人
2) 他の歯科医療機関から6月中に紹介を受けた患者数(実人数)	() 人
3) 妊婦の患者数(実人数)	() 人
4) 初診料を算定した患者数(実人数)	() 人
5) 4)のうち、初診料算定以前に受診歴のある(再初診の)患者数(実人数)	() 人

④ 令和3年6月の1か月間における、患者実人数の年齢別の割合をご記入ください。

※下記 1)～4)の数値の合計が計 100(%)となるようにご記入ください。

※ご記入いただく数値は、おおよその割合で結構です。

1) 15歳未満の患者の割合	約 () %
2) 15歳～65歳未満の患者の割合	約 () %
3) 65歳～75歳未満の患者の割合	約 () %
4) 75歳以上の患者の割合	約 () %

⑤ 週あたりのおおよその診療時間をご記入ください。

※貴院の標榜診療時間に基づきご記入ください。(30分は0.5時間など、時間単位に換算)

() 時間

3. 貴施設における、歯科診療に関する診療料及び管理料の算定状況等についてお伺いします。

① 貴施設では、歯科初診料及び歯科再診料の算定にあたり、院内感染防止対策として別に厚生労働大臣が定める施設基準(歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準)に適合しているものとして届出を行っていますか。行っている場合は「①-1」、行っていない場合は「①-2」をご回答ください。

<p>①-1(届出を行っている場合) 院内感染防止対策について職員が受講している研修のテーマとして該当するものをすべてお選びください。</p>	<p>1. 標準予防策 2. 環境整備 3. 医療機器の洗浄・消毒・滅菌 4. 手指衛生 5. 職業感染防止 6. 感染廃棄物の処理 7. その他(具体的に:)</p>
<p>※初診料の注1の様式2の7(歯科点数表の初診料の注1の施設基準に係る報告書)で報告している研修内容を選んでください。</p>	
<p>①-2(届出を行っていない場合) 届出を行っていない理由としてあてはまる選択肢をすべてお選びください。</p>	<p>1. 施設基準を満たす医療機器を保有していない 2. 院内感染防止対策に係る研修を受講している常勤の歯科医師がいない 3. 当該施設基準があることを知らなかった 4. その他(具体的に:)</p>

② 貴施設では、機器等の滅菌をどのような体制で行っていますか。 ※あてはまる番号すべてに○

<p>1. 施設内の滅菌器(オートクレーブ等)で行っている 2. 外部業者等に依頼して行っている</p>					
<p>前問で「1. 施設内の滅菌器(オートクレーブ等)で行っている」場合は、滅菌の実施回数および実施する主な時間帯についてお答えください。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">滅菌の実施回数</td> <td>1日()回</td> </tr> <tr> <td>実施する主な時間帯 ※あてはまる番号すべてに○</td> <td> <p>1. 1日の診療開始前 2. 午前と午後の診療の間 3. 1日の診療終了後 4. 特に決めておらず随時行う</p> </td> </tr> </table>	滅菌の実施回数	1日()回	実施する主な時間帯 ※あてはまる番号すべてに○	<p>1. 1日の診療開始前 2. 午前と午後の診療の間 3. 1日の診療終了後 4. 特に決めておらず随時行う</p>
滅菌の実施回数	1日()回				
実施する主な時間帯 ※あてはまる番号すべてに○	<p>1. 1日の診療開始前 2. 午前と午後の診療の間 3. 1日の診療終了後 4. 特に決めておらず随時行う</p>				

③ 令和3年6月の1か月間における、 歯科疾患管理料 の以下の算定状況等をお答えください。		
1) 歯科疾患管理料の算定患者数		() 人
2) 歯科疾患管理料を算定した患者のうち、以下の治療・管理のおおよその患者数の割合をお答えください。 ※右記の各項目の数値の合計が計100(%)となるようにご記入ください。 ※重複している場合はのべ患者数の割合をお答えください。その場合は、合計が100%を超えてもかまいません。		
2)-1 歯周病の治療・管理		約 () %
2)-2 う蝕の治療・管理		約 () %
2)-3 口腔機能発達不全症の治療・管理		約 () %
2)-4 口腔機能低下症の治療・管理		約 () %
2)-5 顎関節症の治療・管理		約 () %
2)-6 その他		約 () %
3) 歯科疾患管理料 文書提供加算の算定回数		() 回
4) 歯科疾患管理料の算定にあたり、患者への文書提供を行わないことがある場合はその理由 ※全ての患者に文書提供を行っている場合は回答不要です。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 患者が希望しないため 2. 特に文書が必要な場合のみ提供しているため 3. 手間と診療報酬が見合わないため 4. 患者の窓口負担が増えてしまうため 5. その他(具体的に:)	
5) 1)(歯科疾患管理料の算定患者数)のうち、初診の患者数		() 人
6) 5)のうち、本調査票記入日時点で再診を行っていない患者数		() 人
7) 再診を行わなかった理由別人数	初診時の処置等に対する経過観察中であり、明確な予約日時を決めていなかったため	() 人
	予定している次回再診日が本調査票記入日以降であるため	() 人
	予約日時を決めたが患者が来院しなかったため	() 人
	翌月以降に初診に該当する行為があり、再診料ではなく初診料を算定したため	() 人
8) 歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数		() 回
9) 長期管理加算を算定した患者のうち、以下の治療・管理のおおよその患者数の割合をお答えください。 ※右記の各項目の数値の合計が計100(%)となるようにご記入ください。 ※重複している場合はのべ患者数の割合をお答えください。その場合は、合計が100%を超えてもかまいません。		
9)-1 歯周病の治療・管理		約 () %
9)-2 う蝕の治療・管理		約 () %
9)-3 口腔機能発達不全症の治療・管理		約 () %
9)-4 口腔機能低下症の治療・管理		約 () %
9)-5 顎関節症の治療・管理		約 () %
9)-6 その他		約 () %
10)う蝕や歯周病の重症化予防のために、治療計画に基づき定期的に医療機関を受診している患者の割合		約 () %

④ 令和3年6月の1か月間における小児口腔機能管理料の算定回数等をお答えください。

1) 小児口腔機能管理料の算定回数			() 回					
2) (小児口腔機能管理料の算定回数が1回以上の場合) 小児口腔機能管理料を算定した患者が、算定時に該当していた症状 ※令和3年6月の当該管理料算定患者をランダムに5名(Aさん～Eさん)選び、その各患者について、該当する症状の欄すべてに○をつけてください。 ※5名に満たない場合は、算定患者全員についてご記入ください。			Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	
	離乳完了前	哺乳	先天性歯がある					
口唇、歯槽の形態に異常がある(裂奇形など)								
舌小帯に異常がある								
乳首をしっかり口にふくむことができない								
授乳時間が長すぎる、短すぎる								
離乳		哺乳量・授乳回数が多すぎたり少なすぎたりムラがある等						
		開始しているが首の据わりが確認できない						
		スプーンを舌で押し出す状態がみられる						
構音機能		離乳食が進まない						
		口唇の閉鎖不全がある(安静時に口唇閉鎖を認めない)						
栄養(体格)		やせ、または肥満である						
その他		口腔周囲に過敏がある						
		上記以外の問題点						
離乳完了後		咀嚼機能	歯の萌出に遅れがある					
			機能的因子による歯列・咬合の異常がある					
	咀嚼に影響するう蝕がある							
	強く咬みしめられない							
	咀嚼時間が長すぎる、短すぎる							
	嚥下機能	偏咀嚼がある						
		舌の突出(乳児嚥下の残存)がみられる(離乳完了後)						
	食行動	哺乳量・食べる量、回数が多すぎたり少なすぎたりムラがある等						
	構音機能	構音に障害がある						
		口唇の閉鎖不全がある						
		口腔習癖がある						
		舌小帯に異常がある						
	栄養(体格)	やせ、または肥満である						
	その他	口呼吸がある						
		口蓋扁桃等に肥大がある						
睡眠時のいびきがある								
上記以外の問題点								
3) (小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合) 算定していない理由 ※あてはまる番号すべてに○	1. 該当する患者がいらない 2. 指導・管理の方法がわからない 3. 算定要件がわからない 4. 検査・診察等に時間がかかる 5. 診療報酬が低い 6. その他 (具体的に:)							

⑤ 令和3年6月の1か月間における口腔機能管理料の算定回数等をお答えください。						
1) 口腔機能管理料の算定回数				() 回		
2) (口腔機能管理料の算定回数が1回以上の場合) 口腔機能管理料を算定した患者が、算定時に該当していた症状 ※令和3年6月の当該管理料算定患者をランダムに5名(Fさん～Jさん)選び、その各患者について、該当する症状の欄すべてに○をつけてください。 ※5名に満たない場合は、算定患者全員についてご記入ください。	口腔衛生状態不良	Fさん	Gさん	Hさん	Iさん	Jさん
	口腔乾燥					
	咬合力低下					
	舌口唇運動機能低下					
	低舌圧					
	咀嚼機能低下					
	嚥下機能低下					
3) (口腔機能管理料の算定回数が0回の場合) 算定していない理由 ※あてはまる番号すべてに○	1. 該当する患者がいない 2. 診断に必要な機器を持っていない 3. 指導・管理の方法がわからない 4. 算定要件がわからない 5. 検査・診察等に時間がかかる 6. 診療報酬が低い 7. その他 (具体的に:)					

⑥ 令和3年6月の1か月間における歯科治療時医療管理料の算定回数等をお答えください。	
1) 歯科治療時医療管理料の算定回数	() 回
2) 歯科治療時医療管理料を算定した患者に該当する疾患として多いものを3つまでお答えください。 ※○は3つまで	
1. 高血圧性疾患 2. 虚血性心疾患 3. 不整脈 4. 心不全 5. 脳血管障害 6. 喘息 7. 慢性気管支炎 8. 糖尿病 9. 甲状腺機能低下症 10. 甲状腺機能亢進症 11. 副腎皮質機能不全 12. てんかん 13. 慢性腎臓病 14. その他 ()	

⑦ 令和3年6月の1か月間における以下の算定回数等をお答えください。				
		歯科訪問診療1	歯科訪問診療2	歯科訪問診療3
1) 歯科訪問診療	20分以上	() 回	() 回	() 回
	20分未満	() 回	() 回	() 回
2) 歯周病安定期治療		1 歯以上10歯未満	10 歯以上20歯未満	20 歯以上
	歯周病安定期治療(Ⅰ)	() 回	() 回	() 回
	歯周病安定期治療(Ⅱ)	() 回	() 回	() 回
3) 歯周病重症化予防治療		1 歯以上10歯未満	10 歯以上20歯未満	20 歯以上
		() 回	() 回	() 回
4) 在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料		1 歯以上10歯未満	10 歯以上20歯未満	20 歯以上
		() 回	() 回	() 回
5) 歯科口腔リハビリテーション料1				() 回
6) 歯科疾患在宅療養管理料 在宅総合医療管理加算				() 回
7) フッ化物歯面塗布処置(う蝕多発傾向者の場合)				() 回
8) フッ化物歯面塗布処置(在宅等療養患者の場合)				() 回
9) フッ化物歯面塗布処置(エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合)				() 回
10) 連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数				() 回
11) 診療情報提供料(Ⅰ)・(Ⅱ)・(Ⅲ)(※合計)				() 回
12) 診療情報連携共有料	() 回	13) 抜髄(3根管以上に限る)		() 回
14) 抜歯手術(乳歯を除く)	() 回	15) 新製有床義歯管理料1・2(※合計)		() 回
16) クラウン・ブリッジ維持管理料(歯冠補填物に限る)	() 回	17) 感染根管処置(3根管以上に限る)		() 回
18) う蝕歯即時充填形成	() 回	19) 歯周基本検査(20歯以上に限る)		() 回
20) 歯周精密検査(20歯以上に限る)	() 回	21) 咀嚼能力検査		() 回
22) 咬合圧検査	() 回	23) 舌圧検査		() 回
24) 睡眠時歯科筋電図検査	() 回	25) 小児口唇閉鎖力検査		() 回
26) 象牙質レジンコーティング	() 回	27) 非経口摂取患者口腔粘膜処置		() 回
28) 既製金属冠	() 回	29) 咬合印象		() 回

4. 貴施設における、多職種連携に関する取組等についてお伺いします。

① 令和3年6月の1か月間について、医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等の状況をご記入ください。		
1) 医科医療機関からの患者(外来診療)紹介 ※周術期等口腔機能管理を除く	1. あり	2. なし
2) 医科医療機関からの周術期等口腔機能管理に関する依頼	1. あり	2. なし
3) 医科医療機関での栄養サポートチーム等への参加	1. あり	2. なし
4) 退院時共同指導(Ⅰ)または(Ⅱ)の実施	1. あり	2. なし
5) 医科医療機関への文書による診療情報提供(診療情報提供料、診療情報連携共有料を算定したもの)	1. あり	2. なし
6) 医科医療機関への文書による診療情報提供(診療情報提供料、診療情報連携共有料を算定していないもの)	1. あり	2. なし
7) 外科的処置等の専門的な治療を歯科医療機関へ依頼	1. あり	2. なし
8) 歯科医療機関からの文書による診療情報提供(診療情報提供料を算定したもの)	1. あり	2. なし
9) 歯科医療機関からの文書による診療情報提供(診療情報提供料を算定していないもの)	1. あり	2. なし
10) 歯科医療機関への文書による診療情報提供(診療情報提供料を算定したもの)	1. あり	2. なし
11) 歯科医療機関への文書による診療情報提供(診療情報提供料を算定していないもの)	1. あり	2. なし

② 令和3年6月の1か月間について、介護保険施設等との連携状況をご記入ください。		
1) 介護医療院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設で実施される栄養サポートチーム・ミールラウンド等への参加	1. あり	2. なし
2) 居住系高齢者施設等(サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症グループホーム等)の施設で実施される栄養サポートチーム・ミールラウンド等への参加	1. あり	2. なし
3) 口腔衛生管理加算(Ⅰ)、(Ⅱ)を算定している施設等との連携	1. あり	2. なし
4) 協力歯科医療機関となっている介護保険施設等	1. あり	2. なし
5) 地域包括支援センターとの患者情報共有	1. あり	2. なし

③ 地域における在宅医療・介護を推進するために、貴施設が取り組んでいる内容をご記入ください。 ※「1」から「7」は、あてはまる番号すべてに○		
1. 個別の患者に関する他の医療機関との情報共有 2. 個別の患者に関するケアマネジャー等の介護関係者との情報共有 3. ネットワークを有する他の医療機関・介護関係者等との定期的な情報交換 4. 地域の医療・介護関係者等が参画する会議(地域ケア会議、研修会等)への参加 5. 地域歯科保健活動への参加 6. お薬手帳を用いた患者情報の共有 7. その他(具体的に:) 8. 特に行っている取組はない		

5. 新型コロナウイルス感染症に伴う医療提供状況等の変化についてお伺いします。

①次に挙げる各項目について、令和2年4月に発出された一回目の緊急事態宣言期間中(令和2年4月7日～5月6日)、一度でも、新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化があったか、ご回答ください。(〇はそれぞれ1つ)

1) 臨時休診	1. 実施した ↳ 一回目の緊急事態宣言期間中の臨時休診日数()日	2. 実施しなかった
2) 診療時間の短縮	1. 実施した	2. 実施しなかった
3) 予約なしの患者の受け入れをしない完全予約制への変更	1. 実施した	2. 実施しなかった
4) 受付患者数の制限	1. 実施した ↳ 一回目の緊急事態宣言前の()割程度まで制限	2. 実施しなかった

②次に挙げる各項目について、令和2年4月に発出された一回目の緊急事態宣言以降、現在に至るまで(令和2年4月7日～)、新型コロナウイルス感染症に起因する医療提供状況の変化として該当するものをご回答ください。(〇はそれぞれ1つ)

1) 受診間隔を延長した患者	1. 非常にたくさんいた	2. たくさんいた	3. 多少いた
	4. あまりいなかった	5. 全くいなかった	
2) 緊急事態宣言前は定期的に受診していたが、来院しなくなった患者	1. 非常にたくさんいた	2. たくさんいた	3. 多少いた
	4. あまりいなかった	5. 全くいなかった	
3) 定期受診が行えず重症化した患者	1. 非常にたくさんいた	2. たくさんいた	3. 多少いた
	4. あまりいなかった	5. 全くいなかった	

③診療した患者数、診療報酬明細書の件数についてお伺いします。

		1) 初診の患者数	2) 再診の延べ患者数	3) 診療報酬明細書の件数
令和元年 (平成31年)	4月1か月間	()人	延べ()人	()件
	5月1か月間	()人	延べ()人	()件
	6月1か月間	()人	延べ()人	()件
令和2年	4月1か月間	()人	延べ()人	()件
	5月1か月間	()人	延べ()人	()件
	6月1か月間	()人	延べ()人	()件
令和3年	4月1か月間	()人	延べ()人	()件
	5月1か月間	()人	延べ()人	()件
	6月1か月間	()人	延べ()人	()件

④新型コロナウイルス感染症に係る対策を行い、業務的負担が増えましたか。※〇は1つだけ

1. 非常に増えた	2. 増えた	3. 多少増えた	4. 全く増えなかった
-----------	--------	----------	-------------

⑤新型コロナウイルス感染症に係る対策を行い、経済的負担が増えましたか。※〇は1つだけ

1. 非常に増えた	2. 増えた	3. 多少増えた	4. 全く増えなかった
-----------	--------	----------	-------------

⑥接触感染や飛沫感染に対する対策として、**現在実施中の全ての対策をA欄**にお答えください。
次に、**Aのうち、新型コロナウイルス感染症が流行する前から取り組んでいた対策をB欄**にお答えください。
※それぞれ、あてはまる番号すべてに○

A,B両方の間にお答えください。 →	A.新型コロナウイルス感染症対策を含めた 現在実施中の全ての対策	B.Aのうち、 新型コロナウイルス感染症が流行する前から取り組んでいた対策
1. 患者に対して、来院時に体温測定を実施している		
2. 患者に対して、手指消毒を依頼している		
3. 患者に対して、治療前後の時間のマスク装着を依頼している		
4. 患者に対して、来院時にその日の体調等問診をしている		
5. 患者に対して、治療前に消毒薬で含嗽を依頼している		
6. スタッフの体調を報告させるようにしている		
7. スタッフにサージカルマスク、ゴーグルやフェイスシールドを常時装着させている		
8. 定期的な窓開けなどによる換気をしている		
9. 空気清浄機等を使用している		
10. 待合室・診療室の遊具、雑誌・本などを撤去している		
11. 院内の消毒作業を徹底している（受付等患者がふれた物等）		
12. 使用するユニット数をしぼり、診療している		
13. 診療前後でユニット周囲の消毒を行っている。		
14. 医療器具（ハンドピースを含む。）の消毒、滅菌等を実施している。		
15. 患者ごとの診療間隔を開けるようにしている		
16. 口腔外バキュームを使用している		
17. 治療時にラバーダム防湿を活用している		
18. その他（ ）		

⑦ **その他、新型コロナウイルス感染症や現在までに発出された3回の緊急事態宣言に伴う受療行動の変化や患者への健康影響等についてお答えください。**※あてはまる番号すべてに○

1. 他院に通院していた患者の受診が増えた
2. 受診1回あたりの治療行為が増えた
3. 予約なしの急患が減った
4. 小児の患者の来院が減った
5. 小児の患者の来院が増えた
6. 在宅勤務の影響等で働き世代の患者が減った
7. 在宅勤務の影響等で働き世代の患者が増えた
8. 高齢者の患者の来院が減った
9. 高齢者の患者の来院が増えた
10. 訪問歯科診療を希望する患者（家族・施設職員等）が増えた
11. 訪問歯科診療を断る患者（家族・施設職員等）が増えた
12. その他（ ）

⑧ **新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い実施されている、自治体等が実施する以下の新型コロナウイルス感染症に関する事業に協力しましたか。** ※あてはまる番号すべてに○

1. PCR検査のための鼻腔・咽頭拭い液の採取等
2. ワクチン接種の実施
3. 上記事業へ協力するための研修（e-Learningを含む）を受けた

6. 明細書（公費負担医療を含む。）の無料発行についてお伺いします。

① 貴施設の明細書の発行状況として、自己負担のある患者、ない患者のそれぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。なお、明細書発行体制等加算を算定し、それ以外の費用を徴収していない場合は「無料で発行している」とお答えください。 ※自己負担のある患者、自己負担のない患者それぞれについて○は1つだけ

自己負担のある患者	自己負担のない患者	
01	01	01. 原則として全患者に無料で発行している
02	02	02. 「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ、無料で発行している
03	03	03. 「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ、有料で発行している
04	04	04. 「正当な理由」の届出をし、明細書の発行は行っていない
05	05	05. 明細書の無料発行が義務付けられていないため、明細書の発行は行っていない

▶ (①で「02」、「03」、「04」を選択した方にお伺いします。)

②-1 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。 ※○は1つだけ

1. 明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため
2. 自動入金機を使用しており、自動入金機での明細書発行を行うには、改修が必要であるため

②-2 貴施設が該当する「正当な理由」についてはいつまでに対応する予定ですか。 ※○は1つだけ

1. 令和3年9月末まで
2. 令和3年10月～12月
3. 令和4年3月末まで
4. その他（具体的に：)
5. 未定

②-3 全患者に明細書を無料で発行する場合にお困りになる内容をお答えください。 ※○は1つだけ

1. 初期費用がかかる
2. 運用経費がかかる
3. 明細書発行に伴って業務負担が増加する
4. 会計等の患者の待ち時間が長くなる
5. 特にない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和3年8月31日(火)までに返信用封筒をご使用の上投函ください（切手不要）。

問2. かかりつけ歯科医*についてお伺いします。

※かかりつけ歯科医とは、安全・安心な歯科医療の提供のみならず医療・介護に係る幅広い知識と見識を備え、地域住民の生涯に亘る口腔機能の維持・向上をめざし、地域医療の一翼を担う者としてその責任を果たすことができる歯科医師のことを言います。

①あなたは、上記の説明にある「かかりつけ歯科医」という言葉をご存知でしたか。(○は1つ)

1. 内容まで知っていた 2. 内容は知らないが聞いたことはある 3. 知らなかった

②あなたは、かかりつけ歯科医を決めていますか。(○は1つ)

1. 決めている

2. 決めていない

②-1 本調査票をお渡しした歯科診療所の歯科医師は、あなたにとってのかかりつけ歯科医ですか。
(○は1つ)

1. かかりつけ歯科医である
2. かかりつけ歯科医ではない
3. 今後、かかりつけ歯科医にするつもりである

②-2 かかりつけ歯科医を決めていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 歯科診療所にかかることがあまりないから
2. その都度、適切な歯科診療所を選ぶ方がよいと思うから
3. どのような歯科医師をかかりつけ歯科医として選んだらよいかわからないから
4. かかりつけ歯科医として求める機能を持つ歯科医師がないから
5. かかりつけ歯科医をもつ必要性を感じないから
6. その他 (具体的に：)

③あなたが「かかりつけ歯科医」に求めるものは何ですか。(○はいくつでも)

1. これまでにかかった病気や家族背景等を把握し、適切な歯科治療を行ってくれる
2. 必要に応じ他の医療機関を紹介し、必要な診療につなげてくれる
3. 夜間や休日であっても、痛みが出た場合等に連絡できる
4. 患者のライフステージに応じた歯科診療、歯科疾患の継続管理を行っている
5. セルフケアの技術、知識について具体的に指導してくれる
6. 生活習慣の改善に関わる助言や指導をしてくれる
7. 新しい技術、歯科材料等を積極的に導入している
8. 機器の適切な滅菌・洗浄など、感染対策を徹底している
9. 複数の歯科医師が勤務しており、十分な症例検討を行える
10. 他の医科診療所や病院と連携してくれる
11. 認定医・専門医資格を取得している
12. 学会への参加等、積極的な自己研鑽を積んでいる
13. その他 (具体的に：)

④本日受診した歯科診療所を選んだ理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. かかりつけの歯科診療所だから
2. 信頼している歯科医師がいるから
3. むし歯や歯周病の定期的な管理をしてくれるから
4. 自宅から近い場所にあるから
5. 職場（学校等）から近い場所にあるから
6. 受診しやすい時間に診療しているから
7. 待ち時間が少ないから
8. 説明がわかりやすいから
9. 歯科医師や職員の感じがよいから（雰囲気が良いから）
10. 清潔感があり、感染対策をしっかりしていると思うから
11. 公的な認定や指定を受けている歯科診療所だから（具体的に： _____）
12. 必要に応じて家族等にも説明をしてくれるから
13. 他の医療機関とも連携を図り診療を行っているから
14. 地域保健活動へ参加しているから
15. 小児から高齢者まで診療してくれるから
16. その他（具体的に： _____）

⑤本日受診した歯科診療所に次回受診する日時は決まっていますか。(〇は1つ)

1. 決まっている
2. 決まっていないが後日決める
3. 当面受診する予定はない

⑥「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」という歯科診療所があることを知っていましたか。(〇は1つ)

※「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」とは、患者さんにとってより安全で安心できる歯科医療の環境の整備、在宅医療、他の医療機関などと連携して、定期的、継続的に患者さんの口腔管理などを積極的に行っている歯科診療所で、一部の継続的な治療に関して、診療報酬で高く評価をしています。

1. 知っていた
2. 知らなかった

問3. 新型コロナウイルス感染症の影響による受療行動の変化等についてお伺いします。

①新型コロナウイルス感染症の影響により、一回目の緊急事態宣言の発出以降、現在に至るまで、あなたの歯科診療所への受診に関する行動に変化はありましたか。(○は1つ)

1. 受診に関する行動の変化があった 2. 受診に関する行動の変化はなかった(→⑧へ)

≪①で「1. 受診に関する行動の変化があった」と答えた場合≫

②どのような変化がありましたか。(○はいくつでも)

1. 受診する歯科診療所を変えた
 2. 受診頻度が減った
 3. 受診頻度が増えた
 4. 受診しなかったが我慢した
 5. その他(具体的に:) (→⑧へ)

※ 以下の③～⑧は前問②で答えた選択肢に応じてご回答ください。

≪③は、②で「1. 受診する歯科診療所を変えた」と答えた場合にご回答ください≫

③ なぜ、歯科診療所を変更しましたか。(○はいくつでも)

1. 在宅勤務(休校、自宅学習等)の頻度が増え、自宅近くの診療所に通うことになったため
 2. 通っていた診療所が診療時間等の制限を行い、受診しにくくなったため
 3. ホームページ等を見て、感染対策をしっかりと行っている診療所に変えようと思ったため
 4. その他(具体的に:)

≪④は、②で「2. 受診頻度が減った」と答えた場合にご回答ください≫

④ 受診頻度が減った理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 痛みがあるなど緊急を要する状態ではなかったため
 2. 歯科診療所が休診していたため
 3. 歯科診療所が通常とは異なり予約制限等を行っていたため
 4. 担当医に受診を延期するよう促されたため
 5. 外出を控えようと思ったため
 6. その他(具体的に:)

≪⑤は、②で「3. 受診頻度が増えた」と答えた場合にご回答ください≫

⑤ 受診頻度が増えた理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 在宅勤務(休校、自宅学習等)になりスケジュールを管理しやすくなったため
 2. 診療所の予約が取りやすくなったため
 3. 口の中を清潔に保つことは新型コロナウイルス感染予防に有効だと思ったため
 4. その他(具体的に:)

《⑥・⑦は、②で「4. 受診したかったが我慢した」と答えた場合にご回答ください》

⑥ 受診を我慢して、どのように対処しましたか。(〇は1つ)

1. 市販薬を飲んで痛みをおさえた
2. 何もしなかった
3. その他(具体的に: _____)



⑦ 受診を我慢した結果、どうなりましたか。(〇は1つ)

1. 症状が治まった
2. 症状が悪化した
3. 症状は変わらなかった

《全ての方にお伺いします》

⑧新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、歯科診療所に求めることは何ですか。

(〇はいくつでも)

1. オンライン診療(歯磨き指導、緊急対応法、口腔機能評価など)の実施
2. (新型コロナウイルス感染症の)感染対策の徹底
3. 電子処方箋の発行
4. キャッシュレス決済
5. その他(具体的に: _____)

問4. 本日の明細書の受取状況と、明細書の受取に対するお考えについてお伺いします。

「明細書」とは、医療の透明化や患者さんへの情報提供を積極的に推進していくために、**使用した薬剤の名称や行われた検査の名称などが記載された「患者さんの受診した医療の内容がわかるもの」として発行されるものであり、「領収書」とは異なります。**

① 本日の診療についての明細書の内容を確認しましたか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. きちんと確認した | 2. おおまかに確認した |
| 3. ほとんど確認しなかった | 4. まったく確認しなかった |
| 5. 「必要ない」と断ったため発行されなかった | |
| 6. 発行されなかった | |

①-1【質問①で確認しなかった方、または断った方】「明細書」を確認しなかった、または断ったのはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に： _____）

② 医療機関での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか(本日の受付や会計時に知った場合も含みます)。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

③ 医療機関を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかという必要だと思う |
| 3. どちらかという必要ないと思う | 4. 必要ないと思う |

④ 「明細書」の内容を確認することで、どのようなことに役立つと思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

1) 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
2) 医療費の内訳がわかりやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
3) 会計窓口で医療費について質問がしやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
4) 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
5) 医療機関への安心感・信頼感が高まる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
6) その他	具体的に： _____		

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。

令和3年8月31日(火)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

問2. かかりつけ歯科医*についてお伺いします。

※かかりつけ歯科医とは、安全・安心な歯科医療の提供のみならず医療・介護に係る幅広い知識と見識を備え、地域住民の生涯に亘る口腔機能の維持・向上をめざし、地域医療の一翼を担う者としてその責任を果たすことができる歯科医師のことを言います。

①あなたは、上記の説明にある「かかりつけ歯科医」という言葉をご存知でしたか。(○は1つ)

1. 内容まで知っていた 2. 内容は知らないが聞いたことはある 3. 知らなかった

②あなたは、かかりつけ歯科医を決めていますか。(○は1つ)

1. 決めている

2. 決めていない

②-1 本調査票をお渡しした歯科診療所の歯科医師は、あなたにとってのかかりつけ歯科医ですか。
(○は1つ)

1. かかりつけ歯科医である
2. かかりつけ歯科医ではない
3. 今後、かかりつけ歯科医にするつもりである

②-2 かかりつけ歯科医を決めていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 歯科診療所にかかることがあまりないから
2. その都度、適切な歯科診療所を選ぶ方がよいと思うから
3. どのような歯科医師をかかりつけ歯科医として選んだらよいかわからないから
4. かかりつけ歯科医として求める機能を持つ歯科医師がないから
5. かかりつけ歯科医をもつ必要性を感じないから
6. その他 (具体的に：)

③あなたが「かかりつけ歯科医」に求めるものは何ですか。(○はいくつでも)

1. これまでにかかった病気や家族背景等を把握し、適切な歯科治療を行ってくれる
2. 必要に応じ他の医療機関を紹介し、必要な診療につなげてくれる
3. 夜間や休日であっても、痛みが出た場合等に連絡できる
4. 患者のライフステージに応じた歯科診療、歯科疾患の継続管理を行っている
5. セルフケアの技術、知識について具体的に指導してくれる
6. 生活習慣の改善に関わる助言や指導をしてくれる
7. 新しい技術、歯科材料等を積極的に導入している
8. 機器の適切な滅菌・洗浄など、感染対策を徹底している
9. 複数の歯科医師が勤務しており、十分な症例検討を行える
10. 他の医科診療所や病院と連携してくれる
11. 認定医・専門医資格を取得している
12. 学会への参加等、積極的な自己研鑽を積んでいる
13. その他 (具体的に：)

④本日受診した歯科診療所を選んだ理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. かかりつけの歯科診療所だから
2. 信頼している歯科医師がいるから
3. むし歯や歯周病の定期的な管理をしてくれるから
4. 自宅から近い場所にあるから
5. 職場（学校等）から近い場所にあるから
6. 受診しやすい時間に診療しているから
7. 待ち時間が少ないから
8. 説明がわかりやすいから
9. 歯科医師や職員の感じがよいから（雰囲気が良いから）
10. 清潔感があり、感染対策をしっかりしていると思うから
11. 公的な認定や指定を受けている歯科診療所だから（具体的に： _____）
12. 必要に応じて家族等にも説明をしてくれるから
13. 他の医療機関とも連携を図り診療を行っているから
14. 地域保健活動へ参加しているから
15. 小児から高齢者まで診療してくれるから
16. その他（具体的に： _____）

⑤本日受診した歯科診療所に次回受診する日時は決まっていますか。(〇は1つ)

1. 決まっている
2. 決まっていないが後日決める
3. 当面受診する予定はない

⑥「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」という歯科診療所があることを知っていましたか。(〇は1つ)

※「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」とは、患者さんにとってより安全で安心できる歯科医療の環境の整備、在宅医療、他の医療機関などと連携して、定期的、継続的に患者さんの口腔管理などを積極的に行っている歯科診療所で、一部の継続的な治療に関して、診療報酬で高く評価をしています。

1. 知っていた
2. 知らなかった

問3. 新型コロナウイルス感染症の影響による受療行動の変化等についてお伺いします。

①新型コロナウイルス感染症の影響により、一回目の緊急事態宣言の発出以降、現在に至るまで、あなたの歯科診療所への受診に関する行動に変化はありましたか。(○は1つ)

1. 受診に関する行動の変化があった 2. 受診に関する行動の変化はなかった(→⑧へ)

≪①で「1. 受診に関する行動の変化があった」と答えた場合≫

②どのような変化がありましたか。(○はいくつでも)

1. 受診する歯科診療所を変えた
 2. 受診頻度が減った
 3. 受診頻度が増えた
 4. 受診しなかったが我慢した
 5. その他(具体的に:) (→⑧へ)

※ 以下の③～⑧は前問②で答えた選択肢に応じてご回答ください。

≪③は、②で「1. 受診する歯科診療所を変えた」と答えた場合にご回答ください≫

③ なぜ、歯科診療所を変更しましたか。(○はいくつでも)

1. 在宅勤務(休校、自宅学習等)の頻度が増え、自宅近くの診療所に通うことになったため
 2. 通っていた診療所が診療時間等の制限を行い、受診しにくくなったため
 3. ホームページ等を見て、感染対策をしっかりと行っている診療所に変えようと思ったため
 4. その他(具体的に:)

≪④は、②で「2. 受診頻度が減った」と答えた場合にご回答ください≫

④ 受診頻度が減った理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 痛みがあるなど緊急を要する状態ではなかったため
 2. 歯科診療所が休診していたため
 3. 歯科診療所が通常とは異なり予約制限等を行っていたため
 4. 担当医に受診を延期するよう促されたため
 5. 外出を控えようと思ったため
 6. その他(具体的に:)

≪⑤は、②で「3. 受診頻度が増えた」と答えた場合にご回答ください≫

⑤ 受診頻度が増えた理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 在宅勤務(休校、自宅学習等)になりスケジュールを管理しやすくなったため
 2. 診療所の予約が取りやすかったため
 3. 口の中を清潔に保つことは新型コロナウイルス感染予防に有効だと思ったため
 4. その他(具体的に:)

《⑥・⑦は、②で「4. 受診したかったが我慢した」と答えた場合にご回答ください》

⑥ 受診を我慢して、どのように対処しましたか。(○は1つ)

1. 市販薬を飲んで痛みをおさえた
2. 何もしなかった
3. その他(具体的に: _____)



⑦ 受診を我慢した結果、どうになりましたか。(○は1つ)

1. 症状が治まった
2. 症状が悪化した
3. 症状は変わらなかった

《全ての方にお伺いします》

⑧新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、歯科診療所に求めることは何ですか。

(○はいくつでも)

1. オンライン診療(歯磨き指導、緊急対応法、口腔機能評価など)の実施
2. (新型コロナウイルス感染症の)感染対策の徹底
3. 電子処方箋の発行
4. キャッシュレス決済
5. その他(具体的に: _____)

問4. 本日の明細書の受取状況と、明細書の受取に対するお考えについてお伺いします。

「明細書」とは、医療の透明化や患者さんへの情報提供を積極的に推進していくために、**使用した薬剤の名称や行われた検査の名称などが記載された「患者さんの受診した医療の内容がわかるもの」として発行されるものであり、「領収書」とは異なります。**

① 本日の診療についての明細書の内容を確認しましたか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. きちんと確認した | 2. おおまかに確認した |
| 3. ほとんど確認しなかった | 4. まったく確認しなかった |
| 5. 「必要ない」と断ったため発行されなかった | |
| 6. 発行されなかった | |

①-1【質問①で確認しなかった方、または断った方】「明細書」を確認しなかった、または断ったのはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に： _____）

② 医療機関での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか(本日の受付や会計時に知った場合も含みます)。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

③ 医療機関を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかというとも必要だと思う |
| 3. どちらかというとも必要ないと思う | 4. 必要ないと思う |

④ 「明細書」の内容を確認することで、どのようなことに役立つと思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

1) 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
2) 医療費の内訳がわかりやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
3) 会計窓口で医療費について質問がしやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
4) 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
5) 医療機関への安心感・信頼感が高まる	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
6) その他	具体的に： _____		

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。

令和3年8月31日(火)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。